

授業科目名(英文名) / Course title	国家と市民 / State and Citizen				
担当教員(所属) / Instructor	青木 一益(経済学部経営法学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(発達), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	103102	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>本講座では、社会科学としての「政治学」の基礎概念や理論体系などを学ぶことにより、現代社会に生起する様々な政治現象や政策的課題に対して、より体系的かつ分析的にアプローチすることを企図しています。</p> <p>講義では、まず、国家、権力、イデオロギー、民主主義(デモクラシー)、政党、議会、官僚制、利益集団といった、今日の「政治学」を知る上で欠くことのできない諸用語・概念を解説します。また、日々深化するグローバリゼーションとの関連において、その境界領域の流動化が指摘される国内政治と国際政治の関係性の如何や、自由貿易、安全保障、地球環境問題といった現実の政策課題を捉える際の視座・理論について論議します。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<p>今日の政治や政策をめぐるダイナミクス(動態)のあり方とそれを規定するものに何があるのかを、「政治学」が提供する視座の下で学習することにより、巷にあふれる「政治的なもの」により体系的かつ分析的にアプローチできるようになることを目指します。日々報道される政治的・政策的な事象を単に知識として知るだけでなく、それを理解した上で自分自身の見立てや立ち位置の確認・醸成が批判的(クリティカル)に行えるようになることが、本講座の学習効果として期待されます。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<p>以下にあげる各項目について、基本的には講義形式の授業を行います。各項目は下記に掲載の教科書(永山他『政治学への扉』)の構成・章立てに対応しています。ただし、時事問題を取り上げる必要性や履修者の学習進度などに応じて、項目の組み替えや授業時間の配分に変更が生じることがある点に、あらかじめ留意してください。</p>					
<p>第1回 イントロダクション: 「政治」現象とはなにか  第2回 国家、権力、権威  第3回 イデオロギー: リベラリズムと民主主義  第4回 政治体制(民主主義体制)の多様性  第5回 小括と質疑応答  第6回 執政部: 大統領制と議院内閣制  第7回 選挙制度と投票行動  第8回 政党システム  第9回 議会と立法過程  第10回 官僚制と官僚政治  第11回 利益集団・圧力団体と政治過程  第12回 地方政治と地方自治  第13回 国際政治をめぐる考え方や理論  第14回 グローバリゼーションの進展と国際政治の課題  第15回 総括と質疑応答など</p>					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
<p>・事前学修: 下記の教科書の該当箇所を読了の上、毎回の授業に出席・参加してください。</p> <p>・事後学修: 各回の講義内容を自らノートにとり、その内容について教科書や参考書の該当箇所を読んで復習し、整理しておくことが必要となります。</p>					
キーワード / Keywords					
履修上の注意 / Notices	履修にあたり予備知識などは必要ではありませんが、時事問題を取り上げる本講座の性格上、新聞やテレビなどの報道に常に接していないと、講義内容が理解しづらい点に留意してください。				

教科書・参考書等 / Textbooks	<p>教科書： ・永山博之他『政治学への扉』（一藝社、2016年）</p> <p>参考書： ・堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識 [第3版]』（一藝社、2014年）</p>
成績評価の方法 / Evaluation	<p>基本的には、学期末に筆記試験もしくはレポートの提出を予定しています。課題や形式などの詳細については、適宜、授業中に指示することとします。</p>
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	地球と環境 / The Earth and Its Environment				
担当教員(所属) / Instructor	張 勁(理学部生物圏環境科学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(発達), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	103104	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>地球温暖化が進行する中、巨大台風・ハリケーン、集中豪雨、洪水、豪雪などの異常気象が高い頻度で発生し世界中に被害をもたらしている。その現状把握と問題解決には、海洋の役割が大きい。</p> <p>この授業は、これら地球環境の諸現象を正しく理解するための海洋に関する基礎知識を取得し、地球システム中での海洋循環の役割を正確に知ることを目標としている。具体的に、最新の観測事例・結果を紹介するとともに、海洋の科学的成り立ちと、大気圏・生物圏・地圏との相互作用を通して変動することへの理解を深め、海洋環境における物質の挙動や循環を学んでいく。さらに身近な地球環境問題を通して、持続的発展に立脚した人間と海洋環境の関係について考察することも学ぶ。</p> <p>更に、富山湾は水深1000mを超え、背後の陸域には標高3000m級の北アルプス立山連峰が聳えている。僅か数十<sup>キロ</sup>の距離で4000m以上の落差をもつ富山は、世界的にも非常にユニークな地形を有し、授業では北半球を網羅する地球環境の縮図とも言える富山の環境も学んでゆく。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<p>授業の履修と試験の合格により、学生の皆さんが</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地球システム中での海洋循環の役割を正確に理解でき、海洋環境の評価や保全に関する基礎知識を取得する。</li> <li>2. 最新の観測事例と分析手法を学ぶことによって、専門技術が社会および自然に与える影響・効果を理解し、学識者として社会及び自然に対する責任を自覚できる能力を身につける。</li> <li>3. 海洋環境や地域環境に関する研究・開発の結果を紹介することによって、それらの現状・問題点、あるいは社会の要求について多面的に考える能力(問題発見・資料収集・総合判断・改善策提案など)を高める。</li> </ol>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス; 「地球の“エアコン” - 海洋大循環」</li> <li>2. 海洋生物の世界 その1: 「めぐる生命の輪 - 深海に潜む不思議な生きものたち -」</li> <li>3. 海洋生物の世界 その2: 「日本海的环境とホタルイカ」</li> <li>4. 海洋生物の世界 その3: 「悪夢のグローバル・フィッシュ - 一匹の魚から始まる」</li> <li>5. 海を探查する その1: 「魔の海から旅立ち」 / 夢のエネルギーメタンハイドレート</li> <li>6. 海を探查する その2: 「宇宙より遠い - 深海6500mへ」</li> <li>7. 高低差4000mのめぐみ その1: 「富山、高低差4000mの環境と魚たち」</li> <li>8. 小まとめ; 深海 暗黒と静寂の世界? / 「最後の秘境」</li> <li>9. 地球と共に生きよう その1: 「波 驚異のパワ -」</li> <li>10. 変わりゆく地球環境 その1: 「サイエンス・オブ・トゥモロー」 / 「自然の営みに学ぼう」</li> <li>11. 高低差4000mのめぐみ その2: 「海の中までアルプスがづく」 / 「木一本ぶり千本 - 海底にある“泉”」</li> <li>12. 変わりゆく地球環境 その2: 「氷の不思議」</li> <li>13. 地球と共に生きよう その2: 「不都合な真実」</li> <li>14. 報道再前線からのメッセージ</li> <li>15. 地球と共に生きよう その3: 「不都合な真実(続編)」・まとめ・授業アンケートとレポート説明</li> </ol>					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
授業後必ず事後学修を行う。					
キーワード / Keywords	地球・環境・海洋・富山・高低差4000m・循環・温暖化・共生				
履修上の注意 / Notices	特になし				
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書の使用は無いが、参考書・参考資料等を随時推薦する。				
成績評価の方法 / Evaluation	受講態度(40%)、授業に対する意欲および小テスト(30%)、レポート1回(30%)				
関連科目 / Related course	特になし				
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes	教員の指示とおり参考書・インターネット等をもとに事前に予習すること				

授業科目名(英文名) / Course title	自然と情報の数理 / Mathematical Principles in Natural Sciences and Intelligence				
担当教員(所属) / Instructor	菊池 万里(理学部数学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(発達), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	103105	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	菊池 万里(理学部 B241 kikuchi@sci.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	菊池 万里(金曜日10:30~12:00)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>本講義のねらいは、高等学校等で学んだ基本的な数学に関する事項を、現代数学の視点でとらえ直して解説することにある。高等学校までの数学のカリキュラムでは、数学的・理論的な展開が避けられる傾向にあり、計算の仕方が重視されている。本講義では、高校までの数学との接続も考慮しながら、「集合と写像」「論理の基礎」など、数学の考え方の基礎、微分積分学と線形代数学の初歩、確率統計の基本事項などを、現代数学の視点に立って解説する。</p> <p>数学の学習において最も大切なことは、「自分自身で考え、自分自身の意思で取り組む姿勢」である。漫然と講義を聴くだけでは、決して数学は身に付かない。自ら積極的に取り組むことが大切である。そこで本講義では、各事項の解説だけでなく、それらに関する問題演習の時間を設ける。</p> <p>本講義で取り上げる事項は、その多くが高等学校等で学習するものであり、大学生であれば(文系の学生であっても)充分理解できるものである。それらを現代数学の視点に立って、これまでとは異なった捉え方で解説する。高等学校等で学習した数学に苦手意識を持っている学生の受講を歓迎する。</p>					
達成目標 / Course Goals					
本講義では、下記の各項目を達成目標とする：					
<p>(1) 集合と写像、論理など基礎的な概念を理解できる。</p> <p>(2) 数列と極限、微分積分法の初歩を理解し、計算できる。</p> <p>(3) 平面ベクトルと直線、行列と行列式などを理解し、計算できる。</p> <p>(4) 確率・統計の初歩を理解し、計算できる。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
次の計画に基づき、授業を進める。					
<p>第1回 集合</p> <p>第2回 写像</p> <p>第3回 論理と演算</p> <p>第4回 複素数と複素平面</p> <p>第5回 問題演習</p> <p>第6回 数列と極限</p> <p>第7回 初等関数</p> <p>第8回 微分積分法</p> <p>第9回 微分積分法の補足と問題演習</p> <p>第10回 平面ベクトルと直線</p> <p>第11回 行列と行列式</p> <p>第12回 問題演習</p> <p>第13回 確率・統計(その1)</p> <p>第14回 確率・統計(その2)</p> <p>第15回 問題演習</p>					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
この授業で使用する教科書には、例題・類題・発展問題等、多くの問題が収録されている。授業の際に触れることのできなかつた問題については、受講者が各自で取り組むこと。すべての問題に取り組むためには、相当の時間が必要になると思われる。時間のあるときにまとめて取り組むのではなく、授業の進度に遅れないように、毎回の授業に合わせて問題に取り組むことが大切である。					
キーワード / Keywords	文系の数学、集合、写像、複素数、数列、極限、ベクトル、行列、確率・統計。				

履修上の注意 / Notices	本講義は、人文学部・人間発達科学部の学生の受講を前提にした講義であり、理学部・工学部などの理系の学部の学生は、本講義内容の多くを既に理解してるはずである。従って、理学部・工学部の学生が受講した場合は、他の学部の学生とは別の方法で成績評価を行う。理学部・工学部の学部の学生が受講する場合、「勉強しなくても単位の取れる講義」ではないことを充分承知した上で受講すること。
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書：藤田岳彦・石村直之・藤岡敦共著 Primary 大学ノート「基礎数学」（実教出版，2007） ISBN 987-4-407-31080-1 税込1,028円
成績評価の方法 / Evaluation	演習問題の解答、及び、適宜課されるレポートの内容（15～30%）、期末試験の成績（70～85%割）を総合して評価する。
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	東洋の歴史と社会 / Asian History			
担当教員(所属) / Instructor	鈴木 信昭(人文学部)			
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目			
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目	
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)	
時間割コード / Registration Code	103202	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年	単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	鈴木 信昭(nsuzuki@hmt.u-toyama.ac.jp)			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	鈴木 信昭(水曜日 12時~14時(第2水曜日を除く))			
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals			
<p>本授業では、朝鮮半島の歴史、特に19世紀以降にどのように推移していったのか、具体的な事実を説明しながら講義していきたい。</p> <p>朝鮮半島の近代の歴史については、結果的に日本に併合されて、「植民地」となってしまったということは知っているも、なぜ併合されなければならなかったのか、その過程については、ほとんど教えられる機会がなかったと思われる。</p> <p>そのため本講義では、朝鮮半島の歴史のみを語るだけではなく、清国や日本との関係がどのようなものであったのか明らかにしながら、併合に至るまでの歴史を考察していきたい。</p>				
達成目標 / Course Goals				
東アジアにおける朝鮮半島の位置づけを説明することができる。				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の案内</li> <li>2. 18世紀までの朝鮮半島の歴史</li> <li>3. 19世紀の朝鮮(王統と統治機構)</li> <li>4. 朝鮮王朝の対外関係(1860年代まで)</li> <li>5. 1876年日朝修好条規の締結</li> <li>6. 清国の動向</li> <li>7. 壬午軍乱と甲申政変</li> <li>8. 中間のまとめと解説</li> <li>9. 中国的近代化を目指す</li> <li>10. 日清戦争</li> <li>11. 三国干渉と朝鮮の混乱</li> <li>12. 日露戦争</li> <li>13. 日韓併合</li> <li>14. その後の朝鮮半島</li> <li>15. 期末のまとめと解説</li> </ol>				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class				
出席する前に、前回の授業を復習してください。				
キーワード / Keywords	朝鮮史、日本史			
履修上の注意 / Notices	日本史、中国史、朝鮮史			
教科書・参考書等 / Textbooks	テキストはありません。参考文献については適宜授業で案内します。			
成績評価の方法 / Evaluation	中間のまとめ試験(50%)、期末まとめ試験(50%)			
関連科目 / Related course				
リンク先URL / URL of syllabus or other information				
備考 / Notes				

授業科目名(英文名) / Course title	言語と文化 / Language and Culture		
担当教員(所属) / Instructor	安藤 智子(人文学部)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年 (経済)
時間割コード / Registration Code	103204	対象学年 / Eligible grade	2年 単位数 / Credits 2.0
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	安藤 智子(ando@hmt.u-toyama.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	安藤 智子(木曜日12:00-12:30)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	音声の客観的な記述の方法を知り、日本語と外国語の音声について体系的に理解する。	
<p>この授業は「言語と文化」の「言語」に関するもので、その中でも音声(発音)に焦点を絞った内容です。皆さんの多くは日本語を母語として知らないうちに発音できるようになり、その後英語を学習して新たな音声に出会い、さらに大学に入学してからは初修外国語を学んでまた未知の音声にふれてきたことでしょう。しかし、高校までの課程には音声学や言語学に関する教科がありませんから、発音の仕組みに関して体系的に学んだことのある人は少ないのではないかと思います。国語や外国語を教える先生も発音指導に長い時間を割くことはできないでしょうから、皆さんの多くは「発音は耳で聞いてなんとなく覚えるもの」というような認識を持っているかもしれません。</p> <p>しかし、実は、音声については高度にシステマティックな分類・記述の方法が確立されています。だからこそ、アナウンサーは理想的な発音を目指して訓練を受けられ、発音の発達の遅い子供は専門家によって指導を受けられ、ITの分野では音声認識や音声合成の技術が発展しているわけです。</p> <p>この授業では、そうした音声の理論的な側面について、実際に発音したり映像で確認したりしながら説明していきます。音響分析によって自分の発音を確認する方法についても紹介します。入門的な授業ですから、音声学の全体について論じることはできませんが、外国語の発音を正確に理解したい人や、標準的な日本語の発音を身につけようと思っている人の助けになる内容にしたいと思います。なお、この分野を初めて学習する人にとっては、基礎的な用語や記号を覚えないと講義内容が理解できなくなります(化学を学ぶのに元素記号を覚えなくてはならないのと同じです)から、覚えるために散発的に小テストを行います。</p>			
達成目標 / Course Goals			
<p>1) 音声の客観的な記述の方法がわかる。  2) 日本語の音声と外国語の音声を比較し、その結果を語学の学習に活かすことができる。  3) 日本語の標準的な発音とバリエーションについて理解し、その知識を自らのコミュニケーションに活かすことができる。</p>			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
<p>配布資料・視聴覚教材を活用し、講義形式で授業を行います。扱う言語は日本語の共通語と英語が主ですが、初修外国語科目になっている他の外国語や日本語の方言にも言及します。</p> <p>1回目 イントロダクション  2回目 発音には体のどこを使うか  3-4回目 子音の分類  5回目 母音の分類  6-8回目 日本語の発音と外国語の発音  9-10回目 音のつながり  11-12回目 アクセント  13回目 リズム  14回目 イントネーション  15回目 まとめ・理解の確認  (受講者の人数等によって、各回の内容を変更する可能性があります。)</p>			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
<p>事後学修として、音声学の学習のためのWEBサイトで音声を繰り返し聞いたり、参考書の付属CDを聞いたりして、聞き分ける力を付けましょう。</p> <p>また、前半は、事前・事後学修として、各回に覚えてくる発音記号を指示します。後半は、発音し慣れることを目的とした練習を指示します。</p>			
キーワード / Keywords	日本語 外国語 音声		
履修上の注意 / Notices	<p>単位が必要な人で、次の2点ができない人は履修しないでください。</p> <p>1) 音声については、自分の音声器官(唇・舌など)を使って実際に発音してみないと正しく理解することができませんので、授業中に指示したときには奇妙に思える音でも恥ずかしくならず発音してみてください。</p> <p>2) 多くの人にとって高校までにほとんど体系的な学習をしたことのない分野ですから、基礎的な用語や記号を覚えられないことには理解も考察もできません。そのため、暗記することが多くなることを覚悟しておいてください。</p>		

教科書・参考書等 / Textbooks	<p>1) 音声学全般の参考書：加藤重広・安藤智子(2016)『基礎から学ぶ音声学講義』研究社(2,700円+税)</p> <p>2) 日本語音声学の参考書：鹿島央(2002)『日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学』スリーエーネットワーク(1,900円+税)</p> <p>3) 英語音声学の参考書：牧野武彦(2005)『日本人のための英語音声学レッスン』(CD付)大修館書店(2,300円+税)</p>
成績評価の方法 / Evaluation	小テストおよび提出物40%、理解の確認(筆記)40%、発音と聞き取りの力の確認20%
関連科目 / Related course	さらに専門的にさまざまな言語の音声のしくみについて詳しく学びたい人は、人文学部専門科目の「音声学I」「音声学II」で学ぶことができます。
リンク先URL / URL of syllabus or other information	東京外国語大学HP言語モジュール IPA国際音声字母 <a href="http://www.coelang.tufs.ac.jp/ipa/index.php">http://www.coelang.tufs.ac.jp/ipa/index.php</a>
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	化学物質の世界 / World of Chemical Substances				
担当教員(所属) / Instructor	岩村 宗高(理学部化学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年 (経済)		
時間割コード / Registration Code	103205	対象学年 / Eligible grade	2年	単位数 / Credits	2.0
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>科学技術が人間社会のあり方に対して極めて強い影響を与える現在、学生にとって自然科学的視点を持つことは大きな武器となる。本講義では、化学をキーワードに、世の中を構成する物質に関する知識と自然科学の基本的な考え方を習得する。講義は実際に目で見て現象を理解することを重視し、家でも再現できる演示実験などを多用して化学の話題を展開する。家庭で出来る実験に関するレポート課題あり。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<p>化学の視点からものを見ること、世界を形作っている物質の基本的な性質を知る。物質から構成される世界と人間活動の関わりについて考える土台を構築する。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<p>1回目 物の色彩と光(化学物質と光の相互作用と光吸収プロセス)  2回目 化学結合とオクテッド則(量子化学と分子軌道、有機化学)  3回目 色が変わる水I(酸塩基反応と電子状態変化)  4回目 塩水の化学(イオンと水和)  5回目 ホタルの化学(分子間化学反応と化学発光)  6回目 きれいな結晶を作ろう(結晶とX線構造解析、結晶場)  7回目 砂糖水は光をまわす(キラル化学)  8回目 DNAの抽出(DNAと生化学)  9回目 油からセッケンを作る(コロイド化学)  10回目 電気で水を分解する(電気化学実験ならびに電池)  11回目 色が変わる水II(金属錯体の配位子場理論)  12回目 炭素の化学I 燃焼と石油エネルギー(燃焼反応と環境化学)  13回目 植物の光合成と二酸化炭素の循環(光化学と環境問題)  14回目 量子で考える化学物質(量子化学)  15回目 熱さで変わる化学反応と化学反応で変わる熱(熱力学とエントロピー)</p>					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
2回のレポート					
キーワード / Keywords	物質 自然科学 原子 分子 化学反応 環境 生態系 エネルギー				
履修上の注意 / Notices	高校の化学より広い範囲を含むが、授業の前半で基礎的な講義を行い、高校で化学を学んでいない学生にも対応する。				
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書はとくにないが、「化学の目で見える物質の世界」を参考書とする				
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験と2回のレポートで評価する。レポートは、家庭で行える実験に関するレポート				
関連科目 / Related course	なし				
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	物理の世界 / Physical Science			
担当教員(所属) / Instructor	榎本 勝成(理学部物理学科)			
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目			
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目	
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火 / Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)	
時間割コード / Registration Code	103206	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年	単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals			
身の回りの物理現象や機器について考え、それがどのように物理的に説明できるのかを学ぶ。主に力学と電磁気学を学ぶ。				
達成目標 / Course Goals				
物理に対して理解と関心を深め、より身近なものとして感じてもらうこと。また、基本法則や数式を通じて物事を理解する物理的思考方を身につけること。				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule				
第1回~第4回: 力学 第5回~第9回: 電磁気学、波動 第10回~第15回: 力学、電磁気学、波動の応用(デモ実験など) 間に小テストを含む				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class				
下記の参考書か、高校の物理学の教科書などを、授業と並行して読んで予習・復習を行う。				
キーワード / Keywords	物理、力、運動、波、電気、磁気			
履修上の注意 / Notices	高校レベル+ の内容。主に、高校で物理学を学んでいない学生を対象としている。			
教科書・参考書等 / Textbooks	参考書: 原康夫 「自然科学の基礎としての物理学」 学術図書出版社 ISBN-13: 978-4780602005			
成績評価の方法 / Evaluation	レポートおよび小テストによる評価			
関連科目 / Related course				
リンク先URL / URL of syllabus or other information				
備考 / Notes				

授業科目名(英文名) / Course title	材料の科学 / Materials Science				
担当教員(所属) / Instructor	田口 明(水素同位体科学研究センター), 笠場 孝一(工学部機械知能システム工学科), 島山 賢彦(工学部材料機能工学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	103207	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	田口 明(atagu@ctg.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	田口 明(月~金(12:00~13:00))				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>(笠場)世の中の構造物は、使用期間中に壊れないことが前提になっています。しかしそれら構造物の材料破壊に起因する事故が度々報道されています。この5回の講義では、破壊しない構造物を設計するために必要となる知識、そして経年劣化の現実の理解、そもそも材料破壊はどのような条件がそろったときに起こるのか、について解説していきます。</p> <p>(島山)本講義では、材料科学の発展における具体例を挙げつつ各種金属材料の化学組成や組織、劣化のメカニズム等について平易に解説します。</p> <p>(田口)資源、エネルギーの供給と環境の破壊は限界に近づきつつあり、前世紀と同じ事を続けることは許されません。触媒技術は効率的且つ環境負荷の低い物質変換・化学エネルギー転換の技術として大いに期待されています。この授業ではこれら諸問題と触媒技術の関わりを概説します。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<p>(笠場)材料の微視的構造およびそのふるまいが破壊挙動に関わっていることを理解すること。また、応力とひずみの定義、金属疲労の実験とその評価法を理解すること。</p> <p>(島山)材料についての教養を修得すること。</p> <p>(田口)化学工業の発展における触媒の役割と、エネルギー、資源、環境問題に関わる触媒反応例を理解すること。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<p>(1) 材料科学の基礎  (2) 材料科学の基礎  (3) 材料科学の基礎  (4) 材料科学の基礎  (5) 材料科学の基礎  (6) ケーススタディ 日航ジャンボ機墜落事故  (7) ミクロとマクロ  (8) 鉄  (9) 非鉄  (10) 材料力学・破壊  (11) 触媒とは  (12) 化学エネルギー・資源と触媒(I)  (13) 化学エネルギー・資源と触媒(II)  (14) 環境触媒  (15) 夢の触媒反応</p>					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
課題等を必ず行うこと。					
キーワード / Keywords	(笠場)結晶組織, 応力, ひずみ, 鉄鋼材料, 金属疲労 (島山)金属材料, 腐食 (田口)エネルギー, 資源, 環境, 触媒				
履修上の注意 / Notices	(笠場)身の回りの構造物の強度安全性がどのように維持されているか、ときどき考えてみて下さい。 (島山) (田口)身の回りにある多くの製品の生い立ちにも触媒作用が関わっていることに、興味を持ってください。				
教科書・参考書等 / Textbooks	(笠場): 授業で用いるスライドのコピーを、ヘルンシステムの授業のページからダウンロードできるようにします。授業時には各自、印刷して持参して下さい。 (島山) 適時資料を配布する。 (田口): 参考図書は必要に応じて紹介します。				

成績評価の方法 / Evaluation	(笠場) クリッカー (授業レスポンスシステム) を用いて、授業途中で正誤選択問題を出題します。各学生の理解度を授業中にチェックします。正答率で50%程度以上を目指して、話を聴いて下さい。最終回に出題するレポートとともに、評価に組み入れます。 (畠山) レポート (田口) 授業態度, ならびに最終回のレポート * 各担当教員の評価を総合的に判断して「材料の科学」の成績を最終的に決定します。
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	コンピュータの話 / Introduction to Computer		
担当教員(所属) / Instructor	唐 政(工学部知能情報工学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)
時間割コード / Registration Code	103208	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours			
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
この授業で学習することで、コンピュータを使って情報を扱うことの基礎を固め、さらに学習を進めていかれることと思う。学習は山登りに似て、さらに高く登るにつれ周りがよく見えるようになるといわれている。この授業が皆さんの学習の道案内として役立つことを願っている。			
達成目標 / Course Goals			
コンピュータで情報を扱い、通信で情報を伝達する技術は急速に進歩しており、現在のような情報化社会において、私たちの生活に欠くことのできないものとなっている。これからも、より良いものを作ることと、それをより良く使うことは、ともに私たちの重要な課題である。コンピュータをより良く使うためには、その操作を覚えるだけでなく、コンピュータの基本的なしくみや動作について学ぶことが大切である。そこで、本授業では、表面的な知識や技能から一歩踏み込んで、コンピュータの基礎や原理について学ぶことで、コンピュータに特有な性質や方法を理解し、主体的にコンピュータを使い、情報を活用することができるようになるべくわかりやすく話を進めていきたい。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 社会生活とコンピュータ</li> <li>・第2回 コンピュータの由来1</li> <li>・第3回 コンピュータの由来2</li> <li>・第4回 コンピュータにおける情報表現 (数の表現 2進数 基数の変換)</li> <li>・第5回 コンピュータにおける情報表現 (文字と記号の表現 画像情報の表現 アナログ情報の表現)</li> <li>・第6回 コンピュータの基本構成</li> <li>・第7回 授業の振り返り及び中間テスト</li> <li>・第8回 演算装置(基本論理演算、算術演算)</li> <li>・第9回 記憶装置・制御装置・入出力装置(1/0)</li> <li>・第10回 コンピュータのハードウェア</li> <li>・第11回 コンピュータのソフトウェア プログラム言語(機械語、アセンブリ言語、高級言語)</li> <li>・第12回 ソフトウェアの種類(体系) オペレーティングシステム(OS) 応用ソフトウェア</li> <li>・第13回 コンピュータネットワーク コンピュータネットワークの歴史 コンピュータネットワーク網 コンピュータネットワークの仕組み</li> <li>・第14回 インターネット上のアプリケーション</li> <li>・第15回 授業の振り返り及び期末テスト</li> </ul>			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
授業終了時に示す課題についてノートを作成すること			
キーワード / Keywords	社会生活とコンピュータ、コンピュータの由来、コンピュータにおける情報表現、コンピュータのハードウェア、コンピュータのソフトウェア、コンピュータネットワーク		
履修上の注意 / Notices	この授業はコンピュータの使い方を教える授業ではないことを注意しなさい。		
教科書・参考書等 / Textbooks	唐 政 「コンピュータの話」		
成績評価の方法 / Evaluation	小テストやレポートなど30% 中間テスト 30% 期末試験 40%		
関連科目 / Related course			

リンク先URL / URL of syllabus or other information	教員研究室 所 在：工学部大学院棟 7階 7706号室 電 話：445-6752 E - mail：ztang@eng.u-toyama.ac.jp メールで事前連絡してから訪問すること
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	哲学のすすめ / Philosophy		
担当教員(所属) / Instructor	池田 真治(人文学部)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(理,工), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)
時間割コード / Registration Code	103211	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	池田 真治(shinji@hmt.u-toyama.ac.jp, 人文棟7階707)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	池田 真治(金曜5限)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
<p>授業で用いたスライドは以下に掲載する予定です。  <a href="http://researchmap.jp/shinjike/">http://researchmap.jp/shinjike/</a>資料公開/          見つかりにくい場合、「新着順」で調べてみてください。スライドpdfは「詳細を表示」からダウンロードできます。</p>			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
<p>今年度は、哲学入門として、哲学の主要3分野である(1)形而上学(存在論)、(2)心の哲学(あるいは認識や知覚の哲学)、そして(3)科学哲学(科学方法論・個別科学の哲学・科学の倫理的問題)のうちから、それぞれ入門的な話題を取り上げようと思います。受講人数にもよりますが、各セッションの後に、クリティカル・シンキングの時間を設け、哲学的議論を通じて、より内容を深く理解していきます。授業やディスカッションを通じて、哲学的思考を養い、自分にとっての哲学的課題が何であるのかを見いだしてもらいたいことです。</p>			
達成目標 / Course Goals			
<p>1) 哲学の基礎となる事柄を理解すること          2) 哲学的に考える技法を身につけること          3) 自分にとっての哲学的課題を見いだすこと</p>			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
<p>第1回 イントロダクション          第2回 形而上学入門(1) 存在          第3回 形而上学入門(2) 非存在(無)          第4回 形而上学入門(3) 虚構(フィクション)          第5回 クリティカル・シンキング(1) 形而上学に関する主題          第6回 心の哲学入門(1) 人格の同一性          第7回 心の哲学入門(2) 心身問題          第8回 心の哲学入門(3) 意識          第9回 心の哲学入門(4) 知覚          第10回 クリティカル・シンキング(2) 心の哲学に関する主題          第11回 科学哲学入門(1) 科学革命          第12回 科学哲学入門(2) 進化論          第13回 科学哲学入門(3) 人工知能          第14回 科学哲学入門(4) 科学と倫理          第15回 クリティカル・シンキング(3) 科学哲学に関する主題</p>			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
<p>授業で配布したプリントの予習・復習を課す。          また、授業中に指示した参考文献に適宜当たってもらいたい。          各分野の区切りでミニ・レポート課題を課す場合がある。          期末レポート(あるいは期末テスト)を課すので、十分準備をした上で臨んでほしい。</p>			
キーワード / Keywords	哲学 形而上学 心の哲学 科学哲学 存在 非存在 虚構 人格 意識 知覚 科学革命 進化論 情報 生命 クリティカル・シンキング		
履修上の注意 / Notices			

教科書・参考書等 / Textbooks	<p>固定のテキストは用いない。資料が必要な場合はプリントを配布する。強いていえば、講義のレジュメや板書・スライドが、テキストである。参考書は適宜授業中に紹介する。</p> <p>哲学の格好の入門書は、哲学の中心的諸問題を網羅的に扱っているだけでなく、哲学史にもめくばせの効いた、バートランド・ラッセル『哲学入門』（高村夏輝訳、ちくま学芸文庫、2005）である。ただし認識論に偏っていて、形而上学が薄い。哲学史について概観するには、伊藤邦武『物語 哲学の歴史』（中公新書、2012）が良い。</p> <p>新書や入門書である程度イメージがつかめたら、ラッセルも紹介している、デカルト『方法序説』、パークリ『ハイラスとフィロナスの3つの対話』など、哲学の古典に実際あたってみるのが、哲学への最良の入門と言えるだろう。</p> <p>哲学的な考え方とは何かといっても、いろいろな立場がある。私が重視したいのは、解釈のスキルと、分析のスキルである。これらは訓練で身につくからである。参考書としては、ここでは実用面での哲学的思考のスキルを重視した、伊勢田哲治『哲学思考トレーニング』ちくま新書、2005を挙げておこう。</p> <p>各分野の参考書を一冊だけ挙げておく。履修者は各自、予習や復習に利用されたい。</p> <p>形而上学：アール・コニー+セオドア・サイダー『形而上学レッスン』春秋社、2009  心の哲学：ティム・クレイン『心は機械で作れるか』勁草書房、2001  科学哲学：サミール・オカーシャ『科学哲学』岩波書店、2008</p>
成績評価の方法 / Evaluation	<p>期末テストかレポートによります（テストかレポートかは受講人数に応じて決めます）。この結果に、各分野の区切りで課されるミニ・レポートやクリティカル・シンキングなどの平常点を加えて成績をつけます。</p>
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	<p><a href="http://syllabus.adm.u-toyama.ac.jp/">http://syllabus.adm.u-toyama.ac.jp/</a>  <a href="http://researchmap.jp/shinjike">http://researchmap.jp/shinjike</a></p>
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	日本の歴史と社会 / Japanese History		
担当教員(所属) / Instructor	次山 淳(人文学部)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(理,工), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)
時間割コード / Registration Code	103212	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	次山 淳(人文学部考古学研究室)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	次山 淳(月曜日 12:00 - 12:50)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
この授業では、日本の歴史と社会のありかたについて、考古学の方法によって知られるところを概説します。考古学は、物質的な資料から人類の過去のすがたを復原し、研究する学問です。この点で、文字で記された史料(文献)を読み解くことを中心とする他の歴史学分野とは歴史へのアプローチのしかたが大きく異なります。ここでは、考古学の基本的な考え方をふまえて、日本列島の旧石器時代から古墳時代までの社会と文化のありかたを概説するとともに、各時代における富山県の主要な遺跡とその内容を紹介します。			
達成目標 / Course Goals			
<ul style="list-style-type: none"> <li>考古学の方法と資料を通じて、日本列島の歴史と社会のありかた、人間生活の多様な側面についての理解を深める。</li> <li>富山県には、旧石器時代～古墳時代にかけてのどのような遺跡が知られていて、どのような地域的特性があるのかについての理解を深める。</li> </ul>			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>考古学とはどのような学問か</li> <li>日本列島史の時代区分</li> <li>旧石器時代の日本列島</li> <li>旧石器文化の特質</li> <li>旧石器時代の富山</li> <li>縄文時代の日本列島</li> <li>縄文文化の特質</li> <li>縄文時代の富山</li> <li>弥生時代の日本列島</li> <li>弥生文化の特質</li> <li>弥生時代の富山</li> <li>古墳時代の日本列島</li> <li>古墳文化の特質</li> <li>古墳時代の富山</li> </ol>			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
<ul style="list-style-type: none"> <li>各回の授業の内容を、受講時のノート、配付資料をもとに確認しておくこと。特に、専門的な用語、遺跡名などについては事典・辞書を参照して意味内容を理解しておくこと。</li> <li>期末レポートの準備として、関心を持ったテーマについては、文献を検索し知見を深めておくことが望ましい。</li> </ul>			
キーワード / Keywords	考古学 考古資料 遺跡 遺構 遺物 旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代		
履修上の注意 / Notices	できるだけ各地の博物館、歴史資料館、あるいは遺跡・古墳等に足を運び、実際の遺跡や遺構、遺物に接する機会をもつようにすること。		
教科書・参考書等 / Textbooks	特になし。授業の際に資料を配付する。		
成績評価の方法 / Evaluation	期末レポートの提出により評価する(100%)。レポートについては、与えられた課題の内容が正しく理解されており、設問にそった必要十分な内容となっているか、字数、書式などが指定されたとおり適切になされているかを評価の基準とする。		
関連科目 / Related course			
リンク先URL / URL of syllabus or other information			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course title	日本文学 / Japanese Literature		
担当教員(所属) / Instructor	小谷 瑛輔(人文学部)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(理,工), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)
時間割コード / Registration Code	103213	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours			
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
日本の近代文学には、どのような作品があるのでしょうか。作家たちは作品を書く中でどのようなことを考えてきたのでしょうか。多様な作品について知り、また履修者各自が自ら読み、それについて言語化することによって、日本文学の魅力に迫ります。			
達成目標 / Course Goals			
日本の近代文学の多様な作品を知り、文学の読書に親しむ姿勢を養う。 文学作品に自分が感じる魅力や問題点を言語化し、他の人と共有したり議論したりする技術や姿勢を身に付ける。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
ビブリオバトル(書評合戦)を行います。時代区分ごとの文学作品の中から面白いと思うものを探して、1人5分でその作品の魅力について紹介して貰います。履修者多数の場合はグループを組んでチーム戦とします。 履修者によって紹介された作品を中心に、その他の関連する文学作品も含めて当時の文学史的な重要事項について教員が講義し、作品を読むための基礎的な文学史の知識を身に付けていきます。			
第1回 ガイダンス/チーム決め 第2回 発表作品の検討と明治文学の概説 第3回 ビブリオバトル(明治期の作品)1回戦 第4回 ビブリオバトル(明治期の作品)2回戦 第5回 ビブリオバトル(明治期の作品)3回戦 第6回 ビブリオバトル(大正期の作品)1回戦 第7回 ビブリオバトル(大正期の作品)2回戦 第8回 ビブリオバトル(大正期の作品)3回戦 第9回 ビブリオバトル(昭和期戦前・戦中の作品)1回戦 第10回 ビブリオバトル(昭和期戦前・戦中の作品)2回戦 第11回 ビブリオバトル(昭和期戦前・戦中の作品)3回戦 第12回 ビブリオバトル(昭和期戦後の作品)1回戦 第13回 ビブリオバトル(昭和期戦後の作品)2回戦 第14回 ビブリオバトル(昭和期戦後の作品)3回戦 第15回 全体のまとめ			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
発表する本を探して精読し、発表の準備をして下さい。 また、他の人が発表した本を一つ選んで、それについてのレポートを書いて貰います。			
キーワード / Keywords			
履修上の注意 / Notices			
教科書・参考書等 / Textbooks	参考書: 安藤宏 『日本の小説101』新書館、2003年		
成績評価の方法 / Evaluation	ディスカッション等への参加30%・口頭発表40%・レポート30%により評価します。 ディスカッションの評価基準: 毎回発言して授業に積極的に参加しようという意欲を見せているかどうか。 口頭発表の評価基準: 十分に調査、準備を行い、作品について自分が考えたことを示せているかどうか。 レポートの評価基準: 整った体裁・文体・論理展開のレポートを書けているかどうか。		
関連科目 / Related course			
リンク先URL / URL of syllabus or other information			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course title	美術 / Fine Art				
担当教員(所属) / Instructor	鼓 みどり(人間発達科学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	103218	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位数
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
世界遺産となっているヨーロッパ中世美術の史跡を紹介し、ヨーロッパ文化の基層を理解する。					
達成目標 / Course Goals					
ヨーロッパ中世美術に触れ、各地の風土やキリスト教図像、歴史的背景などを理解する。世界遺産伸す方を知り、文化遺産を守り伝える意識を持つ。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
ヨーロッパ中世美術に触れ、各地の風土やキリスト教図像、歴史的背景などを理解する。世界遺産伸す方を知り、文化遺産を守り伝える意識を持つ。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等)					
それぞれの地域や時代背景についての講義と様々な美術技法についての説明。画像とビデオを使って、より臨場感のある紹介を行う。今回紹介する場所はすべて探訪しているので、観光的な情報も合わせて紹介する。					
1 4月11日 はじめに ヨーロッパ文明とは					
2 4月18日 ポンペイ					
3 4月25日 ピアッツァ・アルメリーナ					
4 5月9日 チュニジアとトルコ					
5 5月16日 古代末期から初期キリスト教時代のローマ					
6 5月23日 ラヴェンナ					
7 5月30日 イスタンブール					
8 6月6日 カップアドキア					
9 6月13日 ミュスタイアと初期中世の壁画					
10 6月20日 フランス ブルゴーニュ地方のロマネスク美術					
11 6月27日 フランス巡礼路 コンク、ル・ピュイ					
12 7月4日 スペインのロマネスク 巡礼路とカタルーニャ					
13 7月11日 バレレルモ					
14 7月18日 シャルトルとブルジュユのステンドグラス					
15 7月25日 ヴェネツィア					
16 8月1日 試験					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
テレビや雑誌で紹介される文化遺産に関心を持つ。実際に訪れてみたい史跡について、情報を集める。					
キーワード / Keywords	ヨーロッパ中世、キリスト教、モザイク、壁画、彫刻、ステンドグラス				
履修上の注意 / Notices	美術を学ぶ上で、作品を丹念に見ることが非常に重要です。講義中投影する画像や映像を、きちんと見て視覚的に記憶して下さい。				
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は使用しない。				
成績評価の方法 / Evaluation	各時間に課題を行い、その結果を集計し評価する。最終試験(選択)。課題(90%)試験(10%) 得点が90%以上を秀、80~89%を優、70~79%を良、60~69%を可、59%以下を不可とする。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	市民生活と法 / Law and Society			
担当教員(所属) / Instructor	木原 淳(教養教育院)			
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目			
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目	
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(理,工), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)	
時間割コード / Registration Code	103214	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年	単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	市民生活からビジネスと関わりの深い法領域についての基礎知識を習得する。		
<p>法の理念と共に、私法を中心とする現代日本法の概要と体系について説明します。          どのような職業についても、必ずそれぞれの業界を規制する法律や規則があり、仕事をする上で、知っておくべき法律知識があります。しかしこの授業では、皆さんの個々の就職先で「役立つ」ような法律知識を扱うことはしませんし、そもそもそれは不可能です。大切なことは細かい法令を作り出す、法の理念や市民法体系と考え方をしっかり理解することです。</p>				
達成目標 / Course Goals				
現代日本法の理念とその体系について理解する。 法の理念が法律の解釈を指導していることを理解する。				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule				
1. 導入 法及び法学について 2~4. 法の概念 5~6. 市民法の体系 7~8. 司法権と訴訟 9. 演習 10. 権利能力と人権 11. 法人の機能と分類 12~13. 株式会社 14. 不法行為制度 15. まとめ				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class				
事前学修: 配布資料の予習 事後学修: 課題演習				
キーワード / Keywords	市民法、法の理念、裁判制度			
履修上の注意 / Notices	論述形式の試験に不慣れな学生も多いため、演習の時間を取って、実際に文章を書く練習や解説をします。			
教科書・参考書等 / Textbooks	配布レジюмеを中心に授業を進める。 『デイリー六法』三省堂(特に出版社は問いません)			
成績評価の方法 / Evaluation	レポート50%、期末試験(論述式)50%として評価する。			
関連科目 / Related course	日本国憲法			
リンク先URL / URL of syllabus or other information				
備考 / Notes				

授業科目名(英文名) / Course title	はじめての経済学 / Introduction to Economics			
担当教員(所属) / Instructor	山田 潤司(経済学部経済学科)			
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目			
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目	
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(理,工), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)	
時間割コード / Registration Code	103215	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年	単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals			
この授業では入門レベルの経済学を学びます。 ミクロ経済学は、家計や企業の意思決定と市場におけるそれらの相互作用を研究する学問です。マクロ経済学は、経済全体に関わる現象を研究する学問です。それぞれの概要を解説し、ミクロ・マクロ経済学の基本的知識を身につけてもらうことをねらいとします。				
達成目標 / Course Goals				
1) 需要と供給、外部性といったミクロ経済学の基本的な用語の意味を理解している 2) GDPや物価、経済成長といったマクロ経済学の基本的な用語の意味を理解している				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule				
授業は講義形式で進めます。 必要に応じて授業内容に関連する雑誌・新聞記事を配布し、統計データやグラフを紹介します。 下記のように進めますが履修者の反応を踏まえて内容を変更する場合があります。				
01. 経済学とは 02. 相互依存と交易からの利益 03. 市場における需要と供給の作用 (1) 04. 市場における需要と供給の作用 (2) 05. 需要、供給、および政府の政策 06. 消費者、生産者、市場の効率性 07. 外部性 08. 国民所得の測定 09. 生計費の測定 10. 生産と成長 11. 貯蓄、投資と金融システム 12. 総需要と総供給 (1) 13. 総需要と総供給 (2) 14. 開放マクロ経済学 15. まとめ				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class				
事前学修 授業内で課題を示すので、次回の授業までに課題に取り組み、ノートを作成すること。				
事後学修 授業後、配布資料を繰り返し読んで、基本的な経済用語や理論の説明をよく理解すること。				
キーワード / Keywords	需要、供給、外部性、GDP、物価、経済成長、貿易収支			
履修上の注意 / Notices				
教科書・参考書等 / Textbooks	グレゴリー・マンキュー著「マンキュー入門経済学[第2版]」東洋経済新報社、2014年 詳細は授業内で指示します			
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験70点、課題・レポート等30点			
関連科目 / Related course				
リンク先URL / URL of syllabus or other information				
備考 / Notes				

授業科目名(英文名) / Course title	こころの科学 / Psychology		
担当教員(所属) / Instructor	黒川 光流(人文学部)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 木/Thu 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発)
時間割コード / Registration Code	103401	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	黒川 光流(kurokawa@hmt.u-toyama.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	黒川 光流(火曜日15:00-16:00 人文学部6階心理学研究室(609)にて できればメールで事前に連絡をしてください)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
<p>人に対する理解を深めていくためには、人の心や行動を主観に頼らず客観的に捉えていく必要があります。そこでまず、心理学の諸分野に関する基本的な概念や理論の概説を通して、人の行動の成り立ちや背景を理解していきます。そして、その理解に基づいて、人の行動およびそこに反映されている心の仕組みや動きを多面的に考察し、客観的な人間理解を深めていきます。</p> <p>幅広い知識と教養を身につけるための一環として、本授業では心理学的なものの方や考え方を理解することになります。</p>			
達成目標 / Course Goals			
<p>1) 心理学の基本的な概念やメカニズムを正確に理解する。 2) その理解に基づいて人の心や行動を多面的に考察し、客観的かつ科学的に捉えることができる。 3) 日常的に見られる人の心や行動を心理学の概念や理論を用いて説明することができる。</p>			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
<p>第1週 こころの科学とは何か 第2週 人は物をどう見るか1(図と地, ゲシュタルトの法則) 第3週 人は物をどう見るか2(興行き知覚, 知覚の恒常性, 錯視, 社会的知覚) 第4週 人はいかに学びそして覚えるか1(学習) 第5週 人はいかに学びそして覚えるか2(記憶) 第6週 人はなぜ行動するのか1(欲求) 第7週 人はなぜ行動するのか2(感情) 第8週 人はどのようにして成長するのか1(乳児期から幼児期) 第9週 人はどのようにして成長するのか2(児童期から老年期) 第10週 人は自分をどう見るか1(人格) 第11週 人は自分をどう見るか2(自己) 第12週 人は人をどう見るか(対人認知) 第13週 人はなぜ心ひかれるのか(対人魅力) 第14週 集団・社会の中での人 第15週 まとめと復習(理解度確認)</p>			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
事前学修 テレビや新聞などで取り上げられているニュースにも目を通し、自分自身の日常生活や社会現象・社会問題の背後にあるこころの働きについて考えてみてください。			
事後学修 授業内容を自分自身の経験や実際の社会現象・社会問題と関連づけながら理解を深めてください。			
キーワード / Keywords	心 行動 科学		
履修上の注意 / Notices	授業中に資料等のプリントを配付しますが、再配布はしませんので、受講者は毎回出席してプリントを受け取り、なくさないようにしてください。		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は使用しません。必要に応じて授業中にプリントを配布します。 参考書: 『ダイアグラム心理学』(石田潤・岡直樹・桐木建始・富永大介・道田泰司著, 1995, 北大路書房, 2300円+税, ISBN: 476282030X), 『やさしい心理学』(水田恵三著, 1996, 北大路書房, 2200円+税, ISBN: 4762820482)		
成績評価の方法 / Evaluation	理解度確認の結果70%, 受講態度および授業中に課す小レポート30%として総合的に評価します。 評価の観点は以下の通りです。 1. 心理学の基本的な概念やメカニズムの内容を正確に理解している。 2. 人の心や行動を心理学の概念や理論を用いて説明することができる。		
関連科目 / Related course			
リンク先URL / URL of syllabus or other information			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course title	西洋の歴史と社会 / Western History		
担当教員(所属) / Instructor	徳橋 曜(人間発達科学部)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 木/Thu 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発)
時間割コード / Registration Code	103402	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours			
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
歴史的事実や歴史観についての認識を深め、歴史的認識を持って現代社会を考えることができるようになることを狙いとし、カリキュラム上は、外国史(西洋史)の基礎的知識と方法論の認知と位置づける。			
達成目標 / Course Goals			
ヨーロッパを中心として世界史を捉える視点はもはや時代遅れとなっているが、もちろんヨーロッパ史研究そのものの価値が失われたわけではない。中心性や優劣の問題ではなく、ヨーロッパから発した思想や社会システムが世界中に広まっている事例もあることを振り返りつつ、ヨーロッパ史を概観しながら、世界史の中にヨーロッパ史を位置づけて考えることができるようになることを達成目標とする。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
授業は講義形式で以下の小題目で進める。			
1 はじめに			
2 「ヨーロッパ」の形成: 「古代」から「中世」へ			
3 中世ヨーロッパの社会と経済			
4 中世ヨーロッパの内と外			
5 中世ヨーロッパ社会の変化			
6 宗教改革の始まり			
7 宗教改革の展開			
8 大航海時代			
9 近世ヨーロッパ社会1			
10 近世ヨーロッパ社会2			
11 市民革命とナショナリズム			
12 想像の共同体			
13 二つの大戦とヨーロッパの世界的位置づけ1			
14 二つの大戦とヨーロッパの世界的位置づけ2			
15 おわりに			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
事前学修では対象となっている時代について、図書館の文献等を用いて自分の理解を確認・補強しておくこと。事後の学修では、授業で扱われた歴史的な事象や用語について自分の理解を確認をし、必要に応じて文献等で知識を補強しておくようにする。インターネット上の情報も利用して構わないが、情報の信用性には留意すること。			
キーワード / Keywords	キリスト教 ヨーロッパ 近代世界 ナショナリズム 世界の一体化		
履修上の注意 / Notices	必要に応じてレポートを課す。基本的に期限を過ぎてからの提出は認めず、不提出のレポートが3つ以上あった場合は、全体の成績評価を不可とする。		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は使用せず、随時資料を配布する。また理解の補助として、各自が高校で使用した世界史教科書や参考書を持参することが望ましい。		
成績評価の方法 / Evaluation	成績は学期末試験の評価70%、レポートの評価30%の割合で合計して、評価する。		
関連科目 / Related course			
リンク先URL / URL of syllabus or other information			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course title	言語と文化 / Language and Culture		
担当教員(所属) / Instructor	樋野 幸男(人文学部)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 木/Thu 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済)
時間割コード / Registration Code	103403	対象学年 / Eligible grade	2年 単位数 / Credits 2.0
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	樋野 幸男(研究室; 人文学部7階 / ; 076-445-6167 / hinoyuki@hmt.u-toyama.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	樋野 幸男(木曜; 16:30 - 18:00)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
<p>現代日本語の文法について講義します。</p> <p>みなさんは、高等学校まで「国語」の教科で日本語の文法について学習してきたと思います。そこで学んだ 文法 を日本語研究の世界では「学校文法」と呼んでいます。みなさんは、それを積極的に理解して活用することがあったでしょうか。試験のために暗記して設問に解答することで終わってしまうのが現実だったと推測します。多くの人たちは楽しいと感じることなく、仕方なくおぼえて、そして忘れていくことでしょう。それは、「学校文法」それ自体にも学術的欠陥があるからだと考えられます。新たな 文法 に触れてもらいたいと願っています。</p> <p>この授業では、できるだけ興味深く日本語の文法について考えることができるように進めていきます。日本語の文法を"おぼえる"のではなく、自分で考えて"ことばのきまり"を発見する喜びを味わってもらいたいと考えています。</p>			
達成目標 / Course Goals			
日本語の文法について、注意深く観察することで言語現象をより精確に体系的に把握して、そこに存する規則性を発見したり、その背後に潜む言語の特質を分析することができる。その過程で論理的思考力を身につける。さらに、考える力を養う。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
<p>講義形式で行ないます。ただし、授業中に質問を發しますので、考えてください。毎回、基幹となる文法的テーマを設けて進めます。</p> <p>第1回; 言語とは何か / 言語の単位  第2回; 日本語文法と品詞  第3回; 日本語の文構造  第4回; 形容詞  第5回; 形容動詞  第6回; 動詞  第7回; 助動詞の分類  第8回; 時制の助動詞(1)  第9回; 時制の助動詞(2)  第10回; アスペクトの助動詞(1)  第11回; アスペクトの助動詞(2)  第12回; モダリティの助動詞(1)  第13回; モダリティの助動詞(2)  第14回; 助詞  第15回; 総括および筆記試験</p>			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
毎日の生活の中で、自分自身の使用する日本語、および、他の人が話す日本語に意識的に接してください。そうすることで、授業で学修した内容を自分自身で再確認することができ、学修が深まっていきます。			
キーワード / Keywords	学校文法、言語、言語の単位、品詞、名詞、形容詞、動詞、助動詞、助詞、文法化		
履修上の注意 / Notices	「学校文法」を習得することが目的ではありません。この授業で興味をもって 文法 について考えてください。		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は使用しません。授業で使用するプリントを配付することがあります。予習のため、事前に配付します。 参考書; 加藤重広著『日本語文法 入門ハンドブック』(初版2006年、研究社刊)、その他、図書館等の図書を必要に応じて参照してください。		
成績評価の方法 / Evaluation	学期末の筆記試験(70点)および授業中の学修状況(30点)を総合して評価します。なお、配分は変更する場合があります。		
関連科目 / Related course			
リンク先URL / URL of syllabus or other information			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course title	現代社会論 / Contemporary Society		
担当教員(所属) / Instructor	中村 真由美(経済学部経済学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 木/Thu 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発)
時間割コード / Registration Code	103405	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	中村 真由美(mnakamur@eco.u-toyama.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	中村 真由美(木曜日14:45-15:15、ただし、事前にメールでアポイントメントをとってから来てください。)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	本講義は、社会階層とジェンダーについての基礎的な知識を身につけることを目的としています。	
<p>本講義は、社会階層とジェンダーについての基礎的な知識を身につけ、社会の不平等を生み出すメカニズムについての知識を得て、学生自身が自分の生活体験についてより深く理解することを目的としています。本講義では、「社会階層」「ジェンダー」という概念を用いて、世の中の不平等の仕組みを明らかにすると共に、その2つの概念の関わりについて、そして、それが自分自身の体験にどのように影響しているのかを一緒に考えていきたいと思ひます。</p>			
達成目標 / Course Goals			
<p>&lt;ジェンダーと階層という視点の組み合わせから何が見えるか&gt; 本講義は、階層の側面に焦点をあてつつ、ジェンダーについての基礎的な知識を身につけることを目的とします。近年、階層間の格差とその拡大に注目が集まっていますが、出身家庭の社会階層の違いによって、子供の学力や職業に違いが出てくるということが知られてきています。「階層」は社会の不平等のメカニズムを浮き上がらせることができる概念なのです。「ジェンダー」という概念もまた、性差によって学歴や職業に違いが出てくるという、いわば「不平等」のメカニズムを明らかにする概念です。そして、「階層」と「ジェンダー」とは関わっています。たとえば階層文化の発現の仕方はジェンダーにより異なります。また男性の社会階層は主に本人の学歴・職業を通じて決まりますが、女性の場合には、本人の学歴・職業ばかりでなく、結婚を通じても(配偶者の階層を共有するという形で)決まると考えられています。階層の現れ方、達成のされ方には性差があるのです。皆さんも、日常において、社会階層による「格差」のようなものや、性差による差別に触れる経験をされることのあるのではないのでしょうか。本講義では、「社会階層」「ジェンダー」という概念を用いて、世の中の不平等の仕組みを明らかにすると共に、その2つの概念の関わりについて一緒に考えていきたいと思ひます。</p>			
<p>目標としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「階層」「ジェンダー」という分析概念を用いて、社会における不平等のメカニズムを理解する</li> <li>・社会的な分析的な考え方を身につける(階層・ジェンダーはその例)</li> <li>・日常、直面する疑問を解く・改めて考えるツールとして使えるようにする(日常において触れる「格差」の問題や、性別による差別等)</li> </ul>			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			

. イントロダクション

第1回：講義目的と基礎概念の説明など

. 教育・職業におけるジェンダー差・階層差の変遷と現在

第2回：教育・ジェンダー・階層の現状と変化

第3回：職業・ジェンダー・階層の現状と変化

. 教育・職業とジェンダー・階層

第4回：女性が伝統的性役割を受容する理由 - 家父長制, 人的資本, 文化資本

第5回：進学・就業アスピレーションにおいて差異を形作るもの

. 教育・職業におけるジェンダーと文化

第6回：学校と職場におけるジェンダーと文化

第7回：映画鑑賞（文化資本とジェンダーと職業達成についての映画を鑑賞）

第8回：映画鑑賞続き + グループディスカッション

. 結婚・ジェンダー・階層

第9回：結婚・ジェンダー・階層の現状と変化の概観

第10回：結婚におけるジェンダーと文化

. 家庭内性別役割分業と権力

第11回：性別役割分業と権力

第12回：介護とジェンダー

第13回：映画鑑賞（介護とジェンダーに関する映画）

第14回：映画鑑賞の続き + グループディスカッション

第15回：まとめ

授業時間外学修（事前・事後学修） / Independent Study Outside of Class

授業で学んだジェンダーと階層という視点を授業内で終わらせるのではなく、日常生活においても自分の身の回りの経験にあてはめてより深く理解する上で役立てる。

キーワード / Keywords	ジェンダー、家族社会学、階層、教育、職業、家事分担、介護
履修上の注意 / Notices	事前に履修が必要な科目はありません。どなたでもどうぞ。
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書はありません。参考書等は授業中に指示します。
成績評価の方法 / Evaluation	基本的には期末試験の点数により決めます。ただし、リアクションペーパーの内容やグループディスカッションへの貢献度も加味します。
関連科目 / Related course	関連科目はなし。
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	市民生活と法 / Law and Society		
担当教員(所属) / Instructor	橋口 賢一(経済学部経営法学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 木/Thu 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発)
時間割コード / Registration Code	103406	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours			
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
<p>日常生活のなかでなす様々な契約や、交通事故が起きた場合の被害者・加害者の関係、また婚姻や親族との関係などなど、法律は事細かに多くの規定を設けている。したがって、そのような法律の規定に基づいて他人から思いがけない請求をされることもありうる。しかし、社会では「そのような法律があることを知らなかった」と言っても通用しない。以上のことから、社会人になるまでに法律をある程度勉強しておくに越したことはないといえよう。</p> <p>本講義は、「これから専門的に法律を学ぶ予定のない学生」を対象に、社会人として最低限知っておいた方がよいことを学ぶ場を提供しようとするものである。具体的には、学問的な体系にはあまりとらわれず、日常生活で法律問題に遭遇しそうな場面をいくつか想定して解説をしていく。</p> <p>あまり欲張らず基本的な事項を解説するにとどめるが、新しい話題には可能な限り触れることにしたい。</p>			
達成目標 / Course Goals	「日常生活で遭遇しそうな法律問題については一通り学習した!」と言えるようになるのを達成目標とする。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule	下記の通り、1コマ完結のオムニバス形式で授業を進める。時折、「確認テスト」を実施する予定(提出不要のもの)。		
	(1) ガイダンス - 何のために「法学」を学ぶのか - (2) 六法の使い方をマスターしよう (3) 法律とは何だろうか - 具体的に法学を学ぶ前に押さえておくべき基本事項 - (4) 会社の上司から「契約を取ってこい!」と指示された... (5) 契約したのに相手が約束を守ってくれないんだけど... (6) 不動産を買う/借りることにしたんだけど... (7) 不動産を買う/借りることにしたんだけど... (8) 銀行に融資をお願いしに行こうと思う (9) 交通事故に遭遇してしまった... (10) 「名誉毀損だ!」、「プライバシー侵害だ!」と言われた (11) 物を購入したらトラブルに巻き込まれた (12) 結婚することにした (13) 子供が生まれたんだけど... (14) 親族が亡くなったんだけど... (15) 予備日		
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class	教科書、レジュメを用いた講義内容の復習および予習。		
キーワード / Keywords	法学, 民法		
履修上の注意 / Notices	講義では、たくさんの法律用語が出てきます。そのなかにはこれまで聞いたこともない難解なものもあれば、日常的によく使われるけれども意味内容の異なるものもあります(たとえば、善意・悪意)。法律を理解しようと思えば、これらの用語がどのような意味で用いられているのかを丁寧に押さえる必要があります。講義では1つ1つ具体例を挙げて解説するように努めますので、復習するなどして1つずつ押さえていって下さい。		
教科書・参考書等 / Textbooks	適宜レジュメを配布する。なお、六法は、初回から必ず持参して下さい。		
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験による。		
関連科目 / Related course	民法総則, 物権法, 債権法 (総論), 債権法 (各論), 家族法, 金融取引法		
リンク先URL / URL of syllabus or other information			



授業科目名(英文名) / Course title	経営資源のとらえ方 / Management Resources		
担当教員(所属) / Instructor	森口 毅彦(経済学部経営学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 木/Thu 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発)
時間割コード / Registration Code	103407	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	森口 毅彦(所在:経済学部研究棟 5階 516号室) 電話: 445-6469 E-mail: moriguch@eco.u-toyama.ac.jp		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	森口 毅彦(前期毎週火曜日13:00-14:00 後期毎週水曜日10:30-11:30)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
<p>近年のグローバルな規模での企業間競争の激化の中で、日本企業はこれまでにない厳しい戦いを強いられている。しかし、そうした厳しい環境の中にあっても、企業は競争力を維持し、継続的に「利益」を上げていくことが求められている。</p> <p>そこで、本講義では「利益とは何か」ということを理解した上で、「どうしたら企業は利益を上げられるのか」を考えていくことが大きな目的となる。</p> <p>この「利益」を考える際にひとつのキーワードとなるのが「コスト」である。企業内では、企画・開発・設計段階から、材料や部品の購入・保管、製品の製造・検査、販売に至るあらゆる部分で「コスト」が発生している。つまり、企業内のすべての人が「コスト」に関わりをもっているといえる。したがって、「コスト」の考え方を知らなくては、売れる商品を考えたり、作ったりすることも、他社より多く売る工夫をすることも、利益をさらに大きくすることもできないのである。すなわち、「利益を上げる」ためには、「コスト」についての理解も不可欠なのである。</p> <p>したがって本講義では、経営資源といわれるものの中でも特に「お金」=貨幣情報(会計情報)に焦点をあて、「利益」のしくみについて理解を深め、同時に「コスト」感覚を身につけることを目標に解説していく。</p>			
達成目標 / Course Goals			
本講義では、「利益」と「コスト」に関する基礎的なことを理解し、企業において利益を上げるための方策、考え方を身につけることを達成目標とする。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
1. 講義の概要説明(第1回) 2. コストと利益のしくみ (1) 企業における利益計算の考え方(第2回) (2) 財務諸表と利益(1)(第3回) (3) 財務諸表と利益(2)(第4回) (4) 簿記の基礎(第5回) (5) 原価計算の基礎(第6回) 3. 収益性の分析 (1) 財務諸表分析と収益性分析(第7回) (2) 資本利益率の分析(第8回) (3) 売上高利益率の分析(第9回) 4. 採算計算の考え方 (1) コスト・マネジメントと利益(第10回) (2) 変動費/固定費と利益(第11回) (3) 損益分岐点分析(1)(第12回) (4) 損益分岐点分析(2)(第13回) (5) 投資の採算計算(1)(第14回) (6) 投資の採算計算(2)(第15回) 5. 期末試験(第16回)			
「2. コストと利益のしくみ」では、利益とは何か、利益はどうやって計算するのか、コストとの関係はどうなっているのかなど、「利益」と「コスト」に関する基礎的なことを理解することを目的に解説する。また、簿記や原価計算の基礎を学習する。 「3. 収益性の分析」では、「2. コストと利益の仕組み」で学習した「利益」についての基礎的理解をもとに、企業の「収益性」を分析してみることが目的である。収益性とは、「企業がどれだけ効率的に利益を上げる力があるか」ということであるが、それを経営分析の代表的な方法を用いて分析する。 「4. 採算計算の考え方」では、「2. コストと利益の仕組み」、「3. 収益性の分析」で学習した基礎を踏まえて企業において利益を上げるための方策、考え方のヒントを探っていく。具体的には、企業が利益を上げるための採算点を分析する代表的な技法である「損益分岐点分析」などの解説を通して、コストとの関係の中から「利益」を考えていく。			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			

授業中に配付する新聞記事や練習問題プリント等で復習を行い理解を深めること。	
キーワード / Keywords	コスト、利益、財務諸表、収益性分析、採算計算、損益分岐点分析
履修上の注意 / Notices	授業には十分な好奇心と意欲をもって臨んでほしい。
教科書・参考書等 / Textbooks	テキストについては授業開始時に指示する。 参考書については、授業中、必要に応じて提示する。
成績評価の方法 / Evaluation	授業中指示するレポートあるいは小テスト（1 - 2回）10-20%、期末試験80-90%で総合的に評価する。
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	地域の経済と社会・文化 / Local Economy, Community and Culture		
担当教員(所属) / Instructor	根岸 秀行(人間発達科学部)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 木/Thu 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発)
時間割コード / Registration Code	103408	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours			
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
新聞やテレビ、ネットなどを通じて、現実世界の情報に常に気を配ること			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	地域(地方)社会の諸問題について、とくに経済的側面から、発生的に理解させること	
<p>この講義では、グローバル化の渦中にある現代日本の地域(地方)社会の諸問題を確認する。その上で、これらの問題をもたらした要因に関する様々な解釈を紹介し、これからのあるべき方向性について考察する。</p> <p>地域の社会・文化は経済活動の物質的基盤上に成り立ち、これらの総体としての地域社会はこれらの過去の積み重ねの上に成立する。この講義の視点は、とくに第二次大戦後の日本の地域社会(中央に対する地方社会)の経済循環が形成される過程に関する発生的観点からの考察となる。</p> <p>なお、講義内容と関連した教室外活動・見学などを予定する(但し、受講人数による)。</p>			
達成目標 / Course Goals			
<p>講義で用いる諸概念の内容の問いかけなどを通じ、地域(地方)社会の現在の諸問題について、とくに経済的側面から、根源にさかのぼって発生的に理解する姿勢を身につけさせる。</p> <p>また、講義への主体的・積極的な参加態度の育成もねらいとする。</p>			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション-地域社会とは何か</li> <li>2. 戦後日本の地域社会</li> <li>3. 地域開発政策とその効果 1</li> <li>4. 地域開発政策とその効果 2</li> <li>5. 地域社会維持のポイント</li> <li>6. グローバル化と地域経済</li> <li>7. 地域中小企業の動向</li> <li>8. 産業集積とその動態</li> <li>9. 地域中小企業と自治体・NPO</li> <li>10. 実地観察</li> <li>11. プレゼンテーション</li> <li>12. 内発的発展と外来型開発</li> <li>13. まとめ 1</li> <li>14. まとめ 2</li> <li>15. 地域社会の可能</li> </ol>			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
新聞に常に目を通すとともに、講義で得た知見を参考に、地域社会(とくに自己の出身地)の自治体や企業の活動について観察する。			
キーワード / Keywords	地域中小企業、内発的発展、グローバル化		
履修上の注意 / Notices	地域(地方)社会の現在と将来に関心のある学生の参加を期待する。		
教科書・参考書等 / Textbooks	開講時に指示する。なお、講義中にレジュメや資料を配布する。		
成績評価の方法 / Evaluation	期末テスト、ほか提出課題、小テストを総合して評価する。		
関連科目 / Related course	社会科学系の教養科目		
リンク先URL / URL of syllabus or other information			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course title	生命の世界 / Biological Science		
担当教員(所属) / Instructor	山本 将之(理学部生物学科), 土田 努(理学部生物学科), 伊野部 智由(工学部生命工学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 木/Thu 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発)
時間割コード / Registration Code	103411	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	山本 将之(mpyama(at)sci.u-toyama.ac.jp (送信の際に、(AT)を@に変更してください。)) 土田 努(tsuchida(AT)sci.u-toyama.ac.jp メール送信の際に、(AT)を@に変更)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	山本 将之(事前にメールで問い合わせてください。) 土田 努(面談時間を決めるので、メールで問い合わせてください)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
本講義では、動物や植物などのマクロレベルの生物学から、遺伝子やタンパク質などのミクロレベル生物学まで、幅広く生命の世界を俯瞰します。生命の設計図であるミクロな遺伝子が、どのようにしてマクロレベルの生物学に結びつのかイメージできるようにすることを目指します。			
達成目標 / Course Goals			
1、遺伝子の仕組みを理解すること。 2、タンパク質の形は働きを理解すること。 3、生物間相互作用を理解すること。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
(伊野部担当分) 第1週: 授業ガイダンス / 身の回りにあるタンパク質 第2週: タンパク質の形 第3週: タンパク質の働き 第4週: タンパク質をつくる・改造する 第5週: タンパク質が開く未来・理解力テスト (土田担当分) 第6週: イントロダクション・共生とは何か? 第7週: 生態系を構成する共生関係 第8週: 微生物との共生関係 第9週: 昆虫と微生物との密接な共生関係 第10週: 人の生活と共生・理解力テスト (山本担当分) 第11週: イントロダクション: 作物育種における生物学と分子遺伝学の基礎 第12週: 作物の起源と栽培化 第13週: 作物の育種と育種技術 第14週: 遺伝子組換え作物 第15週: 作物育種に関する最近のトピックス			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
事前学習: 前回までの配付資料, 授業ノートに目を通しておくこと 事後学習: 当日の講義ノートをまとめておくこと。随時、課題を課すのでレポートを作成すること。			
キーワード / Keywords	(伊野部担当分) タンパク質、酵素 (土田担当分) 生物間相互作用、共生、微生物 (山本担当分) 作物、遺伝、分子生物学		
履修上の注意 / Notices	5回以上欠席した場合や、遅刻が著しく多い場合は、評価にかかわらず不可とする。		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書の指定なし。配布資料を中心に講義を進める。		
成績評価の方法 / Evaluation	各担当教員ごとに3等分に配点し、それぞれ受講態度と、試験(伊野部、土田担当分)、レポート(山本担当分)を総合して評価する。		
関連科目 / Related course			
リンク先URL / URL of syllabus or other information			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course title	物理の世界 / Physical Science		
担当教員(所属) / Instructor	小林 かわり(理学部物理学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 木/Thu 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発)
時間割コード / Registration Code	103413	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	小林 かわり(理学部1号館A117 kaori@sci.u-toyama.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	小林 かわり(授業後30分 その他の時間帯は事前予約をお願いします。)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
家電製品から放射線や天文学まで物理は本来身近なものであるが、認識していないことも少なくない。身の回りの物理現象や天文現象に関連した物理について学び・物理的な考え方を習得ことを目標とする。			
達成目標 / Course Goals			
物理的なものの理解をするための基礎を身につけることができる。 エネルギーの概念を理解できる 放射線について理解できる			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
以下のようなテーマに従って講義を進めていく予定である。順序は変更することがある。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 力と運動(ニュートンの3法則), エネルギー保存則</li> <li>3. 回転</li> <li>4. 万有引力</li> <li>5. 気体分子運動論</li> <li>6. 熱力学</li> <li>7. 波の性質</li> <li>8. 光と波、量子力学</li> <li>9. 原子の成り立ち</li> <li>10. 放射線</li> <li>11. -13. 電気の性質</li> <li>14. 磁気と発電</li> <li>15. 標準</li> <li>16. 試験</li> </ol>			
6/21は休講です。補講を追って通知します。			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
振り返りの小テストがありますので、授業の内容を振り返っておいてください。			
キーワード / Keywords	物理, 力学, 熱力学, 電磁気学, エネルギー, 天文学		
履修上の注意 / Notices	高等学校での物理の履修は前提としない。		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は指定しない。参考書として以下の本を挙げるが、授業中にも随時参考書を紹介する予定である。 原康夫「物理学基礎」(学術図書出版社 2,592円)		
成績評価の方法 / Evaluation	前回ないし、その時の回の内容を振り返る小テスト(30%)と最終試験(70%)によって総合的に成績評価を行う。受講姿勢によって減点する。		
関連科目 / Related course			
リンク先URL / URL of syllabus or other information			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course title	自然と情報の数理 / Mathematical Principles in Natural Sciences and Intelligence		
担当教員(所属) / Instructor	出口 英生(理学部数学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 木/Thu 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発)
時間割コード / Registration Code	103412	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	出口 英生(研究室: 理学部 B 2 3 0 EMail: hdegu@sci.u-toyama.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	出口 英生(金曜日 15:00 - 18:00)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
無限や方程式などを題材にして、数学的なものの見方、考え方を紹介する。			
達成目標 / Course Goals			
(1) 集合の濃度の概念を理解できる。 (2) 実数のほとんどは超越数であることを理解できる。 (3) 3次方程式、4次方程式を解くことができる。 (4) 作図のルールを理解し、基本的な図形の作図ができる。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
受講生の理解度を確保するため、質問をしながら講義を進める。			
第1回 数(自然数、素数、整数、有理数、無理数) 第2回 数(代数的数、超越数、実数) 第3回 集合の概念 第4回 集合の演算 第5回 ものの個数、一対一対応 第6回 無限を数える 第7回 可算無限 第8回 非可算無限 第9回 べき集合 第10回 方程式の解の公式、3次方程式 第11回 4次方程式 第12回 作図法 第13回 基本的な作図 第14回 作図可能な数 第15回 作図不可能問題			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
毎回小テストを行うので、授業内容の復習をすること。			
キーワード / Keywords	数、集合、無限、方程式、作図		
履修上の注意 / Notices	高校で習う数学の知識を既知として講義を行う。		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は用いない。 参考書: 「数学とは何か」R・クーラント、H・ロビンズ 共著、岩波書店、2001年、ISBN: 4000055232, ¥6,090		
成績評価の方法 / Evaluation	小テスト(10点x15回)、発表(1回5点)の成績を総合して評価する。  秀: 90点以上 優: 80点以上90点未満 良: 70点以上80点未満 可: 60点以上70点未満 不可: 60点未満		
関連科目 / Related course			
リンク先URL / URL of syllabus or other information			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course title	現代と教育 / Present Day and Education		
担当教員(所属) / Instructor	長谷川 春生(教職実践開発研究科(専門職学位課程))		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 金/Fri 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工)
時間割コード / Registration Code	103501	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	長谷川 春生(金曜12:00~14:00, メールで事前連絡してから訪問すること。)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	社会の情報化と教育の関係について理解を深める。	
情報機器の活用と教育の関係, 情報化社会の進展と教育の関係の両面から, 社会の情報化と教育の関係を考え, 理解を深める。			
達成目標 / Course Goals			
(1)情報機器やICTを活用した学習の特徴を理解する。 (2)児童を取り巻く情報化社会の現状を把握し, 情報化社会に必要な学習の内容を理解する。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
第1回 オリエンテーション 第2回 教育の情報化とは 第3回 教育における情報機器・ICTの活用(OHP, 実物投影機等) 第4回 教育における情報機器・ICTの活用(コンピュータその1) 第5回 教育における情報機器・ICTの活用(コンピュータその2) 第6回 教育における情報機器・ICTの活用(インターネット等) 第7回 教育における情報機器・ICTの活用(指導者用デジタル教科書等) 第8回 教育における情報機器・ICTの活用(学習者用デジタル教科書等) 第9回 教育における情報機器・ICTの活用(21世紀にふさわしい学び) 第10回 情報モラル学習(文字によるコミュニケーションの特徴) 第11回 情報モラル学習(ネットいじめ) 第12回 情報モラル学習(ネット依存・ネット詐欺等) 第13回 メディアリテラシー学習(諸外国における実践) 第14回 メディアリテラシー学習(国内における実践) 第15回 まとめ			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
授業終了時に示す課題について次回の授業までにまとめ, 学習を深めるようにする。その内容を次回の授業の予習内容として授業を進める。			
キーワード / Keywords	ICT 情報モラル学習 メディアリテラシー デジタル教科書		
履修上の注意 / Notices	<ul style="list-style-type: none"> <li>必ず出席すること。3回以上欠席した者は評価の対象としない。</li> <li>受講希望者が多数の場合, 人数制限を行うこともあるので, 希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。</li> <li>毎回, 課題にかかわる説明を30分程度行った後, A4用紙1枚程度に自分の意見をまとめ, それを互いに発表し合う中で, 考察を進める。毎時間終了後, 各自がA4用紙に記述したものを提出し, それにより出席と認める。</li> <li>受講者の既習内容・興味関心等に合わせて授業計画を柔軟に変更して実施する予定である。</li> </ul>		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は特に定めず, 適宜資料を配付する。		
成績評価の方法 / Evaluation	毎回提出するレポート(50%)と最終レポート(50%)により行う。 毎回提出するレポートの評価は, 課題に関わる説明を理解した上で, 各自の考えが述べられているかどうかによって行う。最終レポートの評価は, 講義全体を通して学んだことを基に, 達成目標に関わる内容が十分に述べられているかどうかによって行う。		
関連科目 / Related course			
リンク先URL / URL of syllabus or other information			



授業科目名(英文名) / Course title	外国文学 / Foreign Literature		
担当教員(所属) / Instructor	佐藤 真基子 (教養教育院)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 金 / Fri 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発)
時間割コード / Registration Code	103502	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours			
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	文学をとおして、他者を理解する感性を身につける。理解したことを言葉によって表現する力を身につける。	
西洋古典古代の文学作品の読解をとおして、多様な世界の見方と教養を身につける。時代も文化も異なる外国の文学作品を理解するには、文字を読めたところで十分ではない。その作品の背景にある文化、伝統、教養についての知識をもってはじめて理解することができる。そうして作品世界に近づくことによってはじめて見えてくる世界を知るよるこび、作品と対話する面白さを体験してほしい。			
達成目標 / Course Goals			
1) 西洋古典文学の概要を知る。 2) 自分とは異なる世界についての多様なものの見方を学び、他者を理解する感性を身につける。 3) 本を通して読み取ったことを言葉によって表現する力を身につける。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
西洋古典古代の文学作品について、その歴史的・文化的背景を学ぶとともに、それらが影響を与えた後世の文芸作品とならべて読みながら、その普遍性を検討していく。 1. 導入：西洋古典文学と現代 作品の背景、伝統、教養を知る楽しさ 2. 古代地中海世界と「英雄」(1)：ホメロス『イリアス』、『オデュッセイア』 3. 古代地中海世界と「英雄」(2)：ウェルギリウス『アエネイス』 4. ウェルギリウスとダンテ 5. 神話と哲学(1)：ソクラテスとプラトン 6. 神話と哲学(2)：オウィディウス 7. オウィディウス、カルヴァーノ、エンデ 8. 古代の文学論(1)：アリストテレス 9. 古代の文学論(2)：キケロ 10. 西洋文学の源流としての聖書(1)：『創世記』 11. 西洋文学の源流としての聖書(2)：楽園神話とミルトン『失楽園』 12. 西洋文学の源流としての聖書(3)：イエスのたとえ話 13. 自伝文学の元祖：アウグスティヌス『告白』(1) 14. 自伝文学の元祖：アウグスティヌス『告白』(2) 15. まとめ：人間にとって文学とは何か			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
事前学修として、次週用に配布される資料を中心に、各回に取り上げる作品を部分的にでも読んでみることに。 事後学修として、授業内で紹介した参考書等も手引きとしながら、授業内容の理解を深めること。			
キーワード / Keywords	外国文学、西洋古典、聖書		
履修上の注意 / Notices	古典文学を学ぼうという意欲をもって授業にのぞむこと。		
教科書・参考書等 / Textbooks	授業内でプリントを配布し、特定の教科書は指定しない。参考書は授業内で紹介する。		
成績評価の方法 / Evaluation	授業内で、授業内容をふまえた課題について作文を書いてもらう。それによって評価する。		
関連科目 / Related course			
リンク先URL / URL of syllabus or other information			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course title	音楽 / Music		
担当教員(所属) / Instructor	坂本 麻実子(人間発達科学部)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 金 / Fri 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理, 工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発)
時間割コード / Registration Code	103503	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	坂本 麻実子(B4 - 201室 msakamot@edu.u-toyama.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	坂本 麻実子(火12:30~13:00、16:15~16:30 事前にメールで質問内容を連絡してから来室すること。)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
<p>「クラシック・ピアノの音楽史」          ピアノの基礎を学んでいる学生を対象に、ピアノの実技指導を取り入れながら西洋のピアノ音楽の歴史を解説する。ピアノは独奏でも合奏でも魅力的な楽器である。また、交響曲やオペラのような大編成の音楽もピアノ用に編曲すれば1台で再現できる。そのため古今の作曲家たちはピアノのために数多くの作品を書いており、ピアノ音楽の歴史はピアノの名曲の歴史という一面がある。この「音楽」の授業では西洋音楽の歴史を講義と初級～中級レベルの楽曲による実演(独奏または連弾)の2本立てで学ぶ。</p>			
達成目標 / Course Goals			
ピアノ音楽の名曲を個人的な好みで弾きちらすのではなく、時代背景や作曲家の個性的な技法を理解した上で演奏できるようにする。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 西洋音楽史の基礎的用語の解説</li> <li>3. ピアノ誕生以前 バロックのオルガン、チェンバロ音楽</li> <li>4. 古典派のピアノ音楽(講義)</li> <li>5. 古典派のピアノ音楽(実技)</li> <li>6. ロマン派のピアノ音楽(講義)</li> <li>7. ロマン派のピアノ音楽(実技)</li> <li>8. 近・現代のピアノ音楽(講義)</li> <li>9. 近・現代のピアノ音楽(実技)</li> <li>10. 歌曲におけるピアノ伴奏について</li> <li>11. ピアノ・コンチェルトについて</li> <li>12. ピアノを含む室内楽について</li> <li>13. 伴奏と合奏(実技)</li> <li>14. ピアノ実技のまとめ</li> <li>15. ピアノ音楽史のまとめとテスト</li> </ol>			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
指定したピアノ曲をCD等聞いた上で授業に出席すること。 課題曲を出すので練習すること。課題曲が合格レベルに達しなければ単位修得は難しい。 本授業を一つの契機と考えて、自分のピアノ・レパートリーを増やしていくこと。			
キーワード / Keywords	音楽、西洋音楽史、ピアノ		
履修上の注意 / Notices	この「音楽」の授業は実技を伴うので、本学人間発達科学部1年生対象の「音楽A・B」既習程度(詳細はシラバスを参照のこと)、またはバイエル終了程度の読譜力とピアノの演奏技能が必要である。		
教科書・参考書等 / Textbooks	参考書: 久保田慶一他『はじめての音楽史』(増補改訂版)音楽之友社、2009 柴田南雄『音楽史と音楽論』岩波現代文庫、2014		
成績評価の方法 / Evaluation	課題曲に合格すること(70%)。テスト(30%)。		
関連科目 / Related course	音楽A・B(人間発達科学部)		
リンク先URL / URL of syllabus or other information			

備考 / Notes

受講生は20名までとし、20名を超えた場合は第1回目の授業の最初に簡単な課題曲を出し、演奏力を判断して決定する。受講希望者は第1回目に必ず出席すること。代理は不可。

授業科目名(英文名) / Course title	現代社会論 / Contemporary Society		
担当教員(所属) / Instructor	竹村 卓(人文学部)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 金/Fri 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済)
時間割コード / Registration Code	103505	対象学年 / Eligible grade	2年 単位数 / Credits 2.0
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	竹村 卓(林: natsuo@hmt.u-toyama.ac.jp 竹村: taketaku@hmt.u-toyama.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	竹村 卓(林: 火曜12:10-12:50・木曜12:10-12:50 事前にメールでアポイントメントをとること。 竹村: 金曜12:15-12:45: 事前にメールでアポイントメントを必ずとること。)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
【注目!】講義専用ノートと配布資料保存用専用フォルダを「必ず」用意すること!! 毎回ニュースウォッチ提出のため、新聞を読んでニュースをまとめる。配布プリント読破及びプリントの分類と整理。授業を理解するためには、配布資料の読破が必要不可欠です!一週90分の授業を受講するだけで、現代社会を理解しようなんて、甘ぁーい(C)スピードワゴン)!!甘すぎるぅー!!			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
トランプ旋風! ツイッター攻撃?! Fake News?! 「国境に壁」??? 私たちが「今」生きているこの世界、この社会は疑問符=?と感嘆符=!に溢れています。その主に2年生のアナタ! そうアナタですよアナタ!! 大学に入って1年、ホッと(またはポーッと)したままでは、?が?のまま卒業してしまいますよ、あと3年で(>_<) この授業は、今の世界と社会を見る目を養うための授業です。あっそうだ! 特に理工系学生のみなさん、今世界や社会で起きている出来事は、天然自然、勝手にころがって起きているものではありません。「人為」という言葉が示すように、すべて「ヒト」の「なす」行為が、原因となり結果となっているのです。私たちがあつかう対象は、すべてartificialな人工のものなのですヨ。ヒトツそこんところ、ヨロシク!(^^)!			
達成目標 / Course Goals			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日々のニュース(特に国際関係や政治経済関係のもの)に関心を持ち、そのニュースの内容を簡潔にまとめて紹介できるようになる。</li> <li>2. 自分が関心をもつニュースや国際関係を理解する上で重要なことについて、関連する新聞記事や研究論文など信頼できる情報源を探し、自らの力で調査することができるようになる。</li> <li>3. 自分が関心をもつニュースや国際関係を理解する上で重要なことについて、調査結果をふまえ、自らの力で簡単な分析を加えることができるようになる。</li> <li>4. 世界史・日本史・政治経済・地理など、大学入学まで未履修の科目の内容にも興味を持つようになる。</li> <li>5. 配布資料などを分類整理する習慣を見につける。</li> </ol> <p>そうそうあと「打たれ強くなる」のも目標の一つです(*^_^*)</p>			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
授業は講義形式で行います。			
<p>授業スケジュール予定: あくまでも「予定」です。国内国外を問わず、大きな出来事が起きたら授業内容を変える可能性があります。この授業があつかう世界や社会は、ヒトの営為が織りなす「生き物」またはナマモノなのでから。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2017年4月の世界と物事の調べ方</li> <li>2. 物事の調べ方その2: 池上彰さんのやり方は?</li> <li>3. ニュースウォッチのすすめ</li> <li>4. 情報リテラシーとかメディアリテラシーってなあに?</li> <li>5. 世界各国の政治システム: インプットとアウトプット1</li> <li>6. 多様なシステムを理解するには?: インプットとアウトプット2</li> <li>7. ブラックボックス=政策形成(決定)過程に踏み込む: インプットとアウトプット3</li> <li>8. システムの主役は誰?: インプットとアウトプット4</li> <li>9. 実はあなたが主人公: 「主権者」の意味1</li> <li>10. 主人公の責任とは?: 「主権者」の意味2</li> <li>11. 自衛権と集団的自衛権: 安全保障入門</li> <li>12. 核抑止論の落とし穴1: 論理的に考える</li> <li>13. 核抑止論の落とし穴2: 「核の傘」は「破れ傘」</li> <li>14. 「自爆テロ国家」って何?</li> <li>15. まとめと2017年7月の世界</li> <li>16. 試験</li> </ol>			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			

1. 事前学修：毎回ニュースウォッチ提出のため、新聞を読んでニュースをまとめる。	
2. 事後学修：配布プリント読破及びプリントの分類と整理。授業を理解するためには、配布資料の読破が必要不可欠です！一週90分の授業を受講するだけで、現代社会を理解しようなんて、甘ぁーい( (C) スピードワゴン) ! 甘すぎるぅー!!	
キーワード / Keywords	国際関係、情報リテラシー、メディアリテラシー、歴史、抑止、自衛権、構造的暴力、積極的平和、人間の安全保障、主権、主権者、主権者教育、核の傘、ピンのふた
履修上の注意 / Notices	<p>毎回ニュースウォッチの提出を求めます。出欠は、提出されたニュースウォッチによって判断します。ニュースウォッチの内容などについては、講義中に説明する予定です。</p> <p>科目専用のノートをご用意下さい。担当教員の特徴として、話の内容があっちこっちに「飛ぶ」場合がありますので、注意してノートを取って下さい。本題から離れた付け足しのような挿話やボソッともらすオヤジギャグにも、めげないで！^0^！一寸(どこではない?)古いタイプの大学講義ですけど。。。(^_^;</p> <p>講義内容のレジュメは、必要最小限度に留める予定です。但し、参考のためプリント類を配布するので、プリントを分類して保管する専用のフォルダも準備して下さい。他の受講生の迷惑にならない限り、講義の録音・録画を許可します(担当者はどう見てもヴィジュアル系ではありませんけれど(〜;))。したがって講義内容の聞き逃しなどによる質問にお答えするつもりも義務もありません。受講生には大学生としての「自己責任」が求められるので、当然のこととお考え下さい。</p>
教科書・参考書等 / Textbooks	<p>教科書は使用しません。理由については講義中に説明しましょう。</p> <p>参考書：曾田三郎他『高等学校世界史A』第一学習社(高校用教科書)  佐々木毅・多賀秀敏・間宮陽介他著『現代社会』東京書籍(高校用教科書)  新井明他『資料政・経2016』東学(高校用副教材)  池上彰・佐藤優著『大世界史』文春新書  同『僕らが毎日やっている最強の読み方』東洋経済新報社  猪木正道著『軍国日本の興亡』中公新書  猪瀬直樹著『昭和16年夏の敗戦』中公文庫  同『空気と戦争』文春新書  大沼保昭著聞き手江川紹子『「歴史認識」とはなにか』中公新書  草野厚著『政策過程分析入門』東京大学出版会  同『政策過程分析入門第2版』東京大学出版会  久米郁夫他著『政治学【補訂版】』有斐閣  佐和隆光著『経済学のすすめ』岩波新書  東海大学教養学部国際学科編『第3版国際学のすすめ』東海大学出版会  同編『日本の外交と国際社会第2版』同  西川潤著『世界経済入門第3版』岩波新書  藤原孝章著『「シミュレーション教材」ひょうたん島問題』明石書店  松井芳郎他著『国際法【第5版】』有斐閣  琉球新報・山陰中央新報編『環(めぐり)の海』岩波書店</p> <p>人文学部国際関係論教育研究分野の教員(林夏生・竹村)が担当する科目のシラバス参照のこと。  他の参考文献等については講義中に指示を与えます。</p>
成績評価の方法 / Evaluation	<p>学期末試験の成績(70%)・ニュースウォッチなどの中間提出物(20%)・受講態度などの平常点(10%)を総合的に判断して、評価を行います。試験問題などは講義中に指示を与える予定です。</p>
関連科目 / Related course	<p>総合科目：「平和学入門」  人文学部1年生配当科目：「社会文化入門」(前期)・「国際関係論概論」(後期)  同2年生配当科目：国際関係論特殊講義・社会文化特殊講義・社会文化講読  人間発達科学部開講予定科目：「国際政治学」・「平和学」・「人間の安全保障論」などなど。</p>
リンク先URL / URL of syllabus or other information	<p>人文学部社会文化コース国際関係論教育研究分野ウェブサイト  <a href="http://www.hmt.u-toyama.ac.jp/ir/">http://www.hmt.u-toyama.ac.jp/ir/</a></p>
備考 / Notes	<p>予習復習はキチンとやろう！一週90分の授業を受講するだけで、現代社会を理解しようなんて、甘ぁーい、甘い!!</p>

授業科目名(英文名) / Course title	経済生活と法 / Law and Economy		
担当教員(所属) / Instructor	石田 眞(経済学部経営法学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 金/Fri 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発)
時間割コード / Registration Code	103507	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours			
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
今日の経済社会において、株式会社は切っても切り離せない存在になっている。また、将来皆さんが就職する可能性が高いのも、この株式会社である。この様に、皆さんにとってかわりの深い株式会社を中心に、会社について会社法からの視点で講義を行います。本講義は、会社法の体系的な理解もさることながら、現在問題とされている会社関連の問題についても理解を深めることができるように講義を進めたいと考えています。			
達成目標 / Course Goals			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社に関する理解を深めることができる。</li> <li>・新聞等の情報をより深く理解できるようになる。</li> </ul>			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 会社について</li> <li>3. 株式会社の機関設計</li> <li>4. 株式会社の機関設計</li> <li>5. 株主の権利と義務</li> <li>6. 取締役等の責任</li> <li>7. 責任制限制度</li> <li>8. コンプライアンス</li> <li>9. 会社の不祥事</li> <li>10. 会社の不祥事</li> <li>11. 株式について</li> <li>12. 資金調達</li> <li>13. 株式会社の生成と変動</li> <li>14. 株式会社以外の会社形態</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
(事前学習) 授業計画の次回講義に該当するところを参考書にて確認しておくこと。			
(事後学習) 講義で行った内容を参考書で確認し、理解すること。			
キーワード / Keywords	会社法、株式会社、企業不祥事		
履修上の注意 / Notices	私語厳禁。携帯電話等(メールを含む)の使用禁止。特に、着信音は鳴らさないように。違反した者については、単位認定に際して、悪い影響を及ぼすことになる。		
教科書・参考書等 / Textbooks	初回の講義において指示する。		
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験(90%)、小テスト(10%)にて評価する。		
関連科目 / Related course			
リンク先URL / URL of syllabus or other information			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course title	市場と企業の関係 / Market and Enterprise		
担当教員(所属) / Instructor	坂田 博美(経済学部経営学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 金/Fri 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発)
時間割コード / Registration Code	103508	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	坂田 博美(経済学部棟 6 F 6 3 0 研究室 電話: 076-445-6459)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	坂田 博美(前学期: 金曜2限 後学期: 木曜3限)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
<p>本講義では、市場での取引の問題を取り上げる。私たち消費者は日々、スーパー・コンビニエンスストア等の小売店で食品を購入している。しかし、店頭に並んでいる食品が、どのように取引されているのか、知らないことも多い。そのため、残念ながら、食品が手に入るもののありがたさや貴重さ、ひいては、日本の食文化を守ることの大切さに気がつくにくくなっている。</p> <p>日本人の食生活に欠かせない味噌・醤油・豆腐は、大豆を加工した食品である。日々の食生活に欠かせない味噌・醤油・豆腐は、誰の手によって作られ、どのようにして私たちの手に渡っているのだろうか。「畑の肉」と呼ばれるほど、タンパク質含有量が多い大豆であるが、そのままでは体内に吸収されない。そのため、さまざまな形に加工することで、日本人の食生活の栄養源となってきた。そうした日本の伝統的な食品である「大豆加工食品」、中でも「豆腐」を取り上げてみたい。</p> <p>では、豆腐が作られるまでには、どのような取引がなされているのだろうか。大豆が生産・加工され、小売店などに出荷されるまでの過程について、理解を深めていきたい。</p>			
達成目標 / Course Goals			
本講義を通じて、誰もが日々手にしている食品がどのように作られて、そして、流通しているのか、その過程において、どのような企業が関わっているのかについて理解することができる。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
<p>毎回配付資料に基づいて、講義を進めていく。講義終了後に提出する小レポートを課すこともある。ゲストスピーカーに来ていただくのご講演も予定している。</p> <p>第 回(4/14)オリエンテーション: シラバス説明  第 回(4/21)イントロダクション(1): 大豆  第 回(4/28)イントロダクション(2): 大豆加工食品  第 回(5/02)流通とは何か(1): 流通の役割/直接流通と間接流通  第 回(5/12)流通とは何か(2): 卸売業と小売業/流通の機能  第 回(5/19)食品流通(1): 流通経路の基本類型  第 回(5/26)食品流通(2): 食品流通の問題点  ・DVD『NHKプロフェッショナル仕事の流儀』鑑賞  第 回(6/02)食品流通(3): 食品流通の問題点  第 回(6/09)青果物の流通  ・DVD『NHKプロフェッショナル仕事の流儀』鑑賞  第 回(6/16)大豆の生産: 大豆の自給率・国産大豆  第 回(6/23)大豆の流通(1)大豆商(大豆問屋)の役割・遺伝子組み換え大豆(1)  第 回(6/30)大豆の流通(2)遺伝子組み換え大豆(2)  第 回(7/07)大豆加工食品の流通/レポートの書き方説明  第 回(7/14)ゲストスピーカー講演予定  第 回(7/21)まとめ/期末レポート説明</p>			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
事前学修として、テキストを読んでおくこと。事後学修として、配布資料を読み直しておくこと。			
キーワード / Keywords	食品流通、大豆・豆腐		
履修上の注意 / Notices	講義中は飲食禁止。30分以上遅刻しないこと。		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: 茂野隆一他(2014)『食品流通 新版』、実教出版。価格: 1,458円 参考書: 石川 伸(2011)『大豆が教えてくれること: たかが豆腐、されど豆腐』、日新報道。価格: 1,296円		
成績評価の方法 / Evaluation	平常点(小レポート)50%、期末レポート50%によって評価する。		
関連科目 / Related course	経営学特殊講義食品流通論		
リンク先URL / URL of syllabus or other information			



授業科目名(英文名) / Course title	地球と環境 / The Earth and Its Environment		
担当教員(所属) / Instructor	渡邊 了(理学部地球科学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 金/Fri 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済)
時間割コード / Registration Code	103511	対象学年 / Eligible grade	2年 単位数 / Credits 2.0
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours			
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
大雪、台風、地震、津波、火山、資源など、ニュースには地球科学があふれている。豊かな自然に恵まれた日本は、自然災害の多い土地でもある。自然と共生するためには、自然をよく理解することが必要だろう。この授業では、身近な地球科学的トピックをピックアップして分かりやすく解説し、皆さんの自然に対する理解を深めたいと考えている。			
達成目標 / Course Goals			
1) 暦や季節と地球の運動の関係を説明できる。 2) 地震とは何かを説明できる。 3) プレート・テクトニクスの枠組みで地震や火山を説明できる。 4) 火山と温泉の関係について説明できる。 5) 梅雨や台風について説明できる。 6) 石油や石炭の起源について説明できる。 7) 鉄鉱石の起源について説明できる。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
1) オリエンテーション(内容紹介および授業の進め方) 2) 暦-1年, 1月, 1週間, 1日 3) 四季と月 4) 地震(1) 明治維新と地球内部構造 5) 地震(2) 震度とマグニチュード 6) 地震(3) 地震予知 7) プレートテクトニクス(1) 第2次大戦前 8) プレートテクトニクス(2) 第2次大戦後 9) 火山(1) 火山はどこにあるのか 10) 火山(2) 温泉 11) 山はどうしてできるか? 12) 気象(1) 梅雨 13) 気象(2) 台風 14) 資源(1) 化石燃料 15) 資源(2) 鉄			
下のホームページにおいて授業で使用するパワーポイントのファイルを公開します(ただし, その週の水曜日から)。必要に応じて活用して下さい。			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
下記webにおいて授業スライド, 関連する課題を提示します。			
キーワード / Keywords			
履修上の注意 / Notices	高校理科の知識は前提とします。忘れた, 不足している, と思う場合は自分で補ってください。黙って座っていて分かるほど甘くはありません。		
教科書・参考書等 / Textbooks	(1) 新しい高校地学の教科書, 杵島・松本・左巻編著, 講談社ブルーバックス (2) (3)		
成績評価の方法 / Evaluation	レポートの成績をもとに評価する。レポート課題は5月の授業で提示する。		
関連科目 / Related course			
リンク先URL / URL of syllabus or other information	<a href="http://www3.u-toyama.ac.jp/twatnabe/">http://www3.u-toyama.ac.jp/twatnabe/</a>		
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course title	生命の世界 / Biological Science		
担当教員(所属) / Instructor	田中 大祐(理学部生物圏環境科学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 金 / Fri 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発)
時間割コード / Registration Code	103512	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours			
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
地球上には、目に見えない微生物から、植物、動物など、多種多様な生物が生息している。それぞれの生物体内では、精巧に調節された生命現象が営まれている。この授業では、生命現象を理解するために、生化学を中心に生物学の基礎を学ぶ。また、水環境、土壌環境、大気環境に生息する微生物にも触れ、微生物の基本的な性質、機能、解析手法について紹介・説明する。環境中の微生物の存在や意義に関心を持ってもらえればと考えている。			
達成目標 / Course Goals			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞の構造を理解する。</li> <li>・生体内の構成成分を理解する。</li> <li>・遺伝情報の流れを理解する。</li> <li>・環境中の微生物に関する基礎的知識を得る。</li> </ul>			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
1. 授業の概要説明, 生命とは? 2-3. 細胞の構造 4-9. 生体内の構成成分 10-11. 遺伝情報の流れ 12-15. 環境と微生物			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
授業内容について, 事前・事後に学習して理解を深めておくこと。			
キーワード / Keywords	生化学, タンパク質, 脂質, 糖, 核酸, 遺伝情報, 微生物, 環境		
履修上の注意 / Notices	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義ノートを作成し, 復習をしっかりと行うこと。</li> <li>・無断で遅刻・欠席しないこと。5回以上欠席した場合, 成績評価しない。</li> </ul>		
教科書・参考書等 / Textbooks	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は使用しない。</li> <li>・必要に応じて資料を配布する。</li> </ul>		
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験(80%), 小テスト(20%)。受講態度も含む場合がある。		
関連科目 / Related course			
リンク先URL / URL of syllabus or other information			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course title	技術の世界 / Technology		
担当教員(所属) / Instructor	小野 恭史(機器分析センター), 関本 昌紘(工学部機械知能システム工学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 金 / Fri 1	対象所属 / Eligible Faculty	2年(人文), 2年(理, 工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発)
時間割コード / Registration Code	103513	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	小野 恭史(076-445-6825 / 機器分析施設 / yono@ctg.u-toyama.ac.jp) 関本 昌紘(Tel:445-6798、e-mail:sekimoto@eng.u-toyama.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	小野 恭史(平日12:15-12:45) 関本 昌紘(金曜5限(16:30-18:00)または講義終了後)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
【前半】ロボットは我々の生活の中で身近なものになりつつある。「ロボットの動きの仕組み」について「人間の動きの仕組み」と対比しながら学び、ロボットのできる・できないことに関して理解を深める。 【後半】環境に優しい化学技術として、「グリーンケミストリー」をキーワードとする技術開発の動向を知ってもらうために、近年の化学技術をオムニバス形式で紹介しします。			
達成目標 / Course Goals			
1. ロボットの動く基本的な仕組みを理解できる。 2. ロボットの得意・苦手とすることを理解できる。 3. 環境負荷を軽減する化学技術について理解する。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
「ロボットの動く仕組み(関本)」 1) 受講上の注意・講義の概要(全体) 2) ロボットとは? 3) 製造業におけるロボットの展開 4) ロボットの動く仕組み(1): フィードバック制御 5) ロボットの動く仕組み(2): 軌道制御 6) ロボットの動く仕組み(3): デバイス 7) 人の動きの仕組みに学ぶ - センソリ・モータ・コーディネーション - 8) 身近に実在するロボットテクノロジー 「環境にやさしい化学技術(小野)」 9) 太陽光の化学的利用 10) 化学的な太陽電池 11) 環境にやさしい水素エネルギー 12) 地球にやさしい高分子 13) エコフレンドリーな表示技術 14) 水(1) -身のまわりの水 15) 水(2) -最近の機能水			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
欠席したり課題の提出を怠ったりすると単位の修得は困難となる。			
キーワード / Keywords	ロボット、アクチュエータ、センサ、エネルギー・環境問題、再生可能エネルギー		
履修上の注意 / Notices	履修者は理工系以外が望ましい。理数系科目が苦手でもできるだけわかりやすく解説する。		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は使用しない。 参考書: (関本) 瀬戸文美「絵でわかるロボットのしくみ」講談社 : (小野) 安保重一・水野一彦編「環境にやさしい21世紀の化学」エヌ・ティー・エス		
成績評価の方法 / Evaluation	出席は前提条件。レポート(前半)(50%), 小テスト・レポート(後半)(50%)を総合的に判断し、評価する。		
関連科目 / Related course			
リンク先URL / URL of syllabus or other information			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course title	音楽 / Music			
担当教員(所属) / Instructor	千田 恭子(人間発達科学部)			
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目			
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目	
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月 / Mon 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(発達), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)	
時間割コード / Registration Code	101111	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	千田 恭子(senda@edu.u-toyama.ac.jp)			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	千田 恭子(月曜日 3時限 メールで事前連絡してから訪問すること)			
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	舞台作品を楽しむ心と理解を深める。		
一般的には馴染みのない総合芸術と言われる舞台作品に焦点をあてて、作品の背景や作曲家の特徴等を理解するとともに、音楽を楽しむ心、作品を尊重する心を養う。				
達成目標 / Course Goals				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台作品の歴史的流れを理解する</li> <li>・作品を鑑賞し、作品の背景や作曲家の特徴、人間関係等を理解する</li> <li>・原作がある場合は相違点を探る</li> <li>・課題となった合唱曲を楽しんで演奏する</li> </ul>				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 舞台作品の誕生と歴史 - オペラ (準備) 音楽史の流れを事前に調べておくこと</li> <li>3. 課題1の時代背景・作曲家・原作等を探る</li> <li>4. 課題1の鑑賞(前半)</li> <li>5. 課題1の鑑賞(後半)</li> <li>6. 作品を歌う / 課題2の時代背景・作曲家を探る</li> <li>7. 課題2の鑑賞(前半)</li> <li>8. 課題2の鑑賞(後半)</li> <li>9. 舞台作品の誕生と歴史 - オペレッタ・ミュージカル</li> <li>10. 課題3の時代背景・作曲家を探る / 作品を演奏する</li> <li>11. 課題3の鑑賞(前半)</li> <li>12. 課題3の鑑賞(後半)</li> <li>13. 課題4の時代背景・作曲家を探る / 作品を歌う</li> <li>14. 課題4の鑑賞(前半)</li> <li>15. 課題4の鑑賞(後半) / まとめ</li> </ol>				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1~4の各課題は事前に指定しますが、同時代の作曲家による作品の特徴を調べておくこと。</li> <li>・課題に原作がある場合は鑑賞前後にかかわらず読んでおくこと。</li> <li>・各課題の鑑賞後に提示した作品の中から1作品を選択し、DVD等で鑑賞しノートを作成すること。</li> </ul>				
キーワード / Keywords	オペラ オペレッタ ミュージカル 舞台芸術 音楽史 オペラ史 文学			
履修上の注意 / Notices	CDやDVDを用いた音楽鑑賞が演習に含まれる。演習に参加しない者や鑑賞時間中の静粛を妨げる者は受講をおことわりする場合がある。			
教科書・参考書等 / Textbooks	必要な教材はプリントで配付するので、履修者の負担による購入する楽譜等はない。			
成績評価の方法 / Evaluation	演習参加状況と毎時間のレポートで総合的に評価する。			
関連科目 / Related course				
リンク先URL / URL of syllabus or other information				
備考 / Notes	履修者が25名を超えた場合は履修制限をかける。 合唱、オペラ、ミュージカルに興味があり、楽譜が読める者が望ましい。			

授業科目名(英文名) / Course title	現代社会論 / Contemporary Society				
担当教員(所属) / Instructor	橋本 勝(教育推進センター)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101112	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	橋本 勝(メール: vhashi@ctg.u-toyama.ac.jp 電話: 076-445-6198 研究室は五福キャンパス共通教育棟B棟4F(A棟のエレベーターを降りて左の突き当り、A棟とB棟は各階とも一体化しています。))				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	橋本 勝(原則として火・水・金の16:45~18:15 (5限が不都合な人はまずメール連絡して下さい。他の日時でも対応可能です。) 逆に出張、会議等で火・水・金の5限でも対応出来ない日もあり得ます。研究室前の掲示で確認して下さい。)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
<p>授業の性質上、月・火の3コマ合計で約250名を受講上限とし、月・火2限については、原則として120名程度を上限とするので、受講希望者は初回の授業に必ず出席して下さい。大幅に希望者数が120名を上回る場合、初回授業の冒頭で公開抽選を行います。(抽選結果は10:45頃には判明します。)もし体調不良などで初回をやむなく欠席した人は翌日までにメール連絡して下さい。抽選は学生番号で行いますから初回を欠席しても2回目から合流できる可能性があります。この連絡が条件です。一方、抽選漏れの場合も、強い受講意志がある場合は特別な救済措置で受講の可能性が残ります。(詳細は初回授業で説明します。)尚、抽選対象は1年生のみで、上級生やオープンクラス生などは原則として希望者全員を受け入れます。</p>					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	(A)多面的な視点から考える能力 (G)コミュニケーション能力と国際感覚の修得			
<p>社会科学の一般的な理論概要を教員が一方向的に教えるオーソドックスな講義スタイルとは全く異なり、現代社会の具体的問題について受講生同士の話し合いや質疑応答をメインにする独特の「橋本メソッド」により、「主体的な学び」を体験するとともに「楽しさ」を追究する授業です。過度な負担を避けるライト・アクティブラーニングにより、表面的・表層的な知識ではなく責任ある市民力としての知性を自然に身につけることを目指します。話すことが苦手な人が無理なくコミュニケーション能力を高める授業でもあります。受講者数にもよりますが、通常は3or4人のチームを作りチーム対抗という形になりますので友人との絆を深めることもできますし新しい友人を作ることに役立ちます。現代社会に関する幅広い内容について、みんなで気軽に議論してみましょう。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<p>さまざまなテーマの中から自分たちの興味や関心に合わせて、また若干のゲーム的駆け引きにより選んだ2つのテーマに関して、授業外学習として自分たちなりのアプローチを行い、種々の情報源から適切な情報を取捨選択して口頭報告案をまとめる中で、情報収集力、分析力、批判力、表現力、主張力を高めますが、報告自体よりも質疑応答が重視されますから、質疑に対して十分な応答をする作業を通じて、即答力を中心としたコミュニケーション能力を伸ばすことにもなります。但し、そうした面での潜在能力を無理なく発揮させるための工夫が随所になされており、こうした力を自然に引き出します。また、協調性、積極性を高め、ひいては人間性を高めることも目標とします。他の受講生の感性の違いから受ける刺激が多くなることが期待され、知的成長を促進する面もあります。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<p>第3回~第13回は2月のシラバス入力段階では参考までに昨年度の設定テーマを仮テーマとして示しておきます。4/10の初回授業で確定テーマを示すとともにその直前にWEB情報としては修正します。可能なら初回授業前に確認して下さい。</p> <p>第1回(4/10)橋本メソッドの説明/チーム結成&amp;テーマ選択  第2回(4/17)プロローグ:橋本メソッド事始め  第3回(4/24)【仮】アベノミクスは上手くいっているのか  第4回(5/1)【仮】日本でのイスラム過激派テロの危険性を探る  第5回(5/8)【仮】原発再稼働問題を考える  第6回(5/15)【仮】富山環境サミットの意義と限界  第7回(5/22)【仮】2020年東京五輪への期待と不安  第8回(5/29)【仮】“世界の日本化現象”をどうみるか  第9回(6/5)【仮】日本語の乱れは変化なのか  第10回(6/12)【仮】TV視聴率の信頼性を考える  第11回(6/19)【仮】富山大学にしかない魅力を探る  第12回(6/26)【仮】リサイクル批判論をどう考えるか  第13回(7/3)【仮】今、富山で大地震が起こったら...  第14回(7/10)現代社会に関する自由エントリー  第15回(7/24)エピローグ:橋本メソッド事納め(最終小試験を含む)</p>					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					

<p>自分達がエントリーする予定の回の事前学習  授業外でチームで集まり、調査や討議を重ねてレジュメ案を作成します。どれだけ時間をかけるかはチーム次第です。尚、発表チームに選抜された場合は、多くの質問に的確に回答するための準備が必要ですが選抜決定から授業までは3日しかないため、レジュメ案作成段階からその準備もある程度しておく必要があります。</p> <p>自分達がエントリーしない回の事前・事後学習  チーム内あるいは友人・知人・家族とそのテーマにつき予め話し合っておくと授業での討議内容が理解しやすくなりますし自然な発言を促します。事後に話し合うのも知性アップに役立ちます。もちろん、事前・事後を問わず、関連文献を読むのも有効です。</p>	
キーワード / Keywords	橋本メソッド、ライト・アクティブラーニング、現代社会、日本、討論、質疑応答、主体的学び、グループワーク、競争原理、知の共有化、ゲーム感覚、相互集団教育力
履修上の注意 / Notices	日本語が使えることが唯一の履修条件です。話すことが好きな人はもちろん、話すことが苦手な人でも気軽に受けられます。社会現象に対して自分なりの意見がある人も逆にそうしたことにはあまり関心を持っていない人も自由に参加して下さい。高校の「現代社会」とは全くイメージが違います。話すだけではなく毎回書く作業（シャトルカード）もありますが、これも気軽に臨めるものです。
教科書・参考書等 / Textbooks	特に使用しません。「橋本メソッド」については、たとえば『学生と変える大学教育』（ナカニシヤ出版、2009）や『学生・職員と創る大学教育』（同、2012）、『学生と楽しむ大学教育』（同、2013）などがありますが購入する必要はありません。本で知るより体験するのが一番です。また、それぞれのテーマに関する参考書は山ほどありますが特定の必読文献はありません。
成績評価の方法 / Evaluation	チームとしての成績が約5割、個人別成績が約5割です。また、平常点が約8割、最終回の小テストが約2割です。詳細は初回及び2回目の授業で配布する補充シラバスの説明書を参照して下さい。
関連科目 / Related course	総合科目特殊講義：新聞投稿に挑戦（後期木曜5限） " 富山から考える震災・復興学（後期火曜5限） また各テーマについての関連科目は教養科目・専門科目にいろいろあるはずですが、
リンク先URL / URL of syllabus or other information	特にありません。
備考 / Notes	約4か月間、チームとして行動することになります。チーム名を自分たちで付けることになり、個性を發揮して良い名前を考えてください。尚、2回目の授業までは変更可能ですが、それ以降は変更できません。

授業科目名(英文名) / Course title	市場と企業の関係 / Market and Enterprise				
担当教員(所属) / Instructor	鳥羽 達郎(経済学部経営学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 2年(人文), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101113	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	マーケティングの基礎理論を体系的に指導する。			
本講義の目標は、マーケティングの基本的な知識を体系的に習得し、現実問題に対する応用力を養成することにある。マーケティングとは、企業、非営利組織、そして個人が目的や目標を効率的かつ効果的に達成するための必要な包括的な考え方や行動を意味する。本講義においては、環境条件の分析、標的市場の設定、マーケティング・ミックス(製品やサービスなどの提供物)の創造を主軸とするマーケティング・マネジメントの基本を学習することに主眼を置くことにする。					
達成目標 / Course Goals					
(1) マーケティングの実際を伝える新聞や業界誌を読み解く能力を養成する。 (2) あらゆる組織のマーケティングを分析する視点や洞察力を養成する。 (3) 現実社会でマーケティングを実践する基礎能力を養成する。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第01回 講義計画と評価方針 第02回 マーケティングの誕生 第03回 マーケティングの基本概念 第04回 マーケティングと経済の関係性 第05回 マーケティングと市場 第06回 マーケティングと消費者行動 第07~08回 製品政策 第09~10回 販売促進(プロモーション)政策 第11~12回 価格政策 第13~14回 流通経路(チャネル)政策 第15回 講義の総括					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
(1) 講義中に示す課題についてレポートを作成すること。 (2) 講義中に示す教科書の予習部分について熟読し、要点をノートに整理すること。					
キーワード / Keywords	マーケティング, 流通, 商業, 消費者				
履修上の注意 / Notices	『日本経済新聞』や『日経流通新聞』などの新聞に目を向けて頂きたい。 『日経ビジネス』などのビジネス誌に目を向けて頂きたい。				

教科書・参考書等 / Textbooks	<p>[教科書] 開講時に連絡する。</p> <p>[参考書] 池尾恭一・青木幸弘・南知恵子・井上哲浩（2010）『マーケティング』有斐閣。 石井淳蔵・廣田章光編（2009）『1からのマーケティング（第3版）』碩学舎。 石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓朗（2004）『ゼミナールマーケティング入門』日本経済新聞社。 清水信年・坂田隆文編（2012）『1からのリテール・マネジメント』碩学舎。 沼上幹（2008）『わかりやすいマーケティング戦略』有斐閣。 マーケティング史研究会編（2014）『日本企業のアジア・マーケティング戦略』同文館。 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦（2008）『マーケティング戦略論（第3版）』有斐閣。</p>
成績評価の方法 / Evaluation	<p>以下の側面から総合的に評価する。 定期試験（70％）・レポート（30％）</p>
関連科目 / Related course	<p>経済に関連する科目（例．流通総論，消費者行動論，経営学総論，経営戦略論）</p>
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	地域の経済と社会・文化 / Local Economy, Community and Culture				
担当教員(所属) / Instructor	鈴木 晃志郎(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101114	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
このようなアドバイスを求める学生は、以下の俚諺を咀嚼すること。 When you hear music, after it's over, it's gone in the air. You can never capture it again (Eric Dolphy)					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
教養教育の講義に相応しく、地理学者である記入者の過去の研究履歴の中からいくつかの課題を選んで講義することを通じて、地理空間上に生起する現象を「地理学的に」見る・研究するというのとはどういうことかを理解してもらうことを目指す。					
達成目標 / Course Goals					
地理学者として20年弱のキャリアを積んできたが、その間に数回研究テーマを変え、現在も含めて多くの他研究分野の方々と協働して研究を重ねてきた。地理学者としては異端な存在であり、無手勝流の私に、地理学を体系立てて講じるなど畏れ多い。そのような体系だった講義を期待する者はこの授業を取っても、得ることは少ないであろう。					
学部生であれ、学問の徒として大学の門を潜った以上、与えられた正解に安穏とし、知識を詰め込んで事足りりとするような知的に怠惰な存在でいて良いはずがない。時に厳しい課題を課すこともあるが、それはCriticalに物事を捉える視座を養っていただきたいとの親心からであることを予め肝に銘じて受講に臨んでいただきたい。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
内容には若干の変更の可能性がある。					
01. オリエンテーション 02. 史料から過去を読み解く 03. 地図が支える、私たちの安全 04. 地理学と空間認知01 05. 地理学と空間認知02 06. 生物学者との対話 07. 空間と権力 - NIMBYと排除の空間 - 08. 研究者と研究対象との距離を考える 09. 港湾架橋問題への地理学的貢献について考える 10. 地図と表象について考える 11. クリエイティビティと都市 12. 音楽における近代 13. クリエイティブ・クラスとユダヤ人 14. コピキタス・マッピング時代の地理情報倫理 15. 抄活、確認テスト					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
時間外の学修は私の関知するところではないが、私が求める課題を全てこなすためには、少なからぬ課外学習の時間を要するだろう。					
キーワード / Keywords	地理学, 観光, 景観				
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は指定しない。				
成績評価の方法 / Evaluation	授業中に私語をした者は不可にする。成績は期末の成績に加え、数度の不定期な課題研究を課し、それらの課題を適切に達成した者のみを評価対象者とする。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	物理の世界 / Physical Science				
担当教員(所属) / Instructor	喜久田 寿郎(工学部電気電子システム工学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101115	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
物理学は、自然界に見られる現象に普遍的な法則を見つけることが目的で、できるだけ単純な原理で現象を説明する学問である。自然界に起こる現象、身の回りにある電気機器などの機能をどのように理解するのか、物理学の見方や考え方を学び、それらの事柄とのかかわりを明らかにする。					
達成目標 / Course Goals					
物や現象を物理学的に理解するための見方や考え方を修得し、自然界に起こる現象や身の回りにある物の物理現象を簡単に説明できる。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第1回 長さ 第2回 場 第3回 熱 第4回 原子 第5回 電気 第6回 磁気 第7回 電磁波 第8回 波動 第9回 量子 第10回 メゾスコピック 第11回 宇宙 第12回 結晶 第13回 相転移 第14回 非線形現象 第15回 複雑系					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
講義の最後に次回の講義内容についての簡単な説明をするので、その内容について書籍、インターネットなどで調べておくことが望ましい。					
キーワード / Keywords	物理学、物性物理学				
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	なし				
成績評価の方法 / Evaluation	講義レポートの内容で判定する。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	技術の世界 / Technology				
担当教員(所属) / Instructor	手崎 衆(工学部機械知能システム工学科), 平澤 良男(工学部機械知能システム工学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達)		
時間割コード / Registration Code	101116	対象学年 / Eligible grade	1年	単位数 / Credits	2.0
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
熱エネルギーの有効利用を中心とした技術や省エネルギー対策技術を紹介しながら, 学術的・科学的・技術的な基本要因を理解し, 個人的責任から社会的責任までの理解と解決の方策を考えます。授業は数式などによる表現を避けて平易に解説します。					
達成目標 / Course Goals					
【平澤】 (1) 身近で見られる熱的な現象が科学的に理解できること。 (2) 地球環境の保全に対して, 技術的観点から解決策を考察できること。					
【手崎】 (1) 熱力学の基本法則を知り, エネルギー変換の原理が理解できること。 (2) 熱機関等エネルギー変換機器・システムの進展, 世界のエネルギー資源の動向を知ってエネルギー問題の改善の方向性が考察できること。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
【前半7週】手崎 衆 第1回: エネルギーの基本, エネルギー保存則 第2回: 熱力学サイクル, 熱効率とエントロピー 第3回: 熱機関サイクル 第4回: 燃焼の科学と技術 第5回: 内燃機関の動作原理 第6回: 移動体動力装置の最新動向 第7回: 新旧エネルギー資源利用の動向					
【後半7週】平澤良男 物を伝える熱 流れが伝える熱 熱が生む流れ 蒸発と乾燥 沸騰と凝縮 低温における熱移動 電磁波で伝える熱					
【第15週】まとめ					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
実際に利用されている技術, あるいは身近でおきる自然現象を多少は工学的な見地から理解できるようにするための授業である。身近な事象と物理原則との関わりについて興味を持って接することができるように, 身の回りの情報と原理・原則との関わりを考えておくことが大事である。					
キーワード / Keywords	熱エネルギーとその有効利用, エネルギー変換, 熱効率				
履修上の注意 / Notices	毎回の授業に必ず出席し, 現代社会で問題となっている事象を科学的に理解できる能力を養って下さい。授業中の話題をレポートとして課します。				
教科書・参考書等 / Textbooks	使用しません。必要に応じてプリント等を配布します。				
成績評価の方法 / Evaluation	授業時間中に出题するレポートの提出とその内容によって評価します。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	哲学のすすめ / Philosophy			
担当教員(所属) / Instructor	永井 龍男(人文学部)			
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目			
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目	
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 1年(発達), 1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)	
時間割コード / Registration Code	101185	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	永井 龍男([研究室の場所]人文学部7階 708, [研究室の電話]076-445-6154, [電子メール]nagai@hmt.u-toyama.ac.jp)			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	永井 龍男(木曜 15時 - 16時)			
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals			
<p>哲学の語源となった 'Philosophia' は、本来「(自分に欠けている)知恵を愛求すること」を意味する。この広い意味での「哲学」は体系的学問というよりも、人がよく生きてゆくために必要な心の態度である。それは、自分が気づかないまま日常的に受け入れている偏見や無自覚の前提を再検討し、それらを吟味し直そうとする態度である。だから哲学において最も大切なことは「自分で考える」ことである。授業ではいくつかの思想や考え方を紹介するが、それらが自ら考え共に議論し合うためのきっかけとなることを願っている。そのために次の四つのテーマを順に取り上げることにはしたい。</p> <p>1. 人間としてあること      2. 経験と実在 3. 生命と価値                4. 幸福と倫理</p>				
達成目標 / Course Goals				
哲学における基本的諸問題を理解し、自ら考え、そのいくつかについて自分自身の意見を持っているようにする。				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule				
<p>第1回 序 哲学とは何か I. 人間としてあること</p> <p>第2回 (1)人間はいかなる存在者か</p> <p>第3回 (2)人間に成ること</p> <p>第4回 (3)人間と「人間を超えるもの」</p> <p>II. 経験と実在</p> <p>第5回 (1)観念論と実在論</p> <p>第6回 (2)心と身体</p> <p>第7回 (3)真理の基準</p> <p>III. 生命と価値</p> <p>第8回 (1)自然と人間</p> <p>第9回 (2)科学技術と生命</p> <p>第10回 (3)現代人と死</p> <p>IV. 幸福と倫理</p> <p>第11回 (1)行為と自由</p> <p>第12回 (2)「善い行為」とは何か(倫理的行為の基準)</p> <p>第13-14回 (3)心のありかた和幸福</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class				
<p>授業開始の前から最後のレポートを提出するまでの間に、哲学関係の本を少なくとも1冊、最後まで通して読んでください。入門書や概説書でも良いのですが、哲学の古典と言われるものの方が望ましいです。</p> <p>古典的著作は、背景となる時代や当時の常識が現在とは異なっているため、奇妙に感じられるところや理解しづらいところも多々あります。しかし、むしろそれが大切なのです。概説書は、それを書いた人が理解できたことだけを抜き出して書いているから解りやすいのは当然で、逆に言えば、著者に理解できなかったことは切り捨ててあるわけです。これに対し、何十年・何百年と読み継がれてきた古典は、読む人の努力や力量によって、さまざまな側面を見せてくれます。直ぐに役立つ答えは与えてくれなくても、より深く考えさせてくれること、それが古典の良さなのです。</p> <p>何を讀んだらいいか迷ったら、プラトンかデカルトの作品をお薦めします。プラトンの作品は、ソクラテスを主な登場人物とする対話篇(戯曲のような対話形式の著作)になっており、読みやすく奥が深いです。主要な作品の多くが文庫本で読めます。(どれを読んでもかまいません。)デカルトを読む場合は、『方法序説』から始めると良いでしょう。これはデカルトが自分の半生について語った、自伝的作品ですが、有名な「われ思う、ゆえに、われあり」という彼の哲学の原理について語られます。</p> <p>授業を受けて、興味を持ったら、そのままにしておかないで、自分自身でその続きを考えたり調べたりすることが大切です。この授業を通して、自ら哲学的な思考に触れてくれることを期待します。</p>				
キーワード / Keywords	教養原論 哲学 人間 実在 価値 幸福			
履修上の注意 / Notices	授業で紹介した思想を覚えるだけでなく、自分はどうかを常に自問してほしい。			

教科書・参考書等 / Textbooks	テキスト：テキストは使用しない。プリントを配付。 参考書：授業の中で随時紹介する。
成績評価の方法 / Evaluation	成績評価は平常点（40％）とレポート（60％）で行なう。レポートは知識のみを問うものではなく、授業で取り上げた問題のいずれかについて自分自身で考えたことを書いてもらい、それを評価する。
関連科目 / Related course	人間と倫理
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	日本の歴史と社会 / Japanese History				
担当教員(所属) / Instructor	中村 只吾(人間発達科学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 1年(発達), 1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101186	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	中村 只吾(研究室 人間発達科学部第2棟3階(2313)) E-mail nakashin@edu.u-toyama.ac.jp				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	中村 只吾(火曜日12時~13時(その他の時間も適宜対応)。メールなどでアポイントメントをとったうえで訪問のこと。)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
人間にとって、社会にとって、「歴史」とはどのような存在であるのか。また、「歴史」を扱う学問である「歴史学」とは、いかなるものなのか。この授業は、「歴史学」の専門家ではない一般の人々が、現代社会に生きる人間にとっての「歴史」および「歴史学」の役割や意味について考えるための契機として設定する。素材としては、歴史のなかでも主に日本史に関する文献や画像・映像などを取り扱う。					
達成目標 / Course Goals					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時事問題や生活上の身近な物事を、歴史的な視点から捉える姿勢を持つ。</li> <li>・「歴史学」という学問の性質について、理解を深める。</li> <li>・上記のような本講義を通して学び、身につけた事柄について、自身の言葉で表現できる。</li> </ul>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第1回 ガイダンス 第2回 歴史学とはいかなる学問か 第3回 古文書の世界に触れる 第4回 過去の戦争に今の社会をみる 組織の暗部 第5回 過去の戦争に今の社会をみる 社会の「空気」とは 第6回 捕鯨の歴史と現状について 反捕鯨団体の視点 第7回 捕鯨の歴史と現状について 捕鯨者の視点 第8回 捕鯨の歴史と現状について 両者の視点をふまえて 第9回 捕鯨の地、熊野のもう一つの姿 第10回 「伝統」とは何か? 戦前のモラル・マナーについて 第11回 「伝統」とは何か? 「江戸しぐさ」問題について 第12回 「伝統」とは何か? アイデンティティとしての歴史 第13回 先人の知識・技術を体験する 第14回 「当たり前の暮らし」の歴史 第15回 本授業のまとめと試験					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
授業時に紹介する参考書等には積極的に目を通し、理解を深めることが望ましい。					
キーワード / Keywords	歴史学, 日本史				
履修上の注意 / Notices	高等学校で日本史を学んでいるのが望ましい。				
教科書・参考書等 / Textbooks	適宜、レジュメを配布し、参考書等も紹介する。				
成績評価の方法 / Evaluation	最終回に行う試験によって評価する。与えられた問いに対して、どこまで説得的・論理的な解答ができているか、を主要な評価基準とする。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	西洋の歴史と社会 / Western History				
担当教員(所属) / Instructor	南 祐三(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 1年(発達), 1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101187	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	南 祐三(人文学部棟 6 1 4 号室、内線 6 1 6 3、メール: minamiyu@hmt.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	南 祐三(火曜13:00 - 14:00。メールなどで事前連絡してから訪問すること。)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
高校世界史の教科書などを見直しておくこと。日常的に、国際関係やヨーロッパに関連するニュースをチェックしておくといいでしよう。					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
現在のヨーロッパは、どのような事件を経て、あるいはいかなる思想を背景にして「いま」に至っているのか。「現代」の画期となった第一次世界大戦以降の時期を中心に、友好/敵対、協力/抵抗、統合/分裂を繰り返してきたヨーロッパ世界について、その歴史的な理解を深めることをめざす。					
達成目標 / Course Goals					
現在、ヨーロッパはいわば岐路に立たされている。2016年6月の、英国の欧州連合(EU)からの脱退という意思決定はそれを象徴するできごとの一つだろう。なぜヨーロッパはこうした現状に陥っているのか。現在のヨーロッパが抱えている問題とは具体的に何だろうか。本講義はそうした疑問のこたえを、過去のヨーロッパのなかから求め、考察し、理解する力を養うことをめざす。とくに19世紀において近代国民国家の模範としてヨーロッパを牽引してきたフランスに視点を置き、この国が歩んできた100年におよぶ「現代」を概観しながら、そこから見えてくるヨーロッパ世界の政治的・経済的・社会的変容について理解することを目標とする。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第1回 ガイダンス:本講義の概要と目的					
第2回 19世紀ヨーロッパとフランス(1):フランス革命後の社会と政治					
第3回 19世紀ヨーロッパとフランス(2):19世紀ヨーロッパの国際関係					
第4回 フランスからみた第一次世界大戦(1):戦争の勃発と経過					
第5回 フランスからみた第一次世界大戦(2):戦争の「世界性」と「総力戦」					
第6回 フランスからみた第一次世界大戦(3):戦争の終結とヴェルサイユ体制					
第7回 両大戦間期ヨーロッパとフランス:平和主義とファシズムの出現					
第8回 フランスからみた第二次世界大戦(1):開戦までの道のりと戦争の経過					
第9回 フランスからみた第二次世界大戦(2):ヴィシー・フランスの実態					
第10回 フランスからみた第二次世界大戦(3):ホロコーストの問題					
第11回 冷戦のなかのフランス:東西陣営の形成と第四共和政					
第12回 ヨーロッパ統合のなかのフランス(1):さまざまな統合構想と仏独協調の歩み					
第13回 ヨーロッパ統合のなかのフランス(2):ミッテランによる統合政策とEUの発足					
第14回 ヨーロッパ統合のなかのフランス(3):EUに突き付けられた諸問題					
第15回 授業のまとめおよびテスト					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
授業中に紹介する参考文献を読み、授業のレジュメを自分でまとめ直すなどして理解を深めるといいでしよう。					
キーワード / Keywords	西洋史、フランス現代史、ヨーロッパ統合、欧州連合、第一次世界大戦、第二次世界大戦				
履修上の注意 / Notices	授業を妨害する行為や欠席が多い場合は単位の修得が困難となります。				
教科書・参考書等 / Textbooks	毎回レジュメを配布します。 参考文献:木畑洋一『第二次世界大戦:現代世界への転換点』吉川弘文館、2001年;エリック・ホブズボーム(河合秀和訳)『20世紀の歴史:極端な時代』上下巻、三省堂、1996年;トニー・ジャット(森本醇訳)『ヨーロッパ戦後史』上下巻、みすず書房、2008年;遠藤乾編『ヨーロッパ統合史(増補版)』名古屋大学出版会、2014年;マーク・マゾワー(中田瑞穂・網谷龍介訳)『暗黒の大陸:ヨーロッパの20世紀』未来社、2015年				
成績評価の方法 / Evaluation	テスト(80%)と不定期に実施する小レポート(20%)で評価します。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	外国文学 / Foreign Literature				
担当教員(所属) / Instructor	佐藤 真基子 (教養教育院)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 1年(発達), 1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101188	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	文学をとおして他者を理解する感性を身につける。理解したことを言葉によって表現する力を身につける。			
西洋古典古代の文学作品をとおして、多様な世界の見方と教養を身につけることを目指す。時代も文化も異なる外国の文学作品を理解するには、文字を読めたところで十分ではない。その作品の背景にある文化、伝統、教養についての知識をもってはじめて理解することができる。そうして作品世界に近づくことによってはじめて見えてくる世界を知るよるこび、作品と対話する面白さを体験してほしい。					
達成目標 / Course Goals					
1) 西洋古典文学の概要を知る。 2) 自分とは異なる世界についての多様なものの見方を学び、他者を理解する感性を身につける。 3) 本を通して読み取ったことを言葉によって表現する力を身につける。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
各回およそ一つの作品を取り上げ、その作品の背景を学ぶとともに、部分を実際に読み、検討する。 1. 導入: 西洋古典文学と現代 作品の背景、伝統、教養を知る楽しさ 2. 西洋文学の源流としてのギリシア古典(1): ホメロス『オデュッセイア』 3. 西洋文学の源流としてのギリシア古典(2): アイソポス(イソップ)『寓話集』 4. 西洋文学の源流としてのギリシア古典(3): ソポクレス『オイディプス王』 5. 古代ギリシアの文化と「対話編」: プラトン『饗宴』、『パイドン』 6. 芸術の「カタルシス」: アリストテレス『詩学』 7. ギリシアからローマへ: ウェルギリウス『アエネイス』(1) 8. ウェルギリウス『アエネイス』(2) 9. ラテン語の手本としてのケケロ 10. ルネサンスに向かって(1): オウィディウス『変身物語』 11. ルネサンスに向かって(2): セネカ 12. 西洋文学の源流としての聖書(1): 『創世記』 13. 西洋文学の源流としての聖書(2): 『詩編』 14. 西洋文学の源流としての聖書(3): イエスのたとえ話(放蕩息子のたとえ) 15. まとめ: 現代に向かって					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
事前学修として、各回に取り上げる作品を部分的にでも読んでみるここと。 事後学修として、授業内で紹介した参考書等も手引きとしながら、授業内容の理解を深めるここと。					
キーワード / Keywords	外国文学、西洋古典、聖書				
履修上の注意 / Notices	古典文学を学ぼうという意欲をもって授業にのぞむここと。				
教科書・参考書等 / Textbooks	授業内でプリントを配布し、特定の教科書は指定しません。参考書は授業内で紹介します。				
成績評価の方法 / Evaluation	授業内で、授業内容をふまえた課題について作文を書いてもらいます。それによって評価します。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	国家と市民 / State and Citizen				
担当教員(所属) / Instructor	辻本 淳史(経済学部経営法学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(理,工), 1年(発達), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101191	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>この講義では、犯罪と刑罰に関する法律である刑法を学ぶ。法律というと、ある条文を杓子定規に適用したり、身勝手な結論を合理化するための根拠にしたりすることを思い浮かべる人もいるだろうが、それは法律を解釈・適用する者のあるべき姿ではない。また、重大な事件がおこると、犯人を重く処罰せよと言われることもあるが、そう単純なものでもない。刑法は、啓蒙期以降の歴史の中で、解釈の基本原則と犯罪を認識するための理論的な枠組みを作り上げてきた。この講義では、歴史的な展開と刑法学的なものの考え方を踏まえつつ、刑法解釈の基本原則である罪刑法定主義と、犯罪を認識するための理論的枠組みである犯罪論の体系について解説する。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・刑法の基本原則について理解する。</li> <li>・犯罪についての段階的な認識の意義と役割を理解する。</li> </ul>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第1週 ガイダンス 第2週 マグナ・カルタから市民革命期における罪刑法定主義の成立 第3週 罪刑法定主義の我が国への受容 第4週 罪刑法定主義の政治的・国法学的根拠 第5週 刑法解釈原理としての罪刑法定主義 第6週 判例に見る罪刑法定主義の姿 第7週 法律学から見た「犯罪」 第8週 犯罪論体系 段階的・分析的な認識の仕方にこだわること 第9週 構成要件概念の意義 第10週 構成要件概念の機能 形式的理由によって処罰を断念すること 第11週 違法性概念の意義 第12週 違法性概念と犯罪の実質 社会の生活利益と刑法学との接点 第13週 責任の概念 刑法学にいう「責任」の意味 第14週 責任概念と被告人の処罰 刑罰は非難と表裏一体であるということ 第15週 予備日					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
教科書の該当箇所を読んで予習復習してください。					
キーワード / Keywords					
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	三井誠 = 曾根威彦 = 瀬川晃 『入門刑事法 [第5版]』 (有斐閣、2013年) 六法				
成績評価の方法 / Evaluation	レポート(2回、50:50)で評価する。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	市民生活と法 / Law and Society				
担当教員(所属) / Instructor	岩本 学(経済学部経営法学科), 立石 孝夫(経済学部経営法学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(理,工), 1年(発達), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101192	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	立石 孝夫(経済学部研究棟609研究室 代表番号(総務係)076-445-6401)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	立石 孝夫(木曜5限)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>(前半立石の担当部分) 今日、われわれの市民生活はさまざまなリスクにさらされています。製品の偽装や悪質な商法にあうリスク、振り込め詐欺などの犯罪に巻き込まれるリスクなどです。本講座では、これらのリスクが発生する原因を心理的に分析するとともに、法による対策が、こうしたリスクを回避し社会秩序を保とうとしている現状を解説します。</p> <p>(後半岩本の担当部分) 前半ではリスクの回避という観点、つまり現実には紛争が起こる前に法がどのように機能しているのかについて学びました。後半では、それを前提に、残念ながら生じてしまう紛争をいかに解決すべきかに焦点を当てます。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<p>(前半)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民生活を取り巻くリスクの原因が分かる</li> <li>法の役割と現状が理解できる</li> </ul> <p>(後半)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わが国で用意されている紛争解決手段を知る</li> <li>法へのアクセスができるようになる</li> </ul>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<p>(前半)</p> <p>第1回: 市民生活と権利の発達 [1] ヒト、モノ、カネ、情報 [2] マズロー欲求階層説</p> <p>第2回: 市民生活と規範 [1] 人の社会化 [2] 基本的人権と法</p> <p>第3回: 自白と証言の心理 [1] 冤罪を生む原因 [2] 記憶の脆さ</p> <p>第4回: 経済活動の心理 [1] 納税と心理 [2] 知的財産権</p> <p>第5回: 市民生活と契約 [1] コミットメント [2] 契約とは何か</p> <p>第6回: 市民生活と商売 [1] だましの心理術 [2] 買わせるテクニック</p> <p>第7回: 法対策の実際 [1] 広告と規制 [2] 特定商取引法</p> <p>第8回: まとめと小テスト</p> <p>(後半)</p> <p>第9回: 社会と紛争</p> <p>第10回: 裁判制度</p> <p>第11回: 民事紛争解決制度</p> <p>第12回: 民事裁判制度</p> <p>第13回: 民事保全・執行制度</p> <p>第14回: 国際化社会と民事紛争</p> <p>第15回: まとめと小テスト</p>					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
<p>(前半)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次回の授業内容を把握するために教科書を読んでおく</li> <li>授業中は内容を自分なりにノートにまとめ、授業後にノートを読み返して考えを整理する</li> </ul> <p>(後半)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメに書き込みをし、しっかり復習する</li> <li>予習・補助用に提示される教材を講義前に確認してくる</li> </ul>					

キーワード / Keywords	(前半) 法と心理学・法と経済学・紛争回避 (後半) 民事紛争解決法
履修上の注意 / Notices	(前半) 私語や携帯電話使用は授業態度でマイナスに評価されます。 (後半) 前半と同。 また毎回講義に関連するクイズを行うので、当てられた者は回答すること。
教科書・参考書等 / Textbooks	(前半) テキストとして、立石孝夫『法と経済の心理学』(大学教育出版、2014年)を使います。 (前半) テキストは使いません。毎回レジユメを配布します。 参考書は後半の第一回目に提示します。
成績評価の方法 / Evaluation	前半と後半の担当者ごとに以下の通り50点満点の評価をし、その合算によって成績評価を行います。 (前半) 小テスト50点(満点)、ただし授業態度(私語・携帯電話の使用など)により10%を限度として減点します。 (後半) 前半と同。
関連科目 / Related course	経済生活と法、国家と市民など
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	はじめての経済学 / Introduction to Economics		
担当教員(所属) / Instructor	本間 哲志(経済学部経済学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(理,工), 1年(発達)
時間割コード / Registration Code	101193	対象学年 / Eligible grade	1年 単位数 / Credits 2.0
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	本間 哲志(TEL: 076-445-6446, e-mail: thomma@eco.u-toyama.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	本間 哲志(月曜 15:00から16:00(メールで事前に連絡してから訪問すること))		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
数式をよく使います。高校で習った微分を復習しておいてください。			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
この講義では、ミクロ経済学入門という観点から、なぜ人々は貸し借りをを行うのかをミクロ経済学的に考えます。ミクロ経済学というのは、人々の経済行動から経済現象を考える学問です。そのエッセンスを学ぶために、金融の最も基本的な役割である「貸借」に焦点をあて、なぜそれが行われるのかを考えていきます。ポイントは、「今を生きる人」と「将来に賭ける人」がいる場合、前者が「借り手」となり、後者が「貸し手」となって貸し借りが行われることによって、両者ともに満足度(効用)が高まることを理解することにあります。「今を生きる人」とは、将来の消費に対して現在の消費をより重視する人であり、「将来に賭ける人」とは、現在の消費に対して将来の消費をより重視する人です。両者間で貸借が行われることによって貸借が行われない場合よりも両者ともによりハッピーになるというのが貸借が行われる理由です。この点をミクロ経済学のツールを使って考えていきます。あわせて、ミクロ経済学的な考え方を紹介しながら、様々な経済的なことがらを文章だけでなく、図や数式を用いて考えることの重要性を説明します。			
達成目標 / Course Goals	なぜ人々は貸し借りをを行うのかについてのミクロ経済学的考え方が理解できることを目標とします。あわせて、経済的なことがらを文章だけでなく、図や数式を用いて考えることの重要性を感じてもらいます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule	講義予定については初回の講義で説明しますが、概ね次のような内容を順に行う予定です。 第1回 講義を始めるにあたって 第2回 貸借のない世界(1) - 1個人の消費・貯蔵問題(1): 問題設定, 問題の定式化, 問題の図示(1) 第3回 貸借のない世界(2) - 1個人の消費・貯蔵問題(2): 問題の図示(2), 問題の数式での展開(1) 第4回 貸借のない世界(3) - 1個人の消費・貯蔵問題(3): 問題の数式での展開(2) 第5回 貸借のない世界(4) - 1個人の消費・投資問題(1): 問題設定, 問題の定式化, 問題の図示(1) 第6回 貸借のない世界(5) - 1個人の消費・投資問題(2): 問題の図示(2), 問題の数式での展開 第7回 貸し借りができる世界の消費・投資の決定(1) - 2個人間の貸借(1): 問題設定, 問題の図示(1) 第8回 貸し借りができる世界の消費・投資の決定(2) - 2個人間の貸借(2): 問題の図示(2) 第9回 貸し借りができる世界の消費・投資の決定(3) - 2個人間の貸借(3): 問題の図示(3) 第10回 貸し借りができる世界の消費・投資の決定(4) - 2個人間の貸借(4): 問題の数式での展開(1) 第11回 貸し借りができる世界の消費・投資の決定(5) - 2個人間の貸借(5): 問題の数式での展開(2) 第12回 貸し借りができる世界の消費・投資の決定(6) - N個人間の貸借(1): 問題設定, 問題の定式化 第13回 貸し借りができる世界の消費・投資の決定(7) - N個人間の貸借(2): 問題の図示 第14回 貸し借りができる世界の消費・投資の決定(8) - N個人間の貸借(3): 問題の数式での展開 第15回 まとめ 期末試験		
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class	講義で配布される資料について事前に読んでおき、講義での質問を準備しておいてください。講義後はノートを作成し、参考文献で講義内容を補ってください。		
キーワード / Keywords	「貸借」, 「ミクロ経済学」, 「最適化問題」, 「効用関数」, 「無差別曲線」, 「消費可能集合」, 「1階の条件式」, 「偏微分」, 「全微分」, 「合成関数の微分」, 「異時点間の限界代替率」, 「生産関数」, 「利子率」, 「借入需要関数」, 「貸出供給関数」, 「市場均衡」		
履修上の注意 / Notices	テキストは使用しません。毎回、レジュメを配布し、それに基づいて講義を行います。レジュメは下欄の[参考文献]を参考にしています。わからない点はこれらの文献を参考にしてください。		
教科書・参考書等 / Textbooks	[参考文献] 筒井義郎(2001)『プログレッシブ経済学シリーズ金融』, 東洋経済新報社, 第1章(pp.3-30)。		
成績評価の方法 / Evaluation	課題レポート(40点), 期末テスト(40点), その他(20点)で評価します。		
関連科目 / Related course	経済学入門, 経営経済の基礎数学, ミクロ経済学, 金融論		
リンク先URL / URL of syllabus or other information	<a href="http://evaweb.u-toyama.ac.jp/html/728_ja.html">http://evaweb.u-toyama.ac.jp/html/728_ja.html</a>		



授業科目名(英文名) / Course title	産業と経済を学ぶ / Industry and Economy				
担当教員(所属) / Instructor	垣田 直樹(経済学部経済学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(理,工), 1年(発達), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101194	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>1) 国際相互依存関係を経済学的に理解することが主たる目標です。各国は互いに財やサービスを取引することにより利益を得る一方、そのような貿易を制限する政策を採ります。また、近年盛んな国際的な資本取引は、為替レートの変動などを通じて各国に影響を与えます。この講義では、モノとカネの国際取引を中心に、一国が世界とどのような関係にあるのかを分析します。</p> <p>2) academic writingのルールに沿って、1000文字以上(A4で1枚程度)のレポートを7回課すことにより、論理的かつ適切に国際経済に関する文章を書くトレーニングをします。この講義で10,000字以上書きます。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<p>1) 貿易が生じるメカニズムと、貿易政策の効果を理論的に理解します。</p> <p>2) WTOがどのように世界的な自由貿易を達成しようとしているかを理解します。</p> <p>3) 近年、日本が積極的に推進している、自由貿易協定等を把握します。</p> <p>4) 環境問題と貿易がどのように関わっているかを理解します。</p> <p>5) 日本と世界の関係を国際収支表から理解します。</p> <p>6) 為替レートに関する諸問題を理解します。</p> <p>7) レポートを書くスキルを養います。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<p>第1回 講義スケジュールの解説、レポートの書き方の解説</p> <p>第2回 世界経済と貿易の現状</p> <p>第3回 貿易理論(1): リカードとヘクシャー=オリーンの貿易理論</p> <p>第4回 貿易理論(2): 余剰分析</p> <p>第5回 貿易政策(1): 関税, 輸出補助金, 輸出自主規制など</p> <p>第6回 貿易政策(2): 同上</p> <p>第7回 GATTとWTO</p> <p>第8回 日本のFTA・EPA(1): 事例解説など</p> <p>第9回 日本のFTA・EPA(2): 問題点と今後の展望など</p> <p>第10回 環境と貿易(1): 事例解説など</p> <p>第11回 環境と貿易(2): 理論的分析など</p> <p>第12回 国際収支(1): 国際収支表の読み方</p> <p>第13回 国際収支(2): マクロバランスから見た経常収支黒字など</p> <p>第14回 外国為替(1): 外国為替市場, 為替介入など</p> <p>第15回 外国為替(2): 為替ヘッジなど</p>					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
講義ノートや配布資料を用いて復習する。					
キーワード / Keywords	貿易, 関税, 国際収支, 為替レート				
履修上の注意 / Notices	<p>1) academic writingのルールに沿って、1000字以上(A4で1枚程度)のレポートを7回課し、この講義で7,000字以上書きます。</p> <p>2) レポートはヘルンシステムで提出します。</p>				
教科書・参考書等 / Textbooks	適宜、資料を配布します。				

成績評価の方法 / Evaluation	<p>10回のレポートで評価します。合格レポートが6つ以上（優）、合格レポート5つ（良）、合格レポート4つ（可）、3つ以下（不可）</p> <p>レポートが合格かどうかの判断基準は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) イントロダクション（序論）は「先触れ」から始まり、最後のセンテンスが「論文の主張」になっている</li> <li>2) body（本論）の параグラフの最初にトピックセンテンスを置いている</li> <li>3) トピックセンテンスはその параグラフの主張を代表している</li> <li>4) トピックセンテンス以外はサポートセンテンスだけになっている</li> <li>5) サポートセンテンスはトピックセンテンスをサポートする為だけに存在している</li> <li>6) コンクルージョン（結論）の最初にbody（本論）の各 параグラフのトピックセンテンスを要約 / 書き換えした結論が端的に書かれている</li> <li>7) コンクルージョンにbody（本論）で述べられていない新しい結論は書かれていない</li> <li>8) コンクルージョンにファイナルコメントを書いている</li> <li>9) 参考文献に番号を付けている</li> <li>10) 参考にした参考文献をすべて列挙している</li> <li>11) 参考文献の参照 / 引用箇所が分かるように本文に明示している</li> <li>12) 参考文献のコピペはしていない</li> </ol> <p>です。詳しくは講義で解説します。</p>
関連科目 / Related course	国際経済学
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	物理の世界 / Physical Science				
担当教員(所属) / Instructor	西村 克彦(工学部材料機能工学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101196	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業終了後30分					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
日常生活において経験する自然現象を教材として、物理学的思考方法・表現方法を身につけます。					
達成目標 / Course Goals					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の三法則を説明できる。</li> <li>・温度、熱量、エネルギーの単位を説明できる。</li> <li>・波動の干渉を説明できる。</li> <li>・電力量の単位を説明できる。</li> <li>・放射線の種類を説明できる。</li> </ul>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自然科学における物理学の位置付け</li> <li>2 慣性の法則</li> <li>3 運動の法則</li> <li>4 運動の法則</li> <li>5 作用・反作用の法則</li> <li>6 温度</li> <li>7 熱伝導</li> <li>8 波動現象</li> <li>9 光波</li> <li>10 音波</li> <li>11 電気</li> <li>12 磁気</li> <li>13 電磁誘導</li> <li>14 粒子線・X線・放射線</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
事前: テキストを予習すること 事後: テキストを復習すること					
キーワード / Keywords	力、熱、電気、磁気				
履修上の注意 / Notices	電卓を持参すること。小テストの解答に必要です。				
教科書・参考書等 / Textbooks	「視覚でとらえる フォトサイエンス 物理図録」(数研出版)				
成績評価の方法 / Evaluation	小テスト40%、期末試験60%として、60点以上を合格とする。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes	電子メールによる連絡が好都合です				

授業科目名(英文名) / Course title	自然と情報の数理 / Mathematical Principles in Natural Sciences and Intelligence				
担当教員(所属) / Instructor	黒岡 武俊(工学部生命工学科), 藤井 雅文(工学部電気電子システム工学科), 村山 立人(工学部知能情報工学科), 松島 紀佐(工学部機械知能システム工学科), 加瀬 篤志(工学部機械知能システム工)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101197	対象学年 / Eligible grade	1年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	黒岡 武俊(大学院棟4F 7402号室, メールアドレスは授業毎に講義にて連絡) 村山 立人(工学部 電気棟2階 4219, murayama@eng.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	黒岡 武俊(随時対応(メール等で事前連絡をしてから訪問すること)) 村山 立人(メールで事前連絡してから訪問すること)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>テーマ1: 自然を記述する方法のひとつとして、集合という概念を基礎にした現代的な確率論を解説する。この授業をきっかけにして、抽象的な数学的思考のパターンに慣れてもらうのが狙いである。</p> <p>テーマ2: 光と電磁気現象について日常の身近な現象と関連付けて講義と演習を行う。内容は高校文系数学程度の基礎知識を前提として、基礎から簡単な微分方程式までとする。コンピュータシミュレーションを利用して視覚的に説明する。</p> <p>テーマ3: 鳥のように飛ぶたいという夢が航空機の発明につながった。航空機がなぜ空中を飛べるか? どのようにしたら、より効率良く、飛行できるか? それらの疑問に答える空気力学の考え方を学ぶ。</p> <p>テーマ4: 一見複雑な物でも、実は単純な要素の組み合わせであることが多い。この授業では、複雑に見える生物における現象を単純な力学モデルで表現する手法について解説し、根本にある考え方を学習する。</p> <p>テーマ5: 生命現象は神秘であるものの、その神秘を数理モデルによって解明しようという試みも盛んに行われている。授業では、生命現象を表現する様々な数理モデルを説明するとともに、演習によって理解を深める。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<p>1. 数理科学の共通言語としての確率論の基本的な運用技術を身につける。特に金融工学における価格決定のメカニズムと暗号技術に対する統計的な攻撃方法については、その理論的基礎を直感的に説明することができる。</p> <p>2. 光や電磁気の現象は身近なところで思いがけないような様々な形で利用されている。このような科学技術について専門家でなくても科学的に理解し説明することができ、日常生活の中で自身が適応できることを目標とする。</p> <p>テーマ3: 鳥のように飛ぶたいという夢が航空機の発明につながった。航空機がなぜ空中を飛べるか? どのようにしたら、紙(または折り紙)飛行機が良く飛行できるか? それらの疑問に答えることが出来、また、航空機の飛行に関係する18個の専門技術用語が説明できるようになることを目標とする。</p> <p>4. 生物に関連する現象を力学的に理解するとともに、多角的な視点から物事を捉える能力を身に着ける。</p> <p>5. 生物の模様や個体の群変動など、生命現象を表現する数理モデルを理解できる。また、「バイオミメティクス」の意味と意義を例をあげて説明できる。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					

4人の教員が各々以下の4つのテーマについて講義する。

テーマ1 起こりやすさにおける数理 (担当: 村山)

- 第1回: 確率の公理
- 第2回: 確率と新情報
- 第3回: 確率変数と確率密度関数

テーマ2 光と電磁気現象の数理 (担当: 藤井)

- 第4回: 身近にある光と電磁気の現象
- 第5回: 複素数と波: オイラーの公式
- 第6回: 光と電磁気現象を記述する方程式

テーマ3 航空機飛行の数理 (担当: 松島)

- 第7回 空を飛ぶ歴史
- 第8回 なぜ飛べるか?
- 第9回 優秀な「飛行機」

テーマ4 バイオメカニクスにおける数理 (担当: 加瀬)

- 第10回: 生物と機械、実物と模型
- 第11~12回: 生物における力学

テーマ5 生命の数理 (担当: 黒岡)

- 第13回: 生命にならう - バイオメテイクス -
- 第14回: 生物の模様 & 個体の群変動の数理
- 第15回: 黄金比とフィボナッチ数列と自然

授業時間外学修 (事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class

テーマ1:

身近な確率的現象について、自分なりに考えをまとめておく。

テーマ2:

複素数とマクスウェル方程式についてその歴史的な背景を調べること。  
初回の授業で与えた課題について何をどのように調べれば解決できるかを考えること。  
授業で行った演習課題を復習し理解すること。

テーマ3:

授業終了時に示す課題についてインターネットなどで調査し、ノートにまとめる。  
授業中に習ったことを確認するため、指示した簡単な実験を行い気付いたことをノートにまとめる。

テーマ4:

身近な生物の構造や動きをよく観察し、特徴や疑問に思ったこと等を調べてノートにまとめる。

テーマ5:

テーマ5の2回目の授業までに「漸化式」「数列」について復習または調査しノートにまとめる。  
毎回の授業の演習内容をあらためて自分でやりなおす。

キーワード / Keywords

事象、標本空間、確率の公理、確率変数 (テーマ1)  
光、電磁気現象、複素数、オイラーの公式 (テーマ2)  
航空機 空力性能、飛行実験、シミュレーション、紙飛行機 (テーマ3)  
バイオメカニクス、相似則、模型実験、サイボーグ、力学 (テーマ4)  
バイオメテイクス、差分方程式、セルオートマトン、黄金比、フィボナッチ数列 (テーマ5)

履修上の注意 / Notices

飛行機に親しみをもって授業に臨んでもらいたい (テーマ2)  
各担当教員の連絡先とオフィスアワーは各々の講義時に連絡する。

教科書・参考書等 / Textbooks

授業中に教員自作の資料などを配布する。

成績評価の方法 / Evaluation

担当教員のごとに「毎回の事後学習ノートまたは課題レポート (50%)」と「最終課題レポート (50%)」で評価する。

関連科目 / Related course

リンク先URL

/ URL of syllabus or other information

備考 / Notes

授業科目名(英文名) / Course title	生活の科学 / Science of Living		
担当教員(所属) / Instructor	孫 珠熙(人間発達科学部), 高松 衛(工学部知能情報工学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月 / Mon 5	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 1年(経済)
時間割コード / Registration Code	101198	対象学年 / Eligible grade	1年 単位数 / Credits 2.0
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours			
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
<p>H27(2015)前期の「生活の科学」の履修学生は263名でした(高松・孫分担)。毎回のプリント配布は無理のため、講義で使うテキストを購入してください。講義の回によっては説明のためにパワーポイントを用いるため、画面が見づらい人は前の方の席に座るなり対応してください。</p> <p>なお講義は前半7回を高松(工学部)が、後半8回を孫(人間発達科学部)が担当する。</p>			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚系の持つ優れた情報収集及び分析能力、特性を学習することにより、生体が備えている高度な情報処理システムについてその基礎を習得することを目指す。またこの知見を応用した事例についても紹介する。(高松)</li> <li>・衣生活の科学として、「着こなし方」や着用場面にふさわしい衣服」など、衣服を通じて周囲に対する礼儀や思いやりの気持、TPOに相応しい装い・イメージなどを紹介する。(孫)</li> </ul>			
達成目標 / Course Goals			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・われわれ人間の視覚系についての基本的事項について習得する。(高松)</li> <li>・アパレル業界の仕組みと既製服の選択・外見の力・健康とファッションが理解できるようになることを目標とする(孫)。</li> </ul>			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
前半は高松(工学部)が担当する。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の眼とカメラ</li> <li>2. 眼球の構造</li> <li>3. 視線の動きと情報収集</li> <li>4. 光と照明</li> <li>5. 色覚とは</li> <li>6. 感性情報処理</li> <li>7. 応用事例</li> </ol>			
後半は孫(人間発達科学部)が担当する。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>8. アパレル業界の仕組み</li> <li>9. 健康とファッション、高齢者ファッション</li> <li>10. 既製服の選択要領・サイズ・洗濯</li> <li>11. 衣服と感情・感覚、配色</li> <li>12. 社会規範・役割・TPO(Time, Place, Occasion)と装い</li> <li>13. 若者の被服行動と装いの心理</li> <li>14. テキスタイルと色彩イメージ</li> <li>15. 戦後のファッションの変遷</li> </ol>			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフが頻繁に出てくるので、軸と変化の意味をきちんと理解すること(高松)</li> <li>・衣服の力、Second Skin第二の皮膚の意味を考えてみる(孫)</li> </ul>			
キーワード / Keywords	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚情報処理, 感性工学, 感覚のモデル化(高松)</li> <li>・衣生活, 装い行動, 色彩イメージ, 衣服の力, 既製服(孫)</li> </ul>		
履修上の注意 / Notices	担当教官の専門分野に関係する本を少なくとも1-2冊は読み、興味と関心を持ってほしい。出席を重視しますので、注意してください。使用テキストを購入してください。		
教科書・参考書等 / Textbooks	<p>使用テキスト(高松): 「眼はなにを見ているか」池田光男著, 平凡社, 2400円(税別)</p> <p>使用テキスト(孫): 「新版 装いの心理と行動」(株)アイ・ケイコーポレーション1500円(税別), 小林茂雄編著他, ISBN978-4-87492-348-1</p> <p>使用テキスト(孫): 「ファッション&amp;ビューティの色彩」大関徹他(日本色研株式会社)800円(税込)</p>		
成績評価の方法 / Evaluation	前半の授業50点、後半の授業50点の配点とし、それぞれ出席状況並びにレポートとテストの成績により総合的に評価する。		

関連科目 / Related course	視覚情報処理, 生態情報処理 (高松) 感性製品設計論、衣環境論、テキスタイル性能論 (孫)
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	こころの科学 / Psychology				
担当教員(所属) / Instructor	姜 信善(人間発達科学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 1年(発達), 1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101201	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	姜 信善(連絡先: 076-445-6368(研究室))				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	姜 信善(水: 12:00-13:00)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日 2017/02/27				
特になし					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	人間の発達についての基本的なメカニズムを理解することである。			
生まれてから死に至るまでの時間の流れの中で、私たちの心身の発達がどのような影響を受けて、どのように形成され、変化していくのかを探究することが本授業の目的である。そのために具体的には、遺伝と環境の問題、発達課題、パーソナリティの観点から発達を考える。					
達成目標 / Course Goals					
人間の発達のメカニズムを理解する上で、遺伝と環境の影響がどのように関わっているかという視点は欠かせない。特に社会的存在としての人間のさまざまな発達は他者との関係のなかではじめて生じるといえる。このような人間の発達についての理解を深めるために各テーマについては以下の内容を中心に講義を行い、より具体的な理解を目指す。 1. 「生涯発達」というテーマでは、<遺伝と環境>、<発達課題>、<自我の発達>、<社会性・対人関係の発達>という観点から発達を考える。 2. 「パーソナリティ」というテーマでは、<個人差の理解>、<パーソナリティの諸理論>、<パーソナリティの理解>という観点から発達を考える。  上述のテーマごとの詳細な内容についての解説及び関連研究の紹介により人間の発達の全般的なメカニズムについて理解を深めることが達成目標である。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
心の科学の概論 ・第1回 : 心の科学の概論  生涯発達 ・第2回 : 発達とは、 ・第3回 : 遺伝と環境 ・第4回 : 発達課題 ・第5回 : 自我の発達(1) ・第6回 : 自我の発達(2) ・第7回 : 社会性・対人関係の発達(親子関係(1)) ・第8回 : 社会性・対人関係の発達(親子関係(2)) ・第9回 : 社会性・対人関係の発達(友人・仲間関係)  パーソナリティ ・第10回 : 個人差の理解(1) ・第11回 : 個人差の理解(2) ・第12回 : パーソナリティの諸理論(1) ・第13回 : パーソナリティの諸理論(2) ・第14回 : パーソナリティの理解(1) ・第15回 : パーソナリティの理解(2)  ・期末テスト					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
事前・事後学修内容については、毎回の授業の後に伝える。					
キーワード / Keywords	発達、親子関係、パーソナリティ				

履修上の注意 / Notices	基本的には期末検査の結果にて決める。 ただし、講義中の態度が著しく悪い場合（スマホ、私語、途中退室）は採点の対象とならない。
教科書・参考書等 / Textbooks	テキスト：心の科学 北大路書房、生和秀敏編、2003
成績評価の方法 / Evaluation	リアクションペーパー（理解の確認、25%）と期末試験の成績（75%）によって評価する。 なお、理解の確認、期末テストなどによる本授業の評価の観点は以下の通りである。 1. 心理学の基本的概念や人間発達の規定因、発達のメカニズムについて理解している。 2. 多角的な視点から人間発達のための援助ができる知見を持っている。
関連科目 / Related course	発達心理学、児童心理学、青年心理学
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	予定にある講義内容は受講者の人数および進行具合によって変更する可能性がある。

授業科目名(英文名) / Course title	現代と教育 / Present Day and Education			
担当教員(所属) / Instructor	水内 豊和(人間発達科学部)			
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目			
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目	
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 1年(経済), 3年 , 4年(人・経・理・工)	
時間割コード / Registration Code	101202	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals			
障害児の教育や福祉一般について、その理念、制度、ならびに指導原則などの理解を図り、あわせて特別支援教育への関心を高める。				
達成目標 / Course Goals				
本講義は、障害児教育や障害者福祉、ひいてはバリアフリーやユニバーサルデザインへの入門的な役割を果たすものである。それゆえ、講義ばかりでなく視聴覚教材を用いるなど、受講生のみなさんが興味をもてるように工夫に努めるが、みなさんも関連書を自ら読むなど、内容の理解に努力してほしい。				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 特別支援教育の制度と現状 / 障害者権利条約と特別支援教育</li> <li>3. インクルーシブ教育の国際動向 / インクルーシブ教育の合理的配慮と実践課題</li> <li>4. 視覚障害者に対する教育的支援 / 聴覚障害者に対する教育的支援</li> <li>5. 知的障害者に対する教育的支援 / 肢体不自由者に対する教育的支援</li> <li>6. 病弱者に対する教育的支援 / 言語障害者に対する教育的支援</li> <li>7. 情緒障害者に対する教育的支援 / 自閉症スペクトラム障害者に対する教育的支援</li> <li>8. 学習障害者に対する教育的支援 / 注意欠如・多動性障害者に対する教育的支援</li> <li>9. 特別支援教育コーディネーターの役割と課題 / 特別支援学校のセンター的機能の活用と課題</li> <li>10. 個別の指導計画と教育支援計画 / 障害のある子どもの授業づくり</li> <li>11. 障害のある子どものためのICTの活用</li> <li>12. 障害のある子どものための自己肯定感の育成</li> <li>13. 障害のある子どものための家族支援</li> <li>14. 福祉機関・就労機関の役割とその活用連携</li> <li>15. まとめとたしかめ</li> </ol>				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class				
教科書の次回指定箇所を事前に読んでおくことが望ましい				
キーワード / Keywords	特別支援教育 特殊教育 障害児教育			
履修上の注意 / Notices	必ず出席すること			
教科書・参考書等 / Textbooks	以下の教科書を、大学生協販売を通じて必ず購入すること  吉利宗久・是永かな子・大沼直樹編「新しい特別支援教育のかたち インクルーシブ教育の実現に向けて」 培風館			
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験(100%) 試験内容は、授業の内容ならびに指定の教科書から出題する。			
関連科目 / Related course				
リンク先URL / URL of syllabus or other information				
備考 / Notes				

授業科目名(英文名) / Course title	東洋の歴史と社会 / Asian History				
担当教員(所属) / Instructor	徳永 洋介(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 1年(発達), 1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101203	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	徳永 洋介(tokunaga@hmt.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	徳永 洋介(毎週火曜日 10:30~12:00)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>「司馬遷と『史記』」</p> <p>司馬遷と言えば、紀伝体と称される歴史叙述のかたちを創りあげ、後世の歴史書に絶大な影響を与えた人物とされる。中国の歴史の父という名声に恥じず、その学才が遺憾なく発揮された彼の著作は、魏晉時代に『史記』としてその名が定まるまでは、『太史公書』とか『太史公記』と呼ばれた。しかし、司馬遷が生きた時代は、史学がまだ一個のジャンルとして確立しておらず、経学のひとつ春秋学の一部にとどまっていたこともあってか、『史記』の記述には作り話とは言わないまでも、事実の記録としてはおかしな話があるところに顔を出している。なかでも『史記』の過半を占める列伝は、そうした特徴が最も顕著に現れている部分であることから、今回の講義ではその主要な材料となった「偶語」(舞踏や議論を交えた演劇)なるものに着目しながら、司馬遷の描く世界に込められた虚像と実像を縷々考察するとともに、その歴史書としてのあり方を改めて位置づけてみたい。</p>					
達成目標 / Course Goals					
司馬遷の眼を通して過去の中国人が歴史をどのようなものと捉えてきたのか、現代中国との接点を探りながらみつめる姿勢を涵養する。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
1. 歴史叙述の革新 - 紀伝体の登場 - 2-3. 天道、是か非か - 伯夷列伝 - 4-5. 恩讐の彼方に - 伍子胥列伝 - 6-7. 戯曲「趙氏孤児」の原点 - 趙世家 - 8. 麟も老いれば鷲馬となる - 廉頗藺相如列伝 - 9. 野望の果て - 呂不韋列伝 - 10. 易水の壮士 - 刺客列伝 - 11. 専制君主の悲哀 - 秦始皇本紀 - 12. 狡兔死して走狗煮らる - 淮陰侯列伝 - 13. 豪と侠 - 魏其武安侯列伝 - 14-15. 「太史公自序」と「任安に与うる書」					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
授業時間外学修は必須です。					
キーワード / Keywords	史 ヒストリー 春秋 経伝 紀伝体 編年体 書 偶語 任侠				
履修上の注意 / Notices	毎回の講義内容は参考文献を使いながら着実に整理しておくこと。そして、講義中に紹介した文献にはいちどは目を通す習慣を身につけること。				
教科書・参考書等 / Textbooks	テキストはプリントで配布する。なお参考文献などについては、授業中に適宜指示する。				
成績評価の方法 / Evaluation	レポート(20%)とまとめの試験(80%)で評価する。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	日本文学 / Japanese Literature				
担当教員(所属) / Instructor	西田谷 洋(人間発達科学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 1年(発達), 1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101204	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	西田谷 洋(nishitaya(a)mbg.nifty.com (a)を@に変更してください。)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	西田谷 洋(火・木の昼休み(12:10-12:55))				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
児童文学を中心とする日本文学テキストを小説読解の基本的な方法論に基づいて読み、自分の見解をレポート等で表現する					
達成目標 / Course Goals					
児童文学は、単に子ども向けとしておおざっぱな読解をするだけではテキストのレトリック・思想・物語構造を把握することはできない。そこで、これを丹念に読み解くことによって、テキストの特徴を捉えると共に、文学テキストを読む技術をも身につけることができる。この授業では、児童文学を中心に近代・現代文学の読解・分析能力の基礎を身につけ文学の表現構造を理解する。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
講義形式で行う。以下は予定であり、実際には進捗の都合で実施回・内容が変わることがある。					
<p>新美南吉とあまんきみこ 新美南吉編</p> <p>第1回 イントロダクション、「赤い蠟燭」「去年の木」 第2回 「のら犬」「正坊とクロ」「うた時計」 第3回 「久助君の話」「川」「嘘」 第4回 「耳」「手袋を買いに」「ごん狐」 第5回 「花のき村と盗人たち」「花を埋める」「屁」 第6回 「小さい太郎の悲しみ」「狐」「最後の胡弓弾き」 第7回 「百姓の足、坊さんの足」「おじいさんのランプ」「ごんごろう鐘」 第8回 「牛をつないだ樁の木」「和太郎さんと牛」「疣」 あまんきみこ編</p> <p>第9回 レポートへのアドバイス 第10回 「くもんこの話」「いっかい話、いっかいだけ」「ひゃっぴきめ」 第11回 「カーテン売りがやってきた」「天の町やなぎ通り」「野のピアノ野ねずみ保育園」 第12回 「海うさぎのきた日」「きりの中のぶらんこ」「さよならのうた」 第13回 「ふしぎな森」「かくれんぼ」「わたしのかさばはらのいる」 第14回 文学研究の展開 第15回 まとめ</p>					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
<p>事前学習 事前に各種全集・文庫もしくはインターネット上に公開されている作品本文を丁寧に読んでおくこと</p> <p>事後学習 講義で示された見解と自己の見解を再度本文を読解することで検討すること。 また、課題図書の商品分析に講義の内容が応用できるか考えること。</p>					
キーワード / Keywords	児童文学、新美南吉、あまんきみこ				
履修上の注意 / Notices	遅刻は出席を認めない。 私語や携帯・スマホは控えるように。				
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書：西田谷洋『新美南吉童話の読み方』(双文社出版2013)税込み2520円 教科書：あまんきみこ『あまんきみこ童話集』(ハルキ文庫2009)税込み734円				

成績評価の方法 / Evaluation	<p>評価の方法・配分  講義のコメントカードを毎回提出させるとともに(60%を目安)、レポートを課し(40%を目安)、それらを総合的に評価する。</p> <p>評価の基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントカードでは、意欲があるか、自ら考えているか、さらに有意義な見解を豊かに表現されているか。</li> <li>・レポートでは、既存の複数の学説等について引用・参照しているか否か、問題設定に対して回答を論理的・実証的に導き出せているか否か、新たな自分の見解を説得的に提示できているか否か、そもそも文章表現の形式にきちんと基づいて論述出来ているか否か。</li> </ul>
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	<a href="http://nishitaya.web.fc2.com/">http://nishitaya.web.fc2.com/</a>
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	言語と文化 / Language and Culture				
担当教員(所属) / Instructor	小助川 貞次(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 1年(発達), 1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101205	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	小助川 貞次(人文学部3階329・日本語学研究室 E-mail : kskgawa@hmt.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	小助川 貞次(平日12:15-12:45)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>漢文訓読研究のコペルニクスの転回</p> <p>漢文訓読は中学1年から高校3年まで6年間も勉強してきた漢文文献を読解するための重要なツールの一つです。私の計算によれば、毎年ほぼ100万人の新規ユーザが増え続けています。皆さんもその中の一人です。これは英語にも劣らない数値です。一方、この漢文訓読を研究対象としている研究ユーザと呼ばれる何人かの研究者がいます。私もその中の一人です。日本独自の方法と信じられている(国語の教科書にもそのように記述されています)漢文訓読ですが、中国語、朝鮮語、ベトナム語にもよく似た方法があることは意外と知られていません。さらに中世ヨーロッパに目を転じると、ラテン語文献の中にもヨーロッパ諸言語による類似した方法が存在します。漢文訓読に対する一般的な理解や教育方法、そしてそれを支える漢文訓読研究は、重要な転換点に来ています。この授業では、漢文訓読の一般ユーザである皆さんを研究ユーザの理解者として招待できるように、様々な智恵を振り絞ります。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「漢文訓読研究のコペルニクスの転回」について説明できる。</li> <li>・学問的厳しさ/楽しさを感じ取り、自らの学生生活や人生に関連づけることができる。</li> <li>・思い通りにならないことや予期せぬ事態が起きても柔軟に対応できる。</li> </ul>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 大学生のモチベーションをアップする!</li> <li>2 中等教育における漢文訓読</li> <li>3 センター試験における漢文訓読</li> <li>4 日本における漢文訓読の歴史的展開</li> <li>5 中国語、朝鮮語、ベトナム語における「訓読」</li> <li>6 「訓読」の新しい考え方(階層構造)</li> <li>7 研究ユーザを分析する(不思議な集団)</li> <li>8 アナログとデジタル</li> <li>9 紙媒体資料の有効性と限界</li> <li>10 デジタル資料の有効性と限界</li> <li>11 漢文訓読研究をコペルニクスのように転回する</li> <li>12-14 みんなもChallenge</li> <li>15 研究レポートを作成する&amp;お土産</li> </ol>					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
毎回の授業時間内に示す課題について、よく調べ、理解すること。					
キーワード / Keywords	漢文訓読、訓点資料、デジタルアーカイブ、発想の転換				
履修上の注意 / Notices	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初回出席が原則ですが、事情があって初回に出席できなかった方には同一週内で別途補講を開講します。補講にも出席できなかった方は履修をお断りする場合があります。</li> <li>2. 授業は、私の物腰の柔らかさや見かけからは想像できないほど厳しく、毎回の出欠管理、振り返り、課題提出など、様々なハードルを課します。安易な気持ちで臨んでいる学生には遠慮無く「不可(F)」を付けるとともに、受講態度が悪い学生は即刻退場の上、以降の出席を認めない措置を執ります。</li> <li>3. 中国語や漢文訓読に習熟している必要はありません。</li> <li>4. インターネット環境を利用できるようにしておいて下さい。</li> <li>5. この授業は研究の進展と密接に連動しています。したがって思い通りにならないことや予期せぬ事態が起こり、その結果として授業計画のように進まないこともあります。</li> </ol>				
教科書・参考書等 / Textbooks	授業の性格上、教科書はありません。				
成績評価の方法 / Evaluation	達成目標に沿いながら、毎回の確認カードの記述内容(2点×15回)、中間レポート(10点×3回)、最終レポート(40点)の合計点によって評価します。				
関連科目 / Related course					

リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	美術 / Fine Art			
担当教員(所属) / Instructor	隅 敦(人間発達科学部)			
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目			
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目	
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 1年(発達), 1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)	
時間割コード / Registration Code	101206	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	美術が作品表現の世界だけにとどまらず、日常生活から産業や経済にも多大な影響を与えている事実を知らせる		
<p>1 図画工作科、美術科で培った能力が、社会の中でどのように生かされているのか、さらにはどのようにつながっているのかについて、単に趣味の領域にとどまることのない教科としての可能性を探って欲しい。</p> <p>2 美術がサブカルチャーと関係し、産業まで影響を与え、時には経済を動かす事実にも目を向けて欲しい。</p> <p>3 美術表現に苦手意識を抱いてきた者にも、ファッションや身近なグッズなど知らず知らずのうちに選択し、その力を身につけている事実を確認し、さらには、社会のあらゆる場面で、その力が求められることに気付いて欲しい。</p>				
達成目標 / Course Goals				
<p>* 教科としての「美術」、一般的に用いられる「美術」の概念から離れて、広く「美術」を捉え直そうとする構えができる。</p> <p>* 「サブカルチャー」として位置づけられていた文化が美術に変貌していく過程を知り、さらに互いに内包し合う関係にまで至ることを理解する。</p> <p>* 単に自然環境を示す「環境」として捉えるだけでなく、広く捉えの受け止め方の広がり、美術の表現の関連性について理解する。</p> <p>* 日常生活で見られる商品の「パッケージ」(容器)を専門のデザイナーがデザインしている事実に着目し、美術のもつ可能性について理解する。</p> <p>* 国内外の特徴のある「建築」から美術との関連に関心を持ち、互いにどのように位置づけられるか考察する。</p> <p>* 「技術」と美術を融合させることで生まれる「ものづくり」の可能性について理解する。</p> <p>* 「料理」が美術とつながることによって、生まれる新たな味以外の価値について、器などの選択を含めて理解する。</p> <p>* 「ファッション」で求められることと、美術で求められることの共通点について知り、その広がりを理解する。</p> <p>* 形を極めるという観点から、美術との関連性について「書」を理解する。</p> <p>* 海外における「kawaii」の概念の受け止め方を知り、美術におけるその存在意味に気づき、美術そのものの広がりを理解する。</p>				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule				
<p>第1回 全体の講義内容説明と美術のとらえ方 サブカルチャーと美術(1)サブカルチャーと美術の関連性について</p> <p>第2回 サブカルチャーと美術(2)美術に自然に取り組みされていくサブカルチャーについて</p> <p>第3回 写真と美術 写真は美術なのか?美術と写真の関係性について</p> <p>第4回 環境と美術 「環境」をテーマに構築できる美術の世界について</p> <p>第5回 パッケージデザインと美術(1)容器はリサイクルされても、デザインそのものは使い捨てになっていることについて</p> <p>第6回 パッケージデザインと美術(2)パッケージデザインを美術として捉えることについて</p> <p>第7回 建築と美術 建築と美術の相違点と一致点</p> <p>第8回 技術と美術(1)技術と美術という観点から、「ものづくり」のあり方について</p> <p>第9回 技術と美術(2)技術と美術を融合させることで生まれる可能性について</p> <p>第10回 料理と美術 美術が料理とつながることによって生まれるものについて</p> <p>第11回 ファッションと美術(1)ファッションで求められることと美術で求められることに共通点について</p> <p>第12回 ファッションと美術(2)改めてファッションで求められることと美術で求められることに共通点について</p> <p>第13回 書と美術 書(文字)を美術と捉えることについて</p> <p>第14回 kawaiiと美術(1)「kawaii」キャラクターが生活の中で求められている事実について</p> <p>第15回 kawaiiと美術(2)「kawaii」の解釈と表現の多様性について</p> <p>定期試験</p>				
以上の内容で講義を行う予定であるが、講義順などを変更する場合もある。				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class				
<p>* [事前学修] 各回の授業計画に示されている内容から予想される講義内容を考えておく。</p> <p>各回の授業内に講義レポートを作成しながら、授業内容の振り返りを行う。なお、講義レポートの質問事項は、講義のテーマによって異なる。</p> <p>[事後学修] 事前に自分が予想した授業の展開と異なった点を元に、参考図書を読んだり、関連HPを自分で閲覧したりしながら講義の内容の振り返りを行う。</p>				
キーワード / Keywords	美術, 産業, 経済, ファッション, サブカルチャー, デザイン			

履修上の注意 / Notices	視覚中心の美術といえども、言語表現は大切にしたいので、毎回、講義をきっかけに自分の考えたことをミニレポートにまとめる（講義内）。さらに独立した試験を行う。ミニレポートは出席表も兼ねており、終了間際に入室し、ミニレポートだけ提出することは認めない。私語や飲食などは禁止する。
教科書・参考書等 / Textbooks	参考書の一部：木下直之「美術という見世物」ちくま学芸文庫、「<日本美術>誕生近代日本の『ことば』と戦略」、北澤憲昭「目の神殿『美術』受容史ノート」ブリュック、辻惟雄「日本美術の歴史」東京大学出版会、奥山清行「フェラーリと鉄瓶」PHP研究所、井上雄彦「バカボン画集『墨』」講談社、泉武夫「躍動する絵に舌を巻く信貴山縁起絵巻」小学館、高畑勲「十二世紀のアニメーション」徳間書店、『アートディレクター佐藤可士和の仕事』NHK DVD「プロフェッショナル仕事の流儀」NHKエンタープライズ、水戸岡鋭治「ぼくは『つばめ』のデザイナー九州新幹線800系誕生物語」講談社、白井田勝仁「超接写・ロボットの『機構』」毎日コミュニケーションズ、深井晃子「ファッションから名画を読む」PHP新書、犬山信彦「日本ビジュアル生活史江戸のきものと衣生活」小学館、「装苑」第62巻7号、村上隆「村上隆作品集」カイカイキキ2001, Andy Goldsworthy “WOOD” Harry N. Abrams1996, 安藤忠雄「安藤忠雄の美術館・博物館」美術出版社、フンデルトワッサー「フンデルトワッサー建築」タッシェン
成績評価の方法 / Evaluation	達成目標の項目について、自分がこれまで認識してきた美術の概念と比較し記述することができているかどうかについて「講義レポート」で50%、「期末試験」50%で評価する。
関連科目 / Related course	人間発達科学部 前期「図画工作科教育論A・B」後期「図画工作A・B」
リンク先URL / URL of syllabus or other information	富山県立近代美術館 ( <a href="http://www.pref.toyama.jp/branches/3042/3042.htm">http://www.pref.toyama.jp/branches/3042/3042.htm</a> ) 富山県水墨美術館 ( <a href="http://www.pref.toyama.jp/branches/3044/3044.htm">http://www.pref.toyama.jp/branches/3044/3044.htm</a> )
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	現代社会論 / Contemporary Society		
担当教員(所属) / Instructor	林 夏生(人文学部)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(理,工), 1年(発達)
時間割コード / Registration Code	101207	対象学年 / Eligible grade	1年 単位数 / Credits 2.0
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	林 夏生(natsuo@hmt.u-toyama.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	林 夏生(教員のメールアドレス宛に、研究室(人文学部411号室)を来訪することができる曜日と時間帯を第3候補程度まで列挙し、あなたの連絡先(携帯電話のメールアドレスなど)を付したメールを送信してください。日程調整の上、折り返し連絡します。)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
<p>ひとりの有権者として、現代社会の現状や動向を自分なりに把握し、適切な判断を下せるようになりたい。あるいは将来、「国際的」な仕事に就いて、グローバルに活躍したい、世界の平和と繁栄に貢献したい。そう願えばこそ、頑張って新聞やテレビの国際ニュースを読み解こうとするけれど、どうにも理解が追い付かずに長続きしない...と悶々としている学生は、実に多い。それは、あなたのせいではない。なぜなら、未曾有の激動の中にある国際情勢をリアルタイムに分析する上で不可欠な知識と方法、そしてそれを身に付けるための反復的なトレーニングの機会を、高校までの授業は十分に与えてくれなかったからだ。</p> <p>だからこの授業では、高校まででは触れ得なかった「国際関係論」という視点から、現代社会で起きる複雑な事象を正確に理解するための「知識」と「方法」を学ぶ機会を提供する。そして、学んだ知識と方法を繰り返し「実践」するため、紙媒体の新聞(できれば複数紙)に毎週目を通して、自分が関心をもったニュースについてまとめるというトレーニング「ニュースウォッチ」にも、継続して取り組んでもらうこととする。</p> <p>信頼できる情報源を見定め、国内外の現代社会で今起きているできごとについて知るのみならず、その背景にある変動や今後の展望を、信頼できる情報源をもとに自力で、誰よりも客観的に読み解く。その能力は、責任と能力のある市民として現代社会を生きようとするとき、もはや「あってもなくてもよいもの」から「なければならないもの」へと変わりつつある。学生諸君が授業を履修している期間だけではなく、授業履修後や大学卒業後も、現代社会情勢を独力で読み解いていけるだけの基礎力を身につけてもらうことが、この授業の究極の目標である。</p>			
達成目標 / Course Goals			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新聞記事の内容を簡単にまとめるトレーニング(「ニュースウォッチ」)を繰り返し実践し、時事報道や分析記事の正確かつ効率的な読み方を身につける。</li> <li>2. 国内・国際社会の主要な動向のうち、授業で取り上げた実例に関して、その歴史的な経過と現状について理解できるようになる。</li> <li>3. 政治・経済の基本的な知識、政治学・経済学および国際関係論の基礎的な概念とその使い方を習得する。</li> </ol>			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新聞記事の内容を簡単にまとめるトレーニング(「ニュースウォッチ」)を繰り返し実践し、時事報道と分析記事の正確かつ効率的な読み方ができるようになる。</li> <li>2. 現代社会を特徴づける主要な動向のうち、授業中にケーススタディとして取り上げた実例に関し、その歴史的な経過と現状について理解し、説明できるようになる。</li> <li>3. 現代社会情勢のなかで各自が関心をもつ事象について、授業で学習した知識や方法を応用し、自分なりに情報をあつめ、簡単な分析を加えることができるようになる。</li> </ol>			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
直近1週間の新聞(紙媒体のものに限る)に目を通し、各自が関心を持ったニュースについて、以下のことをA4用紙1枚にまとめた「ニュースウォッチ」を作成し、毎週提出する。 ニュースで報道されたできごとの概要 に関する専門家の見解 を踏まえたうえで、あなたの考えるところ			
キーワード / Keywords	新聞 ニュース 時事問題 国際社会 国際関係 外交 安全保障 平和 戦争 テロ 国際協力 中東 東アジア		
履修上の注意 / Notices	国際情勢の正確な理解のためには、地理的情報がきわめて重要である。最新の地図帳をひとつ持ち、気になるニュースに出てきた地名はこまめに確認しておくこと。 高校卒業までに学んできた近現代史や政治・経済に関する知識のなかで、理解が不十分であると自分で思う部分がある学生は、高校時代の教科書や参考書を手に置き、随時参照して各自復習につとめていただきたい。		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書・参考書等にかえて、毎週かかさず新聞を読んでいただく。新聞を購読していない学生は、図書館に各種新聞が配置してあるので、十分に活用すること。インターネットで無料配信されるニュースの概要だけを流し読みすることを、この授業では「新聞を読んだ」とは言わない。		
成績評価の方法 / Evaluation	「ニュースウォッチ」への取り組み・提出状況を50%、および授業中に配布し記入を求める「ワークシート」への取り組み・提出状況を50%とし、この合計をもって評価する。		

関連科目 / Related course	「国際関係論概論」（人文学部・後期木曜1限開講）
リンク先URL / URL of syllabus or other information	<a href="http://www.hmt.u-toyama.ac.jp/ir">http://www.hmt.u-toyama.ac.jp/ir</a>
備考 / Notes	専門分野としての「国際関係論」に関心のある学生は、この授業を履修しておくことを強く勧める。

授業科目名(英文名) / Course title	国家と市民 / State and Citizen				
担当教員(所属) / Instructor	八百 章嘉(経済学部経営法学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(理,工), 1年(発達), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101208	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>本講義では、「現代刑事裁判論」という標題のもと、刑事訴訟法を軸とした刑事裁判の基本枠組みならびにその問題点について考察する。</p> <p>近年、我が国の刑事司法は、裁判員制度や司法取引制度の導入など、1つの大きな転換点を迎えている。とりわけ裁判員制度では、広く国民一般の司法参加が謳われており、刑事裁判がより身近な存在となっている。</p> <p>このような時勢のなか、捜査から刑の執行までを規律する刑事訴訟法の基本理念や各種規定を学び、刑事裁判が抱える多様な問題を検討することは、国民の主体的な司法参加をより促進することに繋がるであろう。</p> <p>履修者には、刑事訴訟法の意義および刑事裁判における国家と市民の関係性について、考えてもらいたい。</p>					
達成目標 / Course Goals					
刑事訴訟法の基本理念および各種規定の意義を理解し、刑事裁判の問題点やその在るべき姿を主体的に考えることができるようになることを目的とする。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第1回 イントロダクション - - 刑事手続のラフスケッチ - -					
第2回 我が国の犯罪状況 - - 犯罪は「凶悪化」しているのか - -					
第3回 捜査手続 - - 職務質問・所持品検査は拒否できるのか - -					
第4回 捜査手続 - - GPS情報の捜査利用に令状はいらぬ? - -					
第5回 公訴提起 - - 検察官は「公益の代表者」? - -					
第6回 公判手続 - - 「ビビッドな公判」は絵空事か - -					
第7回 証拠法 - - 「自白は証拠の女王」? - -					
第8回 証拠法 - - 「お巡りがヘマすると犯罪者は無罪放免」? - -					
第9回 量刑 - - 「厳罰化」は進んでいるのか - -					
第10回 再審 - - 誤判と「開かずの扉」 - -					
第11回 被害者と刑事裁判 - - 「忘れられた存在」の現在 - -					
第12回 少年と刑事裁判 - - モラル・パニックと少年法改正 - -					
第13回 報道と刑事裁判 - - 「報道の自由」と「適正手続の保障」 - -					
第14回 法的処理と刑事裁判 - - 「取引の社会」の是非 - -					
第15回 裁判員制度 - - 刑事裁判は変わることができるのか - -					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
事前学習 事前に指示する参考文献を熟読し、基礎的知識の整理を試みること。					
事後学習 授業終了時に示す課題について、参考文献を用いて調べ、理解を深めること。					

キーワード / Keywords	刑事訴訟法、刑事裁判、裁判員制度
履修上の注意 / Notices	
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書はあらかじめ特に指定しないが、必要に応じて講義で紹介する。 なお、毎回レジユメを配布する予定である。
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験による。
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	産業と経済を学ぶ / Industry and Economy				
担当教員(所属) / Instructor	金 奉吉(経済学部経済学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(理,工), 1年(発達), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101209	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>経済学というのは、論理的でありながら抽象的かもしれないが、だからこそ広く応用が利き、役に立つことが多い分野です。すなわち、私たちの日常生活の多くの問題は、経済理論を適用することで、納得のゆく答えを見出すことができます。</p> <p>本授業の目的は、経済学の考え方や経済学に関する基礎知識を学び、それを持って世界経済と産業に関する現状及び動向に関する理解度を高め、さらに日本の経済・産業に対する分析力を身に付けることです。</p> <p>そこで、本授業では、まず経済学とはどのような学問であるかなど基礎的な経済理論と経済問題について概説します。また、最近話題になっているグローバリズムやFTA/EPAなどの地域主義など世界経済環境の変化とその要因、そしてこのような世界経済環境の変化が日本経済や産業に与える影響について基本データを示しながら説明します。</p>					
達成目標 / Course Goals	経済学の基本的な考え方を身に付け、自分で世界及び日本の経済・産業の動向把握及び分析力を身に付けることです。				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule	第1回：講義概要、経済学とは何か 第2回：経済学の主要原理 第3回：基本的な経済指標(1) 第4回：基本的な経済指標(2) 第5回：経済体制：政府と市場の役割 第6回：国際経済環境の変化(1) 第7回：国際経済環境の変化(2) 第8回：国際経済環境の変化(3) 第9回：戦後日本経済の歩み(1) 第10回：戦後日本経済の歩み(2) 第11回：経済発展と産業構造(1) 第12回：経済発展と産業構造(2) 第13回：日本産業の発展パターン(1) 第14回：日本産業の発展パターン(2) 第15回：まとめ：日本経済・産業を取り巻く環境の変化と今後の課題				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class	・参考文献及び事前に配布した資料を用いて次回の授業内容について理解すること ・可能であれば毎日新聞などの経済・産業面に目を通してください。				
キーワード / Keywords	経済原理 経済体制 バブル経済 情報通信技術と産業構造 ものづくり産業 グローバリズム リージョナリズム 国際競争力				
履修上の注意 / Notices	講義内容についての理解度の確認のため、講義の感想や質問などをカードに書いて提出してもらいます。				
教科書・参考書等 / Textbooks	早稲田大学商学部(2015)『ビジネスのための経済学入門』 中央経済社 伊藤元重(2015)『入門経済学』日本評論社 三橋 規宏、内田 茂男(2012)『ゼミナール日本経済入門』 第25版				
成績評価の方法 / Evaluation	宿題、期末テストなどを考慮して総合的に評価します。具体的な評価方法は、履修者が確定した後で授業の中で公表します。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	生命の世界 / Biological Science				
担当教員(所属) / Instructor	唐原 一郎(理学部生物学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101210	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	唐原 一郎(076-445-6630 karahara@sci.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	唐原 一郎(火曜日 15:00-16:00)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>植物が生き物だとは知らなかった, などと思っている人はいませんか? 確かに余り動きませんし, ひっそりと生きているイメージです. 植物は私達の生命の根幹を握っているだけでなく, これまでの地球環境を左右してきたし, 今後もその運命の鍵を握っているでしょう. 本授業では, 植物の視点に立ちその自然史を遡りながら, さらにアストロバイオロジーにもふれ, 生命の起源, 物質の起源にまで遡ります. 生命の誕生から今日にいたるまでの生命誌(バイオヒストリー)を辿ると, その局面において植物が重要な鍵を握っていることに気づかされます. そこで全てを含めて, 植物のビッグ・ヒストリーを辿ります.</p>					
達成目標 / Course Goals					
<p>まずアストロバイオロジーの視点で, まず真の生物学とは何かを考えます. そして宇宙における生物を構成する物質の形成, 地球型生命の誕生から入り, 水の性質と生命における水の重要性を理解します. 生物生体膜の性質から細胞の形成をとらえ, 原核・真核生物を中心に生物大分類の枠組みを理解します. その後, 植物の世界に入り, 植物の機能から細胞を理解し, 分類の基礎を学び, 植物組織を理解した上で裸子植物・被子植物へと植物の進化を学びます.</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス(後半の概要)</li> <li>宇宙生物学(アストロバイオロジー)入門</li> <li>生命, 細胞, DNA</li> <li>生命と水そして生体膜</li> <li>生物大分類・原核生物・真核生物1</li> <li>生物大分類・原核生物・真核生物2</li> <li>地球史と植物の進化(植物の陸上化)1</li> <li>地球史と植物の進化(植物の陸上化)2</li> <li>コケ, シダ植物</li> <li>裸子植物I</li> <li>裸子植物II</li> <li>植物の組織I</li> <li>植物の組織II</li> <li>被子植物I</li> <li>被子植物II</li> </ol>					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
ノートを作成するなどして授業内容をまとめ, ミニツッペーパー・レポートの準備を行うこと.					
キーワード / Keywords	生命, 細胞, 細胞小器官, 組織, 器官, アストロバイオロジー				
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	プリント配布資料を中心に進めます. 理解を深めたい人の参考書としては「新しい植物科学」培館¥3600, 「ベーシックマスター植物生理学」オーム社 ¥3800, をおすすめします.				
成績評価の方法 / Evaluation	小テスト(約60%), 講義への取り組み(受講態度)(約30%), ミニツッペーパー・レポート(約10%)の評価項目の得点の合計をもって評点とします.				
関連科目 / Related course	関連する学問分野は, 植物形態学, 植物生理学, 資源植物学, 細胞生物学です.				
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes	レポート等授業に関する連絡が必要な場合, ヘルプシステムを通じて行うので, メールをチェックするようにしてください.				

授業科目名(英文名) / Course title	自然と情報の数理 / Mathematical Principles in Natural Sciences and Intelligence				
担当教員(所属) / Instructor	阿部 幸隆(理学部数学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101211	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位数
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	阿部 幸隆(理学部2号館2階 B239) 電子メール: abe@sci.u-toyama.ac.jp				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	阿部 幸隆(前期:金曜日3限 後期:未定(後期授業開始までに記載する))				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
今日、数学は、陰に陽に、いたるところで用いられている。このような現代社会において、文科系学生にとっても、数学の考え方や知識は有用なものであると思う。日常生活においても、数学を理解していることで、より賢明な判断をすることが可能になる。この授業では、現実場面を思考するための道具として役立つ数学の内容をできるだけ取り上げて解説する。					
達成目標 / Course Goals					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・方程式、不等式を用いて問題を表現することができる。</li> <li>・方程式、不等式から情報を読み取ることができる。</li> <li>・数列の基礎事項を理解できる。</li> <li>・漸化式を使って考えることができる。</li> <li>・極限の意味を理解できる。</li> <li>・行列とその演算を理解できる。</li> <li>・行列を用いて連立1次方程式を解くことができる。</li> <li>・指数関数と対数関数を理解できる。</li> <li>・周期関数と三角関数の関係を理解できる。</li> <li>・確率で状況を判断することができる。</li> <li>・固有ベクトルを理解できる。</li> <li>・微分の意味を理解できる。</li> <li>・微積分学の基本定理を理解できる。</li> </ul>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<p>以下の内容を解説する。</p> <p>第1回 文字と式, グラフ</p> <p>第2回 方程式と不等式</p> <p>第3回 数列で考える</p> <p>第4回 数列の基本事項</p> <p>第5回 漸化式と数列の極限</p> <p>第6回 ベクトルと行列</p> <p>第7回 連立1次方程式</p> <p>第8回 指数関数と対数関数</p> <p>第9回 周期関数</p> <p>第10回 確率</p> <p>第11回 推移行列</p> <p>第12回 固有値, 固有ベクトル</p> <p>第13回 固有ベクトルで最適化問題を解く</p> <p>第14回 微分</p> <p>第15回 積分</p>					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
各回の授業内容を復習し、演習問題を解く。					
キーワード / Keywords	方程式, 不等式, 数列, 漸化式, 行列, 指数関数, 対数関数, 周期関数, 確率, 固有値, 固有ベクトル, 微分, 積分				
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: 川添充, 岡本真彦著「思考ツールとしての数学」(共立出版), ISBN978-4-320-11030-4, 2012年発行, 定価(本体2200円+税)				
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験の結果により評価する。				

関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	材料の科学 / Materials Science				
担当教員(所属) / Instructor	柴柳 敏哉(工学部材料機能工学科), 砂田 聡(工学部材料機能工学科), 才川 清二(工学部材料機能工				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(人文), 1年(発達), 1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	101212	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>(柴柳) サブタイトル: “材料組織の多様性” 私たちの生活を支える人工構造物の多くは金属材料で構成されています。優れた素材を造り出すことは安心安全社会の実現に不可欠で、日本は材料研究のトップランナーとして役割を果たしています。本講義では金属材料の多様性について平易に解説します。</p> <p>(砂田) サブタイトル: “金属材料の創生と延命” 我々が使用している工業製品のほとんどは金属材料から出来ています。金属材料の原料は地球の地中、海中および大気中の物質なのです。これらの原料を人類の英知を結集して製錬(還元)するのです。製錬した材料は地球上では元の物質に戻りたがりません。これを腐食(酸化)と呼び、これを防ぐことも重要です。本講義では金属材料の創生と延命について解説します。</p> <p>(才川) サブタイトル: “金属材料による鋳造と凝固” “鋳造”とは溶かした金属を所定の鋳型に流し込み凝固させる事により、目的とする形状の部品や部材等を成形する製造法の一つであり、航空機、自動車ならびに船舶等を構成する金属部品の製造に必要不可欠とされる。本講義では鋳造と凝固について説明した後、同部材による車両軽量化の事例と今後の課題を解説する。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<p>(柴柳)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>金属材料に関する基本的な知識を得ること。</li> <li>材料組織のデザインについて基礎概念を理解すること。</li> </ol> <p>(砂田)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>金属材料の製錬と腐食に関する用語を理解すること。</li> <li>腐食・防食のメカニズム解明の基本を習得すること。</li> </ol> <p>(才川)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>金属材料による鋳造と凝固および精錬に関する知識を得ること。</li> <li>鋳造部材の車両等への適用動向と工業的課題を理解すること。</li> </ol>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					

(柴柳)

- (1) 暮らしの中の金属材料
- (2) 命を支える材料特性
- (3) 材料組織の基礎概念
- (4) 材料組織をデザインする
- (5) 最強の素材を創ろう

(砂田)

- (6) 原料から金属材料へ
- (7) 金属材料と環境
- (8) 防食性能発揮に関する Active Learning
- (9) 耐食性材料の防食メカニズム
- (10) 耐食性材料の評価

(才川)

- (11) 鋳造部材の必要性 (アルミニウムおよびマグネシウム合金を中心に)
- (12) 実用鋳造法の種類と特徴
- (13) 鋳造における凝固挙動と組織形成
- (14) 鋳造における溶湯精錬の重要性
- (15) 次世代自動車への軽金属鋳物部材の適用動向と課題

---- Active Learningのルーブリック ----

1. Active Learningにおけるグループ学習で、基礎知識を活かした解を導き出すことができる。

ランク4: 解を導き出し、議論が十分され、グループ全体の理解度が大きい

ランク3: 解を導き出し、議論され、一定の理解度がある

ランク2: 解を導き出し、議論がされているが、グループ全体の理解度が小さい

ランク1: 解を導き出しているが、議論が不十分であり、グループ全体の理解度が小さい

授業時間外学修 (事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class

事前学習: 材料関連現象について興味を持って調べる。

事後学習: 宿題を中心とした反復学習

キーワード / Keywords

金属材料, 組織, 腐食防食, 電気化学, 鋳造, 凝固, 軽量化

履修上の注意 / Notices

私たちの生活を支えている金属材料に好奇心をもって目を向けて下さい。  
富大シャトルカードを使う場合があります。

教科書・参考書等 / Textbooks

参考図書は必要に応じて紹介します。

成績評価の方法 / Evaluation

演習・レポートおよび各担当者が実施する試験の成績で評価します。

関連科目 / Related course

特にありません。

リンク先URL

/ URL of syllabus or other information

備考 / Notes

授業科目名(英文名) / Course title	人間と倫理 / Ethics		
担当教員(所属) / Instructor	田畑 真美(人文学部)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工),3年,4年(人・経・理・工),3年,4年(教育・発達)
時間割コード / Registration Code	101225	対象学年 / Eligible grade	1年,2年,3年,4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	田畑 真美(tabata@hmt.u-toyama.ac.jp) 076-445-6155(研究室) 人文学部棟6階 人間学研究室(608)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	田畑 真美(水曜:12:00~12:50 金曜:12:00~14:00 できればメール、電話などで事前に連絡していただくと、助かります。)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業計画は、多少変更することもあります。			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	東洋における倫理思想の特質について、理解する。	
日本・中国の倫理思想を素材として、人間はいかに生きるべきかを考える。人間存在のとらえ方、善悪の概念のとらえ方、日本人の規範意識などを主なテーマとする。西洋における善悪の概念もみながら、古代中国の儒教思想、朱子学、陽明学、日本の神道思想や仏教思想などを取り上げる予定である。授業で扱われた事柄をただ無批判に丸呑みするのではなく、自分自身の価値観を築いていくきっかけとして主体的に学んでもらいたい。			
達成目標 / Course Goals	東洋における倫理思想について、理解する。 善悪の概念、規範意識、価値観などについて自分自身の頭で考えることができるようにする。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
第1回導入 なにが問題となり得るか 善悪、罪、規範意識 第2回日本・中国における倫理思想の特質 第3回古代中国、天と人の関係について 第4回孟子の思想 第5回荀子の思想 第6回礼について 第7回朱子学における人間観と善悪 第8回陽明学における人間観と善悪 第9回 中国の思想の振り返り 小まとめテストなど 第10回 日本における善悪観 襖袂の思想 第11回 国学における善悪 本居宣長の思想 第12回 仏教思想における善、罪 親鸞の思想について 第13回 和辻哲郎の考える善悪、規範(1)人間観 第14回和辻哲郎の考える善悪、規範(1)信頼と真実 第15回 日本における善悪観まとめ			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
授業で紹介された参考文献等を読み、授業で扱われたテーマについての理解を深める。			
キーワード / Keywords	倫理、善悪、規範、心情、自己、他者、日本、中国		
履修上の注意 / Notices			
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は使用しない。 参考書: 中島隆博『悪の哲学 中国哲学の想像力』筑摩書房2012 小林勝人訳注『孟子 上下』岩波文庫1972 藤堂明保監修 戸川芳郎 森秀樹 関口順訳『荀子 上下』学習研究社1986 唯円著 金子大栄校注『歎異抄』岩波文庫1931 本居宣長著 倉野憲治校訂『古事記伝(一)(二)』岩波文庫1940年、1941年第一刷所収 和辻哲郎『日本倫理思想史(一)』岩波文庫2011ほか		

成績評価の方法 / Evaluation	授業中に課す小テスト（50パーセント）と、期末に課すレポート（50パーセント）の総合評価。
関連科目 / Related course	哲学のすすめ
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	日本の歴史と社会 / Japanese History		
担当教員(所属) / Instructor	熊谷 隆之(人文学部)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工),3年,4年(人・経・理・工),3年,4年(教育・発達)
時間割コード / Registration Code	101226	対象学年 / Eligible grade	1年,2年,3年,4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	熊谷 隆之(kumagai@hmt.u-toyama.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	熊谷 隆之(金曜12:10~12:50。メールで事前連絡してから訪問すること。)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
せっかくの大学生活。大学図書館を大いに利用しましょう。			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
サブタイトル:「日本中世の歴史と歴史認識」			
1、日本の歴史、とくに中世史に関する基礎的知識・教養の習得をめざします。 2、それらを題材に、歴史と歴史認識について考えるための基礎能力の獲得を狙います。			
達成目標 / Course Goals			
日本の歴史、とくに中世史に関する基礎的知識・教養を習得するとともに、歴史と歴史認識について考えるための一定の視座を獲得する。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
講義形式で、おおむね以下のような流れで進めます。			
第1回 「武士」とは何だろうか 第2回 源氏と平氏の興隆 第3回 日本人の名前 第4回 日本中世の国家論 第5回 寺社の強訴 第6回 日本中世はどんな社会か 自力救済社会 第7~8回 日本中世の罪と罰 第9回 日本中世の年貢と公事 第10回 日本中世の米と肉 第11回 「源平合戦」の虚構と真実 第12回 源平交替思想の形成 第13回 両統迭立と南北朝正閏論 第14回 楠木正成像の変遷 第15回 まとめ			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
参考文献等を用いて、日本中世史に関する理解を深めておいて下さい。			
キーワード / Keywords	武士 荘園 権門体制論 社会史 歴史認識		
履修上の注意 / Notices	日本の高等学校で日本史を履修していたことを前提に授業を進めます。		
教科書・参考書等 / Textbooks	参考書の一例 『岩波講座 日本歴史』全22巻(岩波書店、2013年~) 『ミネルヴァ日本評伝選』(ミネルヴァ書房、2003年~) 『中世史研究叢書』1~(岩田書院、2001年~) 『戦国史研究叢書』1~(岩田書院、1995年~) 『同成社中世史選書』1~(同成社、2005年~) 『戎光祥研究叢書』1~(戎光祥出版、2013年~) 『戎光祥中世史論集』1~(戎光祥出版、2014年~) 『シリーズ・実像に迫る』001~(戎光祥出版、2016年~) 『シリーズ・中世関東武士の研究』(戎光祥出版、2010年~) 『思文閣史学叢書』(思文閣出版、1983年~) 『読みなおす日本史』(吉川弘文館、2012年~) 『考古学と中世史研究』1~(高志書院、2004年~) 『生活と文化の歴史学』1~(竹林舎、2012年~) このほかの参考文献については、授業のなかで、その都度紹介します。		

成績評価の方法 / Evaluation	学期末試験の内容で評価します ( 100% )。
関連科目 / Related course	なし。
リンク先URL / URL of syllabus or other information	<a href="http://www.hmt.u-toyama.ac.jp/nihonshi/index.html">http://www.hmt.u-toyama.ac.jp/nihonshi/index.html</a>
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	日本文学 / Japanese Literature		
担当教員(所属) / Instructor	田村 俊介(人文学部)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)
時間割コード / Registration Code	101227	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	田村 俊介(メールアドレス stamura@hmt.u-toyama.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	田村 俊介(前期は金曜15時半から16時45分まで、後期は火曜12時から13時まで。)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
<p>オフィスアワーは、金曜15時半から16時45分。  「履修上の注意」欄に書いたように、去年やおととしの私の授業で同内容の話が多いものを単位取得した者の履修は望ましくないが、事情によっては許可する場合がありますので、申し出ること。</p>			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
<p>サブタイトル：夏目漱石の世界  近代文学の最高峰と言われることもある夏目漱石(慶応3年 大正5年)の諸作品を読む。  漱石は明治38(1905)年から大正5(1916)年迄の十二年間で、中編・長編だけでも15もの小説を発表し、そのうちの10作品が名作として評価されている。授業では、互いに関連がある、そのうちの五つの小説を取り上げる。</p> <p>なお、授業計画欄の予定は2週間程度変更する(省略したりする)可能性がある。また、2週間程度、予定にない話をする場合もある。  又、履修者数が少ない場合、口頭で授業内容に関する意見を言ってもらおう機会を作り、履修者数が多い場合、11時40分ごろから12時まで小レポートを実施し、授業内容に関して意見を書いてもらう週もある。</p>			
達成目標 / Course Goals			
夏目漱石の世界の一端を知ること。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
<p>第1回から第3回迄：前期三部作第一作『三四郎』(明治41年)を読む。第1回は、主人公・小川三四郎が五高生だった熊本時代、そして、東大へ入学するため、熊本、若しくは、実家(福岡県)から東京へ向かう汽車の旅の部分、読む。第2回は、東大周辺を舞台にし、里見美禰子に魅かれて行く様子、第3回は失恋して行く様子を読む。第1回には、ガイダンスも行う。</p> <p>第4回から第6回迄：前期三部作第二作『それから』(明治42年)を読む。主人公代助と平岡は東京府東京市で生まれる。中学からの友達であった。大学時代、代助は好きだった三千代を平岡に譲り、二人の結婚のために尽力する。結婚して間もなく関西に移住した二人であったが、平岡の仕事が思わしくなく、夫婦は東京に戻ってきた。三千代が平岡抜きに金策などの悩みの相談のため代助を訪問したりしているうちに、三千代と気持ちを通じ合わせ、作品の末尾では、三千代と共に生きて行こうとする代助の意気込みが描かれることになる。当時の刑法353条、311条にも触れつつ、考察する。</p> <p>第7回から第8回迄：前期三部作第三作『門』(明治43年)を読む。この作品は、親友の妻を奪った代助がその後どのように生きて行ったかが、代助ならぬ宗助の生き様として描かれており、登場人物の名前こそ違え、一般に『それから』の続編と見なされている。宗助は東京生まれだが、大学一年時代、京大に編入する。大学二年生と成る年度が始まる9月に、帰省先の東京から京都に戻ると、親友の安井は御米と事実上の結婚をしていた。翌年、春の兆しを感じられる冬の終わり頃、宗助は、我を忘れたまま、御米と恋愛し、葉桜の頃、気が付いたら、二人は事実上の夫婦であった。このような事実上の略奪結婚が暴露されると、宗助は京大を自主退学、広島、福岡、東京と職を転々とするようになった。安井と御米は入籍していなかったため法律上は罰せられないものの、親戚や世間から排斥され、何より、宗助本人の心の苦悩が如何ほどであったかなど明らかにしたい。</p> <p>第9回から第11回迄：後期三部作第三作『心』(大正3年)を、下巻を中心に読む。一般に先生と呼ばれている、主人公の新潟県人が同郷の親友Kが好きだった下宿のお嬢さんに、Kを出し抜いて求婚し(但し、お嬢さん本人ではなく、本人の母親へ意向を伝えた)、結婚が決まると同時にKが自殺する小説であり、Kとお嬢さんが戸籍上も事実上も結婚していなかった点は大きな違いであるが、親友の愛する女性を奪うことで親友を傷つけ、良心の呵責に苛まれる点で、『門』の提示した問題を引き継いだ作品と見ることもできる。</p> <p>第12回から第14回迄：『草枕』(明治39年)などを読み、夏目漱石が夫婦愛を尊重していたことを明らかにする。</p> <p>第15回：まとめと補足</p>			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			

最初に扱う小説は『三四郎』であるが、第2週より前に通読しておくこと。以下も、授業で扱う小説を、その小説について論ずる週よりも前に、通読しておくこと。例えば、『それから』については第4回の授業が始まる前に、『門』については第7回の授業が始まる前に、読んで置くこと。

キーワード / Keywords	夏目漱石
履修上の注意 / Notices	2014年度後期金曜五限の日本文学史、2015年度前期火曜2限日本文学、2016年度前期火曜2限日本文学と重なるところが多いので、これらの授業のいずれかを履修した者の履修は許可しない。これらの授業のいずれかを履修したものの単位を取得しなかった者（成績評価がF（不可）かH（評価対象外）のいずれかであった者）の履修は許可する。但し、人文学部生が本講義に限らず人文系の教養原論を履修する場合、自由単元にしか成らない、或いは、自由単元にさえ成らないなどの制約がある。そうした履修上の規則を自分で調べ、承知の上で履修すること。
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書：プリントをこちらで用意し、配布する。
成績評価の方法 / Evaluation	最終レポート（70%）、小レポート（10%）、授業態度（20%） 最終レポートの課題は、授業で私が話すことや配布プリントに書かれていること、それらに関連することの中から選んでもらうが、詳細は第14週目が第15週目に知らせる。
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	現代社会論 / Contemporary Society		
担当教員(所属) / Instructor	橋本 勝(教育推進センター)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工),3年,4年(人・経・理・工),3年,4年(教育・発達)
時間割コード / Registration Code	101228	対象学年 / Eligible grade	1年,2年,3年,4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	橋本 勝(メール: vhashi@ctg.u-toyama.ac.jp 電話: 076-445-6198 研究室は五福キャンパス共通教育棟B棟4F(A棟のエレベーターを降りて左の突き当り、A棟とB棟は各階とも一体化しています。))		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	橋本 勝(原則として火・水・金の16:45~18:15 (5限が不都合な人はまずメール連絡して下さい。他の日時でも対応可能です。) 逆に出張、会議等で火・水・金の5限でも対応出来ない日もあり得ます。研究室前の掲示で確認して下さい。)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
<p>授業の性質上、月・火の3コマ合計で約250名を受講上限とし、月・火2限については、原則として120名程度を上限とするので、受講希望者は初回の授業に必ず出席して下さい。大幅に希望者数が120名を上回る場合、初回授業の冒頭で公開抽選を行います。(抽選結果は10:45頃には判明します。)もし体調不良などで初回をやむなく欠席した人は翌日までにメール連絡して下さい。抽選は学生番号で行いますから初回を欠席しても2回目から合流できる可能性があります。この連絡が条件です。一方、抽選漏れの場合も、強い受講意志がある場合は特別な救済措置で受講の可能性が残ります。(詳細は初回授業で説明します。)尚、抽選対象は1年生のみで、上級生やオープンクラス生などは原則として希望者全員を受け入れます。</p>			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	(A)多面的な視点から考える能力 (G)コミュニケーション能力と国際感覚の修得	
<p>社会科学の一般的な理論概要を教員が一方的に教えるオーソドックスな講義スタイルとは全く異なり、現代社会の具体的問題について受講生同士の話し合いや質疑応答をメインにする独特の「橋本メソッド」により、「主体的な学び」を体験するとともに「楽しさ」を追究する授業です。過度な負担を避けるライト・アクティブラーニングにより、表面的・表層的な知識ではなく責任ある市民力としての知性を自然に身につけることを目指します。話すことが苦手な人が無理なくコミュニケーション能力を高める授業でもあります。受講者数にもよりますが、通常は3or4人のチームを作りチーム対抗という形になりますので友人との絆を深めることもできますし新しい友人を作ることに役立ちます。現代社会に関する幅広い内容について、みんなで気軽に議論してみましょう。</p>			
達成目標 / Course Goals			
<p>さまざまなテーマの中から自分たちの興味や関心に合わせて、また若干のゲーム的駆け引きにより選んだ2つのテーマに関して、授業外学習として自分たちなりのアプローチを行い、種々の情報源から適切な情報を取捨選択して口頭報告案をまとめる中で、情報収集力、分析力、批判力、表現力、主張力を高めますが、報告自体よりも質疑応答が重視されますから、質疑に対して十分な応答をする作業を通じて、即答力を中心としたコミュニケーション能力を伸ばすことにもなります。但し、そうした面での潜在能力を無理なく発揮させるための工夫が随所になされており、こうした力を自然に引き出します。また、協調性、積極性を高め、ひいては人間性を高めることも目標とします。他の受講生の感性の違いから受ける刺激が多くなることが期待され、知的成長を促進する面もあります。</p>			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
<p>第3回~第13回は2月のシラバス入力段階では参考までに昨年度の設定テーマを仮テーマとして示しておきます。4/11の初回授業で確定テーマを示すとともにその直前にWEB情報としては修正します。可能なら初回授業前に確認して下さい。</p> <p>第1回(4/11)橋本メソッドの説明/チーム結成&amp;テーマ選択  第2回(4/18)プロローグ:橋本メソッド事始め  第3回(4/25)【仮】アベノミクスは上手くいっているのか  第4回(5/9)【仮】原発再稼働問題を考える  第5回(5/16)【仮】富山環境サミットの意義と限界  第6回(5/23)【仮】2020年東京五輪への期待と不安  第7回(5/30)【仮】“世界の日本化現象”をどうみるか  第8回(6/6)【仮】日本語の乱れは変化なのか  第9回(6/13)【仮】日本でのイスラム過激派テロの危険性を探る  第10回(6/20)【仮】TV視聴率の信頼性を考える  第11回(6/27)【仮】富山大学にしかない魅力を探る  第12回(7/4)【仮】リサイクル批判論をどう考えるか  第13回(7/11)【仮】今、富山で大地震が起こったら...  第14回(7/18)現代社会に関する自由エントリー  第15回(7/25)エピローグ:橋本メソッド事納め(最終小試験を含む)</p>			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			

<p>自分達がエントリーする予定の回の事前学習  授業外でチームで集まり、調査や討議を重ねてレジュメ案を作成します。どれだけ時間をかけるかはチーム次第です。尚、発表チームに選抜された場合は、多くの質問に的確に回答するための準備が必要ですが選抜決定から授業までは3日しかないため、レジュメ案作成段階からその準備もある程度しておく必要があります。</p> <p>自分達がエントリーしない回の事前・事後学習  チーム内あるいは友人・知人・家族とそのテーマにつき予め話し合っておくと授業での討議内容が理解しやすくなりますし自然な発言を促します。事後に話し合うのも知性アップに役立ちます。もちろん、事前・事後を問わず、関連文献を読むのも有効です。</p>	
キーワード / Keywords	橋本メソッド、ライト・アクティブラーニング、現代社会、日本、討論、質疑応答、主体的学び、グループワーク、競争原理、知の共有化、ゲーム感覚、相互集団教育力
履修上の注意 / Notices	日本語が使えることが唯一の履修条件です。話すことが好きな人はもちろん、話すことが苦手な人でも気軽に受けられます。社会現象に対して自分なりの意見がある人も逆にそうしたことにはあまり関心を持っていない人も自由に参加して下さい。高校の「現代社会」とは全くイメージが違います。話すだけではなく毎回書く作業（シャトルカード）もありますが、これも気軽に臨めるものです。
教科書・参考書等 / Textbooks	特に使用しません。「橋本メソッド」については、たとえば『学生と変える大学教育』（ナカニシヤ出版、2009）や『学生・職員と創る大学教育』（同、2012）、『学生と楽しむ大学教育』（同、2013）などがありますが購入する必要はありません。本で知るより体験するのが一番です。また、それぞれのテーマに関する参考書は山ほどありますが特定の必読文献はありません。
成績評価の方法 / Evaluation	チームとしての成績が約5割、個人別成績が約5割です。また、平常点が約8割、最終回の小テストが約2割です。詳細は初回及び2回目の授業で配布する補充シラバスの説明書を参照して下さい。
関連科目 / Related course	総合科目特殊講義：新聞投稿に挑戦（後期木曜5限） " 富山から考える震災・復興学（後期火曜5限） また各テーマについての関連科目は教養科目・専門科目にいろいろあるはずですが、
リンク先URL / URL of syllabus or other information	特にありません。
備考 / Notes	約4か月間、チームとして行動することになります。チーム名を自分たちで付けることになり、個性を發揮して良い名前を考えてください。尚、2回目の授業までは変更可能ですが、それ以降は変更できません。

授業科目名(英文名) / Course title	国家と市民 / State and Citizen		
担当教員(所属) / Instructor	秋葉 悦子(経済学部経営法学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)
時間割コード / Registration Code	101229	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours			
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	刑法の基本原則と基本概念の概要を知り、先進医科学技術規制をめぐる問題の在処と議論の状況を把握する。	
<p>1. 刑事法学の視点から、国家と市民に関する現代の問題を取り扱う。</p> <p>2. 最初に法律の基礎と法体系について概説した後、先進科学技術時代における生命の保護をめぐる問題について論ずる。</p> <p>3. 具体的には終末期医療をめぐる問題と、ヒトの細胞の遺伝子操作やヒト胚を対象とする分子生物医学研究、再生医療技術の臨床応用をめぐる問題について考察する。</p>			
達成目標 / Course Goals	<p>日本の法体系の特徴、刑法の基本原則と基本概念、法規制と倫理規制の関係についての概要を知り、先進医科学技術規制をめぐる問題の在処と議論の状況を知る。</p> <p>特に終末期医療のあり方と、ヒトの細胞の遺伝子操作やヒト胚を対象とした分子生物医学研究の規制のあり方は、この30年ほど国際社会で激しく議論され、大きな進展があった。</p> <p>議論の概要を知り、今後の医科学技術規制、特に今後、飛躍的な発展が期待される再生医療技術の臨床応用のあり方について自ら考察することを目指す。</p>		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule	<p>1, 2週 刑事法学の基礎</p> <p>3, 4週 刑事法学と生命倫理学</p> <p>5, 6週 日本の安楽死・尊厳死判決</p> <p>7, 8週 国際社会における議論</p> <p>9, 10週 日本の分子生物医学研究規制</p> <p>11, 12週 国際社会における議論</p> <p>13, 14週 生殖技術の規制</p> <p>15週 まとめ、再生医療の臨床応用の規制に向けて</p>		
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class	<p>講義前に教科書を一読しておくこと。</p> <p>講義後に配付資料を用いて論点を整理しておくこと。</p>		
キーワード / Keywords	刑事法学、生命倫理学、医学倫理学、尊厳死、安楽死、臓器移植法、クローン技術規制法、母体保護法、遺伝子診断、新型出生前診断、iPS細胞、ES細胞、再生医療、優生学、人格の尊厳		
履修上の注意 / Notices			
教科書・参考書等 / Textbooks	秋葉悦子『人格主義生命倫理学 死にゆく者、生まれてくる者、医職の尊厳の尊重に向けて』(創文社、2014年) 小六法(できれば『デイリー六法』三省堂)		
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験による		
関連科目 / Related course			
リンク先URL / URL of syllabus or other information			
備考 / Notes	オフィスアワー 火曜3, 4限		

授業科目名(英文名) / Course title	経済生活と法 / Law and Economy			
担当教員(所属) / Instructor	伊藤 嘉規(経済学部経営法学科)			
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目			
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目	
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)	
時間割コード / Registration Code	101230	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals			
<p>毎日の新聞に税に関する記事が載らないことはない。それくらい税の問題は我々の日常生活に直接的な関わり合いを持っています。税(金)は、社会生活・経済生活のほとんどの場面において深い関係があります。そういった税について定めている税法について講義を行います。</p> <p>税法は、「誰が、どのような場合に、どのような税金を、どれだけ支払わなければならないのか」を定めた法律です。</p> <p>例えば皆さん、コンビニに行って商品を買った時に、本体価格100円の物を買ったら8円の消費税と思って8円を払っているでしょう。この8円って消費税だと思って支払っていますが、本当にそうなのでしょうか？！</p> <p>また皆さん大学に入られたら、バイトに勤しむことになるのかもしれませんが。そのバイトに行って汗水流して働くとバイト料が貰えます。そのバイト料には当然のように税金がかかります。それが一定程度の金額なら、とあるところに行くと返してもらえたりします。それはなぜでしょうか？。どういう仕組みになっているのだろうか？</p> <p>以上のように例を挙げましたが、本講義では、好むと好まざるとに拘らず、皆さんが社会に出てから深く関わり合いを持つ法律である、日本の税法の仕組みの一端を、なるべく実例を挙げながら講義したいと考えております。</p> <p>特に本年度は、後半部分において、皆さまが一番接しているはずの消費税につき、如何に法律上規定されているものと、皆さまが感じているものとの違いがわかるように、重点的に講義を行いたいと考えております。</p>				
達成目標 / Course Goals				
<p>身近な税金の問題や、テレビ等で報道される税金問題等について関心を持ち、日本の税制の仕組みはどうなっているのかを概観出来るようになること。</p> <p>それを踏まえた上で、昨今話題になっている、高齢化社会の到来に伴い必要不可欠とされている、いわゆる「増税論議」の是非について、感情論ではなく理論的に理解出来るようになり、税の観点から、我々の社会生活・経済生活の問題点について、掘り下げて議論できるようにすること。</p>				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule				

第1回	オリエンテーション
第2回	日本の税制の現状、財政の現状、租税の分類、租税負担率、タックスミックスについて理解を深める。
第3回	租税の定義 - 租税の根拠について、おおよそを掴む。
第4回	租税に関する術語 - 課税物件、課税標準等、術語に慣れる。
第5回	租税法主義等、「租税の基本原則」について、おおよそを掴む。
第6回	所得税（その1） - 所得税の計算方法について、おおよそを掴む。
第7回	所得税（その2） - 給与所得とは何か。給与所得控除の意義について、理解を深める。
第8回	所得税（その3） - アルバイトをした場合の課税関係につき、おおよそを掴む。
第9回	相続・贈与税 - 法定相続分課税方式による遺産取得税方式について、理解を深める。
第10回	固定資産税 - 土地に関する税制の概観について、おおよそを掴む。
第11回	消費税（その1） - 多段階付加価値税について、おおよそを掴む。
第12回	消費税（その2） - 益税問題・食料品非課税&ゼロ税率につき、おおよそを掴む。
第13回	間接税等 - 酒税・たばこ税・ガソリン税について、おおよそを掴む。
第14回	国際的な租税回避 - タックスヘイブンについて、おおよそを掴む。
第15回	租税行政の仕組みについて、理解を深める

15回講義を行ったのちに、定期試験を実施します。

また本スケジュールは、あくまでも予定です。皆さんの理解度によっては、第12回以降の講義内容を割愛する可能性があります。少なくとも第12回目に予定している消費税の話までは本講義内容としては行いたいと考えております。すなわち、皆さんの理解度を見ながら、講義のペースを変えるということです。どんなに講義のスペースを遅くしても、第12回目の内容までは進みたいということです。

#### 授業時間外学修（事前・事後学修） / Independent Study Outside of Class

事前学修： 教科書の該当箇所を予習してくる。これが一番大切です。予習してないと、私の話が何を話しているか判らなくなります。本講義では予習が肝要です。

事後学修： 講義後にノート及び教科書を読み見直すこと。講義担当者は「盛りだくさん」話しをする方です。ノート等を見直して判らないところは、講義担当者に速やかに質問すること。

キーワード / Keywords	生活と税金
履修上の注意 / Notices	私語厳禁。PHSや携帯電話の着信音は絶対にならさないこと。  尚、シラバスに記載した内容を十分に納得した上で、本講義はお取り下さい。単位を楽に取得したいと思っている方には本講義は向きません。税法というものは、面白いものなのですが、基本的には難解であるとお考え下さい（その理由は講義中にお話致します）。法学部の中で1・2を争う難しい科目を元に1年生向けに講義します。  あと、指定された教科書は毎回欠かさず持参して下さい。
教科書・参考書等 / Textbooks	金子 宏・清永敬次・宮谷俊胤・畠山武道『税法入門第7版』（有斐閣新書、2016年） ISBN9784641091597を使います。
成績評価の方法 / Evaluation	抜き打ちで何回かに分けてとる質問等を書くリアクションペーパー25% + 学期末テスト75%で、評価致します。
関連科目 / Related course	国家と市民・市民生活と法・日本国憲法  特に市民生活と法を同時に履修なさると理解は深まります。
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	はじめての経済学 / Introduction to Economics			
担当教員(所属) / Instructor	中村 和之(経済学部経済学科)			
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目			
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目	
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	1年(理,工), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)	
時間割コード / Registration Code	101231	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals			
<p>【授業のねらい】授業では、私たちが日々の生活を営んでいる市場経済の機能や役割を理解することを目指します。私たちは、誰に指図されるわけでもなく好き勝手に行動しているにも関わらず、極端な物不足や物余りに直面することなく生活を営んでいます。この当たり前のよう見えて実は不思議なことが実現する仕組みを考えます。一方で、私たちの社会は貧困や環境問題のように誰もが望ましくないと考えているにも関わらず解決が困難な問題を抱えています。この当たり前のことが当たり前にできない原因やその解決方法を考えます。</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】授業の内容は入門レベルのミクロ経済学です。公務員試験や資格試験の受験等に備えて経済学を学ぼうとする人は、この授業を出発点としてさらに専門的な勉強が必要です。</p>				
達成目標 / Course Goals	身の回りのできごとを経済学の理論を用いて独力で分析できるようになること。			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule				

<p>【授業の形式】授業は、教室での講義+受講生による自習、によって進めます。講義にはプリントやスライドを用います。</p> <p>【授業のスケジュール】授業は15回+期末試験を実施します。各回のテーマは下記の通りです。</p> <p>第I部 イン트로ダクション</p> <p>授業の概要：ガイダンス(第1回)の後、経済学の基礎的な考え方を解説します</p> <p>第1回：授業の進め方、経済学の考え方(1)</p> <p>第2回：経済学の考え方(2)</p> <p>必要な準備学習：新聞を読む習慣を身につけておくことと授業に興味を持てると思います。</p> <p>第II部 需要の理論</p> <p>授業の概要：需要曲線をもとに消費者行動を考えます。</p> <p>第3回：消費者のモノやサービス(財と言います)に対する需要を決める要因を考えます</p> <p>第4回：財の消費から得られる便益は需要曲線を用いて表現できることを学びます( )。</p> <p>必要な準備学習：グラフを使って説明するので、その見方に慣れておくことと説明がわかりやすいと思われま</p> <p>第III部 供給の理論</p> <p>授業の概要：供給曲線をもとに生産者行動を考えます</p> <p>第5回：企業の生産活動に影響を与える要因を考えます。</p> <p>第6回：企業が生産活動から得る便益は供給曲線を用いて表現できることを学びます。</p> <p>必要な準備学習：第I部で解説する限界原理を復習しておくことと理解が深まります。</p> <p>第IV部 市場の理論</p> <p>授業の概要：需要曲線と供給曲線をもとに価格メカニズムを通じた資源配分を学びます</p> <p>第7回：財の取引において価格が果たしている役割を学びます。</p> <p>第8回：価格以外の要因が取引量や価格に及ぼす影響を考えます。</p> <p>必要な準備学習：需要の理論と供給の理論が理解できておればこのセクションは容易に理解できます。</p> <p>第V部 市場の効率性</p> <p>授業の概要：価格を通じた資源配分の効率性を考えます</p> <p>第9回：経済活動によって得られる社会的な便益について学びます</p> <p>第10回：価格を媒介とした自由な取引は、一定の条件の下で、経済活動から得られる社会的な便益を最大にすることを学びます。</p> <p>必要な準備学習：第II部と第III部で解説する余剰の概念を復習しておくことと興味深く学ぶことができます。</p> <p>第VI部 完全競争市場における政府介入：</p> <p>授業の概要：市場経済への政府介入が社会的な便益に与える影響を考えます</p> <p>第11回：政府による経済活動への規制が社会的な便益に与える影響を考えます</p> <p>第12回：財に対する課税が家計や企業の行動に与える影響を考えます。</p> <p>必要な準備学習：市場の効率性について理解を深めることがこのセクションの理解に役立ちます。</p> <p>第VII部 市場の失敗</p> <p>授業の概要：市場経済は効率的な資源配分を達成するための優れた仕組みですが万能ではありません。市場における自由な取引が社会的な便益を損ねる例を考えます</p> <p>第13回：正の外部効果と公共財</p> <p>第14回：負の外部効果</p> <p>必要な準備学習：社会的余剰の概念を復習しておくことと理解が深まります。</p> <p>期末試験</p>	
<p>授業時間外学修(事前・事後学修)/Independent Study Outside of Class</p> <p>1回の講義に対して180分程度の自習を前提に内容や進度を設定します。必要に応じて練習問題などを配布予定なので活用してください。</p>	
<p>キーワード/Keywords</p>	<p>価格メカニズム, 市場均衡, 資源配分の効率性, 市場の失敗</p>
<p>履修上の注意/Notices</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の内容は中学や高校の公民で学んだ需要と供給の理論の復習と、これを発展させたものですが、この授業で初めて学ぶであろう事柄も多くあるので侮らないこと。</li> <li>・授業の進捗度は受講生の理解度によって若干の変更があり得ることを承知してください。</li> <li>・この授業は、経済学部で1年生を対象に開講されている「経済学入門」をベースにしています。経済学部生の履修はお勧めできません。</li> </ul>
<p>教科書・参考書等/Textbooks</p>	<p>【教科書】使用しません。</p> <p>【参考書】ミクロ経済学の教科書(何でも良い)があれば理解が深まると思われます。</p> <p>【その他教材】教室での講義資料としてプリントを配布します。自習のために、簡単な練習問題や発展的な問題に対するレポート課題などを提供します。</p>

成績評価の方法 / Evaluation	<p>授業への参加意欲（10%）、宿題(30%)、期末テスト(60%)をカッコ内のウェイトで評価します。</p> <p>【授業への参加意欲】講義に対する質問や感想等をカードに記入して提出してもらいます。</p> <p>【宿題】授業の理解度を確認するため、宿題を課します（期間中数回）。</p> <p>【期末テスト】基礎的な問題と応用問題を概ね50%ずつ出題します。</p> <p>【この授業でよい成績をとるには】(1)問題意識を持ちながら授業に出席すること、(2)復習を中心とした自習を欠かさないこと、(3)発展的な学習のための課題に意欲的に取り組むこと、を勧めます。</p>
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	こころの科学 / Psychology			
担当教員(所属) / Instructor	坪見 博之(人文学部)			
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目			
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目	
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 木/Thu 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)	
時間割コード / Registration Code	101401	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	坪見 博之(htsubomi@hmt.u-toyama.ac.jp 人文学部6階612号室)			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	坪見 博之(月曜12-13時。できれば事前にメールで連絡して下さい。)			
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日			
2回目以降の講義資料はweb上で配布します(Moodle2を使います)。利用方法は1回目の講義で説明します。各自が資料を印刷して下さい。				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals			
心を科学的に理解することは可能なのでしょうか?心の科学という言葉に疑問を持つ人もいます。心理学とはまさに、心をどのように測定できるのかを考えてきた学術分野です。その歴史の中で、私たちの直感とは異なる心の働きが明らかになってきました。私たちは自分の心について様々なことを考え、よく分かっている気がします。しかし、その直感は多くの場合間違っているようです。本講義では、どのように心理学が科学になりうるのか、また何が明らかになってきたのかを紹介し、心理学の基礎を理解し、そのことが科学的事実に基づいた人間観の形成につながることを期待しています。				
達成目標 / Course Goals				
1) 科学的な心理学の歴史や方法について理解する。 2) 心理学が明らかにしてきた心の働きについて理解する。				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule				
下記のように心理学の各領域について講義を行います。カッコ内はトピックの一例です。受講生の理解度や興味により進度を調整することがあります。				
1 オリエンテーション 2-3 心理学の歴史と分野(心は科学的に調べられるのか) 4-5 知覚(見ることはカメラで写真を撮ることとは違うのか) 6-7 学習(なぜ梅干しを想像しただけで唾液が出てくるのか) 8-9 記憶(自転車の乗り方は忘れないが、数式は一日で忘れてしまった) 10-11 発達(氏が育ちか。才能ははじめから与えられているのか) 12 感情(悲しいから泣くのか、泣くから悲しいのか) 13 人格(人の性格は何通りあるのだろうか) 14 社会(1人に助けを求めると100人に助けを求めるとは、どちらが助かるのか) 15 臨床(Aさんは今朝は挨拶してくれなかった。私のことが嫌いになったのだろうか)				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class				
2回目以降は、講義に先立ち資料をweb(Moodle2)に載せておくので予め目を通し、講義後は関連文献を調べつつ資料を復習するようにして下さい。				
キーワード / Keywords	心理学			
履修上の注意 / Notices	一般事項以上の注意はありません。			
教科書・参考書等 / Textbooks	Psychological Science (4th edition) Gazzaniga, Heatherton, & Halpern: Norton & company (ISBN 978-0-393-91157-2) に沿って講義を進めますが、受講生が購入する必要はありません。資料はプリントかwebで配布します(初回の講義で説明します)。また、参考書は講義中に適宜紹介します。			
成績評価の方法 / Evaluation	持ち帰り式のテスト(レポート)によります。10題程度の課題の中から3-4課題に解答してもらいます。そのうち1つは実験参加体験を選択することもできますが、選択肢の1つであり、単位取得のための必須事項ではありません。 評価の観点は以下の通りです。 1) 科学的な心理学の歴史や方法について理解している。 2) 心理学が明らかにしてきた心の働きについて、心理学の概念を用いて、科学的かつ客観的に説明することができる。			
関連科目 / Related course				
リンク先URL / URL of syllabus or other information				



授業科目名(英文名) / Course title	現代と教育 / Present Day and Education				
担当教員(所属) / Instructor	林 衛(人間発達科学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 木/Thu 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年 (経済)		
時間割コード / Registration Code	101402	対象学年 / Eligible grade	1年	単位数 / Credits	2.0
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	林 衛(人間発達2棟3階 hayasci@edu.u-toyama.ac.jp 076-445-6375 (研究室直通) 070-5580-7787 (PHS))				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	林 衛(水曜日2限からお昼休み 木曜日1限からお昼休み(不在の場合もあるので事前連絡・調整希望) そのほかご希望にあわせて予定調整します)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
以下のシラバスは現段階での案であり、一部変更になる可能性があります。 学外での見学、映像資料の活用(ゲストとの討論を含む)を計画中。					
<p>授業者による検討と受講者のリクエストに基づいた新たな授業計画を第1回までに決める計画です。メールあるいは直接研究室訪問によるリクエストも歓迎です。授業者による検討と受講者のリクエストに基づいた最新の授業計画を第1回または2回までに決める計画です。メールあるいは直接研究室訪問(人間発達2棟3階)によるリクエストも歓迎です。</p> <p>メールアドレス: hayasci@edu.u-toyama.ac.jp</p>					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>市民社会における公教育、専門知識の意味や目的、つまりみなさんが小中高から大学での高等教育を受けられる意義が何であるのか、改めて考える機会を提供します。</p> <p>主権者教育のあり方、批判的思考力の育成とその抑制という問題にどう立ち向かうのか、具体例をもとに検討していきます。</p> <p>有権者に判断材料を提供するジャーナリズムの現実についても検討します。</p> <p>新聞や書籍・雑誌といった活字メディア、放送や映画などの映像メディアに加え、それを自由に組み合わせたインターネットといった新しいメディアが登場しているなか、現実のメディアがどのようにつくられ、どのような特徴をもつのでしょうか。</p> <p>授業には、討論を採り入れます。受講者は、現在や過去の教育問題やメディアについて調、講義のなかで発表したり、レポートをまとめていき、それをもとに、さらに講義の議論を進めていく双方向性をとくに重視したいと考えています。</p>					
達成目標 / Course Goals					
教育の目的論、メディアリテラシーについての事例を検討し、理解を深めるとともに、討論や調査レポートの仕上げ方について体験的に学び、高等教育レベルの基礎的実力を身につける。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福島原発震災後の「大本営発表報道」を読み返す</li> <li>・主権者教育のいま</li> <li>・批判的思考力の育成と抑制</li> <li>・専門知識をもつ意味—森永ヒ素ミルク事件「14年目の訪問」を例に</li> <li>・イタイタイ病は解決したといえるか</li> <li>・東日本大震災大川小学校被災の原因は何か</li> <li>・新聞記事/テレビ番組の裏を読む</li> <li>・科学リテラシーにおけるSFの役割</li> <li>・最終レポート執筆に向けて</li> <li>・科学事件分析1: 旧石器捏造事件(予定)</li> <li>・科学事件分析2: 阪神・淡路大震災からSTAP細胞事件まで</li> <li>・誤報はなぜおこるか</li> <li>・最終レポート発表と議論</li> <li>・市民社会のためのメディアリテラシーの条件(まとめ)</li> </ul>					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
授業時の議論を参考に、実際のメディアの探索、分析を各自に取り組んでもらうようにします。					
キーワード / Keywords	公教育・高等教育の目的論、批判的思考力、科学リテラシー、メディアリテラシー、福島原発震災、市民社会メディア論、有権者教育、公正中立、レポートの書き方				
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	<p>新藤宗幸: 「主権者教育」を問う、岩波ブックレット(2016)</p> <p>古川元晴・船山泰範: 福島原発、裁かれないでいいのか、朝日新書(2015)</p> <p>そのほか、授業時に指示します。上記2点については、受講にあたり各自が入手し、目を通しておいてください(何回かの授業を経て、それを前提として話を進め、発言や討論、ワークシート記入を求めます)。</p>				

成績評価の方法 / Evaluation	<p>授業の内容と新規の調査に基づいたレポートと討論への参加の度合いによる。</p> <p>レポートは複数回（予備レポートと最終レポート）提出を求める予定です。提出後に添削，コメントを付記したうえで返却し，改訂を求めることもあります，それによって完成度が高まれば最終的な評価も高まります。</p> <p>楽に単位がほしい学生さんには，あまりお勧めできません。成績評価方法詳細は，以下のとおりです。</p> <p>＝ ＝ ＝</p> <p>授業参加度合い（発言，ワークシート記入，予備レポート）5割，最終レポート5割によって，授業目標の達成度に応じて評価する。授業参加度合いだけでも，最終レポートだけでも合格はせず，日常の授業に準備をした上での積極的な参加の積み重ねと，その成果をいかしたレポート執筆が求められる。ただし，予備レポートの大目標は最終レポート執筆にあるので，段階的に提出を求めた予備レポートの評価点の全体に占める割合を増やし，最終レポートの割合を増やしたほうが学習者にとっても望ましい場合があるので，その際は授業時に授業者が評価割合の変更を提案する。</p> <p>＝ ＝ ＝</p>
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	地球と環境 / The Earth and Its Environment		
担当教員(所属) / Instructor	石崎 泰男(理学部地球科学科)		
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目		
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	地域志向科目	授業種別 / Type of class	講義科目
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 木/Thu 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)
時間割コード / Registration Code	101403	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年 単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	石崎 泰男(理学部A307号室 ishizaki@sci.u-toyama.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	石崎 泰男(火曜午前10~12時)		
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日		
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals		
<p>現在, 私たちは, 地球規模での環境破壊やエネルギー資源の枯渇など, 人類の存続に関わる大きな問題に直面している。これらの問題に人類が立ち向かうとき, 私たちの住む地球についての地球科学的な理解と基礎知識、地球をミクロ(ローカル)に見ると同時にマクロ(グローバル)にとらえる広い視点が必要となる。このような観点から, 地球科学にふれる機会の乏しい経済学部の学生に対して, 火山とマグマを主要なキーワードとして, (1)地球とそのシステムについての固体地球科学の基礎知識、(2)富山県の唯一の活火山である弥陀ヶ原火山を題材とし、火山防災・減災と取組と現在地下で進行しつつある諸現象解明を目指した本学の取り組みについて講義する。</p>			
達成目標 / Course Goals			
<p>火山、火山噴火、火山災害と防災・減災、マグマをキーワードとして、本講義では以下の達成目標を設定する。</p> <p>(1)地球とそのシステムについての地球科学的基礎知識を修得する。</p> <p>(2)地球をミクロ(ローカル)に見ると同時にマクロ(グローバル)にとらえる広い視点を修得する。</p> <p>(3)地球システムにおける人類の位置づけを理解する。</p> <p>(4)自然災害の予測と減災・防災に向けた科学者の取り組みを理解する。</p> <p>(5)一市民として自然災害と向き合うための知識・視点を習得する。</p>			
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス(講義の概要説明)</li> <li>2. 火山とは何か?</li> <li>3. 多様な噴火と火山災害: 御嶽2013年噴火と弥陀ヶ原火山の最近1万年間の噴火史</li> <li>4. 宇宙化学と地球を構成する6大元素</li> <li>5. 地球の内部構造</li> <li>6. 火山とプレートテクトニクス: 弥陀ヶ原火山で見られる火口配列の意味を考える</li> <li>7. 他の天体の火山活動</li> <li>8. マグマの発生</li> <li>9. マグマは変化する</li> <li>10. 史上最大の大量絶滅</li> <li>11. 噴火を予知する: 弥陀ヶ原火山の地下で今何が進行しているのか?</li> <li>12. 火山の恵み</li> <li>13. 火山と気候変動</li> <li>14. これから起こる地殻変動</li> <li>15. 「スーパーボルケーノ」を観る</li> <li>16. 期末試験</li> </ol>			
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class			
<p>事後学修: 講義ノートを読み直し、理解を深めること。その際には、WEBで公開している講義スライドも有効に活用すること。</p> <p>事前学習: 次回講義の内容を参考書を読んで予習しておくこと。</p>			
キーワード / Keywords	地球の構成 プレートテクトニクス 火山 マグマ 災害		
履修上の注意 / Notices	他の受講者の迷惑になるような行為(私語、飲食等)は慎んでください。		
教科書・参考書等 / Textbooks	<p>適時資料を配布します。</p> <p>参考書は以下の2冊です。講義の内容もこの二冊を参考にして組み立てています</p> <p>参考書:          マグマの地球科学: 火山の下で何が起きているのか(鎌田浩毅, 中公新書)(860円+税)          ISBN978-4-12-101978-8</p> <p>地球は火山がつくった(鎌田浩毅, 岩波ジュニア新書)(780円+税) ISBN4-00-500467-9</p>		

成績評価の方法 / Evaluation	<p>期末試験の得点（100点満点）で評価します。</p> <table data-bbox="571 174 858 293"> <tr> <td>80点以上</td> <td>優（A）</td> </tr> <tr> <td>70～79点</td> <td>良（B）</td> </tr> <tr> <td>60～69点</td> <td>可（C）</td> </tr> <tr> <td>60点未満</td> <td>不可（F）</td> </tr> </table>	80点以上	優（A）	70～79点	良（B）	60～69点	可（C）	60点未満	不可（F）
80点以上	優（A）								
70～79点	良（B）								
60～69点	可（C）								
60点未満	不可（F）								
関連科目 / Related course									
リンク先URL / URL of syllabus or other information									
備考 / Notes	<p>講義で用いたパワーポイントの抜粋（PDF化）を10月20日（金）から下記URLに掲載します。講義の復習に用いることを前提とした掲載ですので、2次配布はしないでください。</p> <p><a href="http://www.sci.u-toyama.ac.jp/earth/y_ishizaki/lecture.html">http://www.sci.u-toyama.ac.jp/earth/y_ishizaki/lecture.html</a></p>								

授業科目名(英文名) / Course title	化学物質の世界 / World of Chemical Substances			
担当教員(所属) / Instructor	原 正憲(水素同位体科学研究センター)			
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目			
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目	
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 木/Thu 1	対象所属 / Eligible Faculty	1年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)	
時間割コード / Registration Code	101404	対象学年 / Eligible grade	1年, 2年, 3年, 4年	単位数 / Credits 2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	原 正憲(水素同位体科学研究センター 2階 masahara@ctg.u-toyama.ac.jp)			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	原 正憲(月曜日 10:30-12:30)			
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals			
<p>私たちの身の回りには全て化学物質で出来ています。私たちの体も例外ではなく、タンパク質をはじめとする化学物質で成り立っています。さらに、生物の生理も化学物質により制御されています。</p> <p>全ての身の回りには化学物質なのですが、これらは二つのグループに分けることができます。一つは、自然が作り上げた物質、もう一つは、人間が作り上げた物質です。人為的に作られた物質として、医薬品、合成繊維、様々な金属等々が挙げられます。これら人為的に作られた物質の数々は偶然の産物ではなく人類の知識により作られたものです。そして、現在の文明は多くの人為的な化学物質により支えられています。</p> <p>しかし、化学という学問は地味なものに感じるかもしれません。新聞・テレビに取り上げられるクローン技術やDNAの解析などの生命科学、宇宙はどうしてこのように成ったのかを語る宇宙天文学、過去から未来の地球環境を語る地球科学のような華々しさは化学にはないかもしれません。しかし、我々の生活の面から見ると化学が成し遂げてきたすばらしい成果を見ることが出来ます。例えば、空中窒素固定法によるアンモニアの合成と窒素肥料(これよりどれだけ食料を増産できたことか)、アセチルサリチル酸の鎮痛剤等の医薬品によるつらい症状の緩和(痛みに悩む人々に安息を与えてきたか)、その他にも、プラスチック、合成繊維による軽くて強い素材による快適さ、半導体の製造による情報社会の成立など、化学が成し遂げた成果が人類に大きな影響をもたらした事例はいくつもあげることが出来ます。</p> <p>授業では化学と人類の関わりについて基礎的な化学の知識をもとに考えていきたいと思えます。そして、化学の目で問題を見る素養を身につけてほしいと思えます。</p>				
達成目標 / Course Goals				
<p>現在では、人類が行ってきた様々な化学物質の利用は人間の生活のみならず地球の環境までも変えてしまうほどです。化学物質に関連した様々な出来事が身の回り、あるいは地球規模で起こるかもしれません。その際に、客観的な化学の目で判断できる素養を身につけることを目標とします。</p>				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule				
<p>授業は、以下の項目を順に行う予定です。</p> <p>第01回 オリエンテーション</p> <p>第02回 全ての始まり</p> <p>第03回 原子と分子の世界</p> <p>第04回 地球の大気</p> <p>第05回 地球の地殻</p> <p>第06回 地球の川と海</p> <p>第07回 分子と生命</p> <p>第08回 食物と薬</p> <p>第09回 化学工業-有機系-</p> <p>第10回 化学工業-無機系-</p> <p>第11回 利潤につながる化学</p> <p>第12回 核化学と放射線</p> <p>第13回 原子をつなぐ力 - 化学結合-</p> <p>第14回 エネルギーと化学</p> <p>第15回 化学反応</p>				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class				
<p>授業ごとにテーマがあります。授業でしめした問題点などについて、様々な媒体を利用して調べて考えてください。いくつかのテーマにはレポートを提出してください。</p>				
キーワード / Keywords	化学の歴史、社会と化学、化学物質の合成			
履修上の注意 / Notices	<p>化学の知識ではなく、様々な問題を化学の目でみる力をつけることを目標としています。このため、講義中に受講者からの発言あるいは意見を求めることがあります。意見を求める出席者を把握するため、出席を取ります。</p>			

教科書・参考書等 / Textbooks	<p>教科書はありません。推薦する参考書として以下の本をあげます。</p> <p>(1) アメリカ化学会編，大木道則訳 「ケムコム -社会に生きる化学-」，東京化学同人， ISBN4-8079-0424-8</p> <p>(2) W.G.リチャーズ，赤沼宏史，滋賀陽子訳 「化学のすすめ 身近な生活から宇宙まで」 ，紀伊國屋書店，ISBN4-314-00550-5</p> <p>(3) 芝 哲夫 「化学物語25講 生きるために大切な化学の知識」，化学同人，ISBN4-7598-0776-4</p> <p>(4) 松田勝彦 「商品から学ぶ化学の基礎」，化学同人，ISBN978-4-7598-1436-1</p> <p>(5) 芝原寛泰，後藤景子 「身の回りから見た化学の基礎」，化学同人，ISBN978-4-7598-1292-3</p> <p>(6) 伊藤明夫 「環境・暮らし・いのちのための化学のこころ」，裳華房</p>
成績評価の方法 / Evaluation	授業の間にレポート課題を提示します。成績はレポートにより評価いたします。
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	ロシア語 B (3) / Russian B				
担当教員(所属) / Instructor	武田 昭文(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月 / Mon 2	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	103111	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4 年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	武田 昭文(武田研究室(322)), 電話: 076-445-6190, E-mail: takeda@hmt.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	武田 昭文(月・火 12:30~13:00 メールで事前連絡してから訪問すること)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
1. 初級文法と専門領域で使われるロシア語のあいだのギャップを埋める。 2. これまでに学んだ知識を確かめ、反復しながら進む。 3. ロシア語の多面性に触れる。 前期は、ロシアの学校で習う文章、有名作家が書いた超短編、ロシア文化の伝統等について読みながら、幅広く文法事項を学んでゆく。					
達成目標 / Course Goals					
辞書を使って、多様なジャンルの比較的やさしいロシア語の文章が読めるようになる。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第1回 ガイダンス					
第2回	1 "	" (父親と息子たち)			
第3回	2 "	" (黄金の野原)			
第4回	3 "	" (ソフィア聖堂)			
第5回	4 "	" (宇宙船ヴォストーク)			
第6回	5 "	" (慣性とは何か)			
第7回	文法の確認(1)				
第8回	6 "	" (ハルムス小品)			
第9回	7 "	" (プーニン小品)			
第10回	ハルムス原作のアニメーション『ハーモニウム』				
第11回	8 "	" (スラブ文字のはじまり〔年代記から〕)			
第12回	9 "	" (イエスとバラバ〔聖書から〕)			
第13回	10 "	" (蕪〔民話から〕)			
第14回	文法の確認(2)				
第15回	文法の総合的確認				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
各課の予習・復習を不可欠とする。					
キーワード / Keywords					
履修上の注意 / Notices	ロシア語A既習者を対象とする。				
教科書・参考書等 / Textbooks	『ロシア語、次のステップ』(山崎紀美子・井桁貞義共著、くろしお出版)				
成績評価の方法 / Evaluation	各授業に課される課題の予習状況、授業中における文法事項の理解度、文章読解力、及び日本語への翻訳能力を総合的にみて評価する。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	中国語 B (3) / Chinese B				
担当教員(所属) / Instructor	末岡 宏(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月 / Mon 2	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	103525	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	末岡 宏(研究室：人文学部414号室 メールアドレス：sueoka@hmt.u-toyama.ac.jp Tel 445-6189 研究室に不在のことも多いので、できるだけメールで前もって連絡を下さい。 毎日メールは見ています。返事はPCからのメールでしますので、スマートフォンなどではPCのメールを受けるようにして下さい。)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	末岡 宏(金曜日 10:30-12:00 月曜日 14:30-16:30 )				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
CALLを利用しますので、第1回目の授業時に情報基盤センターから配布された、ID、パスワードを記入した配布物を持参して下さい。					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
一年次の中国語A・AGで修得した中国語をもとに、会話力、表現力、読解力のさらなる向上をを目指します。 CALLシステムを使うことで、ネイティブスピーカーの会話を聞きながら読む、聞く、話すの総合的な中国語運用能力のレベルを向上させます。 CALLシステムを使うことで、各自のレベルに応じた学習をし、ネイティブスピーカーの会話を聞きながら読む、聞く、話す、書くの総合的な中国語運用能力のレベルを向上させる方法を身につけます。					
達成目標 / Course Goals	中級程度の読む、聞く、話すの中国語の運用能力を身につけ使いこなせるようにする。 文章が正しく理解できること。 日常会話力が身につくこと。 中国語の文法を体系的に理解し応用できる。				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					

<p>・授業の形式 中国語Bでは、週に1～2コマの授業を履修することになります。</p> <p>・授業の進め方 第1回 ガイダンス 語学学習ソフトウェア - テストの使い方(1) 中国語運用能力判定(プレテスト) 準4級 第2回 語学学習ソフトウェア各ユニットの使い方 第3回 あいさつ 第4回 自己紹介 第5回 飲食店 第6回 交通機関 第7回 観光地 第8回 中間まとめ(ミニテスト) 中国語運用能力判定 4級 第9回 ホテル 第10回 デパート・ショッピング 第11回 留学 第12回 学校 第13回 電話 第14回 会社 第15回 まとめ(ミニテスト) 中国語運用能力判定 3級</p> <p>基本的な会話文の理解と発音練習・例文を中心とした文法の解説・ヒアリング・表現の練習のサイクルを繰り返し行います。発音を完全にマスターし、なおかつ聴いて理解できるようになるには、授業以外の時間にも繰り返し練習しなければ不可能です。音声教材などを有効に利用して練習を繰り返してください。 言葉の文化的背景である中国社会の諸相を幅広く視野に納め、中国文化をより身近なものにするよう工夫し、必要に応じて中国の映画などビデオ教材も利用する予定です。</p>	
<p>授業時間外学修(事前・事後学修)/Independent Study Outside of Class</p> <p>中国語の運用能力を向上させる授業ですから授業時間程度の予復習は必須です。予習・復習の仕方は授業中に指示します。</p>	
キーワード/Keywords	外国語 中国語 コミュニケーション
履修上の注意/Notices	辞書は必要なので、後の参考書・辞書にあげる辞書のうち一つを必ず買うこと。 開講時間が変更になる場合があるので、掲示・連絡に注意してください。
教科書・参考書等/Textbooks	教材はCALL教材・eラーニング教材を使いますので、教科書はいりません。 辞書 「中日辞典」(小学館) 「現代中国語辞典」(光生館) 「中国語辞典」(白水社) 「中日辞典」(講談社) 「クラウン中日辞典」(三省堂) 「東方中国語辞典」(東方書店) ・「中日辞典」を収録した各種電子辞書もお薦めします。 参考書 守谷宏則「やさしくくわしい中国文法の基礎」(東方書店) 相原茂・石田知子・戸沼市子「Why?にこたえるはじめての中国語の文法書」(同学社) 語学学習ソフトウェア(アルク・ネットアカデミー2)「中国語コース」 ヘルンシステムのアカウントでログインできます。自学自習に役立ててください。 富山大学トップページ(在学生タブ)の語学学習ソフトウェアのリンク又は下記のアドレスからアクセスできます。 <a href="http://www.u-toyama.ac.jp/jp/for/student/alc_net2.html">http://www.u-toyama.ac.jp/jp/for/student/alc_net2.html</a>
成績評価の方法/Evaluation	授業中の小テスト50% 期末まとめ50%
関連科目/Related course	外国語演習(中国語)・中国語コミュニケーション 人文学部
リンク先URL /URL of syllabus or other information	
備考/Notes	中国語教務担当教員・福田(教養教育院)に問い合わせてください。なお授業の欠席等は、直接担当教員に連絡してください。 連絡先 fukuda@ctg.u-toyama.ac.jp 076-445-6293

授業科目名(英文名) / Course title	朝鮮語 B (3) / Korean B				
担当教員(所属) / Instructor	和田 とも美(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月 / Mon 2	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	103112	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	和田 とも美(twada@hmt.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	和田 とも美(木曜 12時半から 13時半)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
この朝鮮語 B では、朝鮮語 A で修得した基礎力を基に、聴解能力を高めます。 朝鮮語学習歴2年目以上の学生を対象とします。					
達成目標 / Course Goals					
比較的単純な構造の文章からなる朝鮮語を聞き、それをハングルで書き取ることができるようにする。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
朝鮮語による視聴覚資料を使用して、朝鮮語をハングルで書き取る練習を積み重ねます。 書き取った内容に文法的解説を加えて、意味を理解できるようにします。					
1. 韓国のソーシャル放送を通じて、各地域の現在を視聴する。 2. そこで語られている対話をハングルで書きとる。 3. 文法を理解し、意味を理解する。					
以上の作業を毎回繰り返して語学力を高めます。					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
授業前に資料を試聴して大意を把握する。 授業後に聴解できなかったところを復習する。					
キーワード / Keywords	韓国, 朝鮮, 朝鮮語				
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	講義時に指示します。				
成績評価の方法 / Evaluation	講義時に口頭で理解度の確認をして評価する。				
関連科目 / Related course	朝鮮語コミュニケーション(会話)				
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	ラテン語 B 3 / Latin B				
担当教員(所属) / Instructor	佐藤 真基子 (教養教育院)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 2	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	103113	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	初級ラテン語文法の前半を身につけるとともに、西欧の文化的基礎に親しむこと。			
<p>4期に開講するラテン語B4とあわせて、西欧の古典語であるラテン語文法の基礎を身につけることをめざします。西欧の言語の歴史において、イタリア語、スペイン語、フランス語など、いわゆるロマンス語系諸言語の母体となったラテン語は、長い間、西欧の学問に共通の言語として使用されてきました。さらに、植物や動物の学名にも使われ、英単語や英語表現のなかにも、ラテン語に由来するものが数多く含まれています。したがって、ラテン語文法の学習は、自然科学を研究するひとにも、西欧の歴史や文学、言語を研究するひとにも、それぞれの研究において大いに力となります。</p>					
達成目標 / Course Goals					
初級ラテン語文法の前半を身につけるとともに、英語やフランス語などの西欧の近代語を学ぶうえで有益な、最も基本的な知識や、学名を理解するために必要な基礎的な知識を習得すること。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第1回目の授業では、ラテン語の学習を始めるにあたって必要な基礎的知識と、授業についてのガイダンスを行います。第2回目から、全29課からなる教科書を用いて、毎回1課ずつ、第14課まで学習します。毎回、文法事項の要点を説明したうえで、各章の末尾の練習問題を宿題として課し、次回にいていねいに解答するというやりかたで、授業を進めていきます。また、時間の余裕があれば、何回か小テストを行います。					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
事前学修: 毎回、教科書で次に学習する課の内容を読んでおくこと。 事後学修: 各回学習した内容を復習するとともに、練習問題に取り組むこと。					
キーワード / Keywords	ラテン語、ラテン語初歩、ラテン語文法				
履修上の注意 / Notices	受講者は、予習として教科書の新しく進む章にあらかじめ目を通して授業に臨み、授業が終わったら、学び終わった章について十分に復習しながら章末の練習問題を解き、その上で次回の授業に臨んでください。				
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: 土岐健治・井阪民子『楽しいラテン語』(教文館) 推薦図書、他の参考書については、授業の中で紹介します。				
成績評価の方法 / Evaluation	宿題の達成状況ならびに小テストの結果に基づいて評価します。				
関連科目 / Related course	ラテン語 B 4				
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	英語 B (3) / English B				
担当教員(所属) / Instructor	結城 史郎(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月 / Mon 4	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	103121	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	結城 史郎(授業時に連絡の取り方を提示いたします。)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	結城 史郎( 前期: 金曜日 12:00 - 13:00 後期: 金曜日 12:00 - 13:00 この時間以外で面談を希望する場合、事前に連絡をください。)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
社会的・文化的・科学技術的トピックを扱った英語情報を理解するための基盤の確立と、英語コミュニケーションに積極的に参加するための基本的な発信能力の強化を目指し、異文化理解を深めつつ、グローバル化する社会に対応しうる英語力を養う。					
達成目標 / Course Goals					
(1) 大学生レベルの英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 (2) 平易な英語を用いて大学生にふさわしい内容の情報発信をすることができる。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
第1回	オリエンテーション、座席を固定				
第2回	Unit 1. The Woman in the Picture				
第3回	Unit 2. Back to Titanic				
第4回	Unit 3. Leaving Port				
第5回	Unit 4. Don't Do It				
第6回	Unit 5. Do You Love Him?				
第7回	Unit 6. I Can't See You				
第8回	Unit 7. I'm Flying!				
第9回	Unit 8. Iceberg Right Ahead!				
第10回	Unit 9. An Honest Thief				
第11回	Unit 10. Goodbye, Mother				
第12回	Unit 11. Get in the Boat				
第13回	Unit 12. Two Tragic Bullets				
第14回	Unit 13. Promise Me				
第15回	期末試験: 授業で扱ってきたことを総復習				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
これまで触れたことのない単語、フレーズ、さらに、口語表現は必ず身に付けてください。					
キーワード / Keywords	結城、英語B				
履修上の注意 / Notices	やむを得ない理由で欠席する場合はできるだけ早く、あらかじめわかっている場合はその授業前までに、メールで連絡してください。 返信を必ず送りますので確認しておいてください。 「件名」には自分の氏名、学生記番号を必ず記入してください。				
教科書・参考書等 / Textbooks	Learn English with TITANIC (成美堂、2016年) その他、プリント配布				
成績評価の方法 / Evaluation	発表・課題・受講態度などで60%、期末試験で40%とする。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					



授業科目名(英文名) / Course title	ドイツ語 B (3) / German B				
担当教員(所属) / Instructor	阿部 美規(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 月/Mon 4	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	103122	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	阿部 美規(yoshiabe@hmt.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	阿部 美規(前期:木曜13:00-14:00,後期:木曜15:00-16:00)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals	辞書を用いながら、日常的なドイツ語で書かれたテキストの要点を正しくつかむことができる。			
ドイツ語中級講読・会話					
達成目標 / Course Goals	辞書を用いながら、日常的なドイツ語で書かれたテキストの要点を正しくつかむことができる。日常会話レベルの表現を理解でき、また自らも用いることができる。				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule	<p>授業の形式： 初級ドイツ語を履修済みの人を対象としたドイツ語中級講読の授業を行います。授業では、ドイツ語で書かれたテキストをたっぴりと時間をかけて丁寧に読むことを通して、初級授業で習得した文法事項・語彙の再確認を行いつつ、より高度な文法事項についても理解を深め、習得語彙も増やして読解力を向上させていきたいと思ひます。</p> <p>スケジュール(ドイツ語は各回に読むテキストのタイトルです)： 第1回 オリエンテーション 第2回 ヒトラーの『わが闘争』がベストセラーに(1) 第3回 ヒトラーの『わが闘争』がベストセラーに(2) 第4回 ヒトラーの『わが闘争』がベストセラーに(3) 第5回 フォルクスワーゲン社の燃費偽装(1) 第6回 フォルクスワーゲン社の燃費偽装(2) 第7回 フォルクスワーゲン社の燃費偽装(3) 第8回 第2回から第7回のまとめ 第9回 イギリスのEU離脱について(1) 第10回 イギリスのEU離脱について(2) 第11回 イギリスのEU離脱について(3) 第12回 難民問題に揺れるドイツ(1) 第13回 難民問題に揺れるドイツ(2) 第14回 難民問題に揺れるドイツ(3) 第15回 第9回から第14回のまとめ</p>				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class	<p>各回の授業で扱うテキストを事前にきちんと音読してください(スラスラと読めるようになるまで)。 テキスト中の単語や熟語など、知らない表現は辞書をきちんと引いて調べておいてください。 わからないところがあれば、何がわからなかったのか、的確に質問できるようにメモを取るなどしておいてください。</p>				
キーワード / Keywords	ドイツ語 中級 講読 会話				
履修上の注意 / Notices	<p>全学部向けの、2年生以上を対象とした授業です。自らの専門分野でドイツ語が必要(になりそう)な人はもちろん、1年生のときに学んだドイツ語に更に磨きをかけたい人、せっかく学んだドイツ語を忘れてしまいたくない人など、積極的にドイツ語を学ぼうとする人の受講を歓迎します。</p>				
教科書・参考書等 / Textbooks	<p>アンドレア・ラブ他『時事ドイツ語2017年度版』(朝日出版社、1900円+税) (A5版サイズ(=A4用紙の半分の大さ)の教科書で、黒赤黄の表紙に、Neuigkeiten aus Deutschland 2015/16と書いてあるものです。2015/16年に報じられたドイツ語圏のニュースをまとめ、教科書として2017年に出版したものです。教科書の日本語タイトルとドイツ語タイトルとで西暦年が異なっていますので、よく確認して買い求めてください)</p>				
成績評価の方法 / Evaluation	平常点(授業での発表)50%と期末テスト50%				
関連科目 / Related course					

リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業科目名(英文名) / Course title	中国語 B (3) / Chinese B				
担当教員(所属) / Instructor	末岡 宏(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 4	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	103225	対象学年 / Eligible grade	2年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	末岡 宏(研究室：人文学部414号室 メールアドレス：sueoka@hmt.u-toyama.ac.jp Tel 445-6189 研究室に不在のことも多いので、できるだけメールで前もって連絡を下さい。 毎日メールは見ています。返事はPCからのメールでしますので、スマートフォンなどではPCのメールを受けるようにして下さい。)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	末岡 宏(金曜日 10:30-12:00 月曜日 14:30-16:30 )				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
CALLを利用しますので、第1回目の授業時に情報基盤センターから配布された、ID、パスワードを記入した配布物を持参して下さい。 台湾・中国の実習に参加する人は是非履修して下さい。					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
<p>一年次の中国語A・AGで修得した中国語をもとに、会話力、表現力、読解力のさらなる向上を目指します。 CALLシステムを使うことで、ネイティブスピーカーの会話を聞きながら読む、聞く、話すの総合的な中国語運用能力のレベルを向上させます。 CALLシステムを使うことで、各自のレベルに応じた学習をし、ネイティブスピーカーの会話を聞きながら読む、聞く、話す、書くの総合的な中国語運用能力のレベルを向上させる方法を身につけます。 教材の会話の内容は、ごく簡単で普段話す日常会話から始めますので、夏休みの台湾語学研修をはじめ、中国・台湾に行きたい人を対象にしています。 受講生のレベルに応じてより高度なレベルまでやりますので、中国留学からかえって来た人も参加できます。</p>					
達成目標 / Course Goals					
<p>中級程度の読む、聞く、話すの中国語の運用能力を身につけ使いこなせるようにする。 文章が正しく理解できること。 日常会話力が身につくこと。 中国語の文法を体系的に理解し応用できる。</p>					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					

<p>・授業の形式 中国語Bでは、週に1～2コマの授業を履修することになります。</p> <p>・授業の進め方 第1回 ガイダンス 語学学習ソフトウェア - テストの使い方(1) 中国語運用能力判定(プレテスト) 準4級 第2回 語学学習ソフトウェア各ユニットの使い方 第3回 あいさつ 第4回 自己紹介 第5回 飲食店 第6回 交通機関 第7回 観光地 第8回 中間まとめ(ミニテスト) 中国語運用能力判定 4級 第9回 ホテル 第10回 デパート・ショップ 第11回 留学 第12回 学校 第13回 電話 第14回 会社 第15回 まとめ(ミニテスト) 中国語運用能力判定 3級 基本的な会話文の理解と発音練習・例文を中心とした文法の解説・ヒアリング・表現の練習のサイクルを繰り返し行います。発音を完全にマスターし、なおかつ聴いて理解できるようになるには、授業以外の時間にも繰り返し練習しなければ不可能です。音声教材などを有効に利用して練習を繰り返してください。 言葉の文化的背景である中国社会の諸相を幅広く視野に納め、中国文化をより身近なものにするよう工夫し、必要に応じて中国の映画などビデオ教材も利用する予定です。</p>	
<p>授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class</p> <p>中国語の運用能力を向上させる授業ですから授業時間程度の予復習は必須です。予習・復習の仕方は授業中に指示します。</p>	
<p>キーワード / Keywords</p>	<p>外国語 中国語 コミュニケーション</p>
<p>履修上の注意 / Notices</p>	<p>辞書は必要なので、後の参考書・辞書にあげる辞書のうち一つを必ず買うこと。 開講時間が変更になる場合があるので、掲示・連絡に注意してください。</p>
<p>教科書・参考書等 / Textbooks</p>	<p>教材はCALL教材・eラーニング教材を使いますので、教科書はいりません。 辞書 「中日辞典」(小学館) 「現代中国語辞典」(光生館) 「中国語辞典」(白水社) 「中日辞典」(講談社) 「クラウン中日辞典」(三省堂) 「東方中国語辞典」(東方書店) ・「中日辞典」を収録した各種電子辞書もお薦めします。 参考書 守谷宏則「やさしくくわしい中国文法の基礎」(東方書店) 相原茂・石田知子・戸沼市子「Why?にこたえるはじめての中国語の文法書」(同学社) 語学学習ソフトウェア(アルク・ネットアカデミー2)「中国語コース」 ヘルンシステムのアカウントでログインできます。自学自習に役立ててください。 富山大学トップページ(在学生タブ)の語学学習ソフトウェアのリンク又は下記のアドレスからアクセスできます。 <a href="http://www.u-toyama.ac.jp/jp/for/student/alc_net2.html">http://www.u-toyama.ac.jp/jp/for/student/alc_net2.html</a></p>
<p>成績評価の方法 / Evaluation</p>	<p>授業中の小テスト50% 期末まとめ50%</p>
<p>関連科目 / Related course</p>	<p>外国語演習(中国語)・中国語コミュニケーション 人文学部</p>
<p>リンク先URL / URL of syllabus or other information</p>	
<p>備考 / Notes</p>	<p>中国語教務担当教員・福田(教養教育院)に問い合わせてください。なお授業の欠席等は、直接担当教員に連絡してください。 連絡先 <a href="mailto:fukuda@ctg.u-toyama.ac.jp">fukuda@ctg.u-toyama.ac.jp</a> 076-445-6293</p>

授業科目名(英文名) / Course title	ドイツ語 B (3) / German B				
担当教員(所属) / Instructor	Wolfgang Zoubek(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 水/Wed 4	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	103305	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4 年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	Wolfgang Zoubek(zoubek@hmt.u-toyama.ac.jp 研究室：人文学部4階)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
会話と作文の基礎力を高め、ビデオ、CD、新聞を使ってロールプレイを授業に取り入れ、言語に関する文化や考え方の違いを理解する。					
達成目標 / Course Goals					
1. 会話と作文の基礎を確固たるものとする 2. 文化の違いを理解する					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
各受講生の理解を考慮して柔軟なスケジュールを組みたいと思っている。					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
毎回宿題を出すので、必ずやって次の授業に臨むこと。					
キーワード / Keywords	ドイツ語 外国語 会話 作文 異文化理解				
履修上の注意 / Notices	ドイツ語の基礎を学んだ者				
教科書・参考書等 / Textbooks	佐藤修子ほか『Szenen 1 integriert CD付きスツェーン1：場面で学ぶドイツ語』三修社				
成績評価の方法 / Evaluation	中間試験、期末試験、受講の態度				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	英語 B (3) / English B				
担当教員(所属) / Instructor	山岸 倫子(教養教育院)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 木/Thu 4	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	103421	対象学年 / Eligible grade	2年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
他者と実りあるコミュニケーションをとりたいと思うとき、技術的な言語運用能力を有しているだけではなく、論理的な思考能力と表現能力を備えていることが大切です。本授業では、Academic WritingとEnglish Presentationの活動(ペアもしくはグループでの活動が中心)を通して、単なる「書く」「話す」能力ではなく、論理的な情報発信能力を養います。					
達成目標 / Course Goals					
英語を使用し、論理的な情報発信が出来るようになる。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
1 . ガイダンス & Academic Writing 1 2 . Academic Writing 2 3 . Academic Writing 3 4 . Academic Writing 4 5 . Academic Writing 5 6 . Academic Writing 6 7 . Academic Writing 7 8 . 英語の勉強の仕方 1 9 . 英語の勉強の仕方 2 10 . English Presentation 1 11 . English Presentation 2 12 . English Presentation 3 13 . English Presentation 4 14 . English Presentation 5 15 . English Presentation 6					
(授業の進度等は、履修者数に応じて変更する場合があります。)					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
作文やプレゼンテーション準備等の活動が授業時間内に終わらなかった場合、個人もしくはグループで、授業時間外に作業をしてきてもらいます。					
キーワード / Keywords					
履修上の注意 / Notices	(1) 欠席が4回に達した時点で「評価対象外」とします。 (2) ペアもしくはグループワークを中心に授業を行いますので、積極的にディスカッションやグループワークに参加してください。参加が不十分であると教員が判断した場合は、減点対象となります。 (3) 初回の授業から、辞書を必ず持参してください。				
教科書・参考書等 / Textbooks	教場で配付する。				
成績評価の方法 / Evaluation	Academic Writing 50%、English Presentation 50%				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	ロシア語 B (3) / Russian B				
担当教員(所属) / Instructor	カザケーヴィチ マルガリータ アレクサンドロヴナ(人文学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 金 / Fri 3	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	103521	対象学年 / Eligible grade	2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	1単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	カザケーヴィチ マルガリータ アレクサンドロヴナ (margaritak22@gmail.com margarit@hmt.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	カザケーヴィチ マルガリータ アレクサンドロヴナ( (木) 16:15 - 17:45)				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
達成目標 / Course Goals	1. 2. 3.				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. ?				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
キーワード / Keywords					
履修上の注意 / Notices					
教科書・参考書等 / Textbooks	1. ( ) 2. ( )				
成績評価の方法 / Evaluation					
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					

授業科目名(英文名) / Course title	フランス語 B (3) / French B			
担当教員(所属) / Instructor	梅澤礼 (人文学部)			
授業科目区分 / Category	教養教育科目 共通基礎科目			
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	演習科目	
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 金/Fri 4	対象所属 / Eligible Faculty	人文学部、人間発達科学部、理学部、工学部、経済学部	
時間割コード / Registration Code	103524	対象学年 / Eligible grade	2年	単位数 / Credits 1.0
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours				
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日			
フランス語の初級文法(学習したところまで)を復習しておくように。: 2月14日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals			
フランス語の初級を終えて、もっとフランス語を学びたくなった人のために。 フランス語で書かれたやさしい文章を読みながら、過去形や未来形といった初級～中級文法を学びます。 毎回2ページほどの長文ですが、意外と簡単に理解できて驚くかもしれません。 語彙や表現も増えますし、フランスの地理や文化を説明した教材を使うので、きっともっとフランスが好きになるはずです。				
達成目標 / Course Goals				
1. 初級～中級文法を定着させることができる。 2. 長文読解に慣れることができる。 3. 語彙や表現を増やすことができる。 4. フランスの地理や文化を学ぶことができる。				
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule				
第1回 インTRODクシヨン、複合過去 第2回 フランスは六角形 第3回 形容詞の比較級と最上級 第4回 ブルターニュの地理 第5回 ブルターニュの食と観光 第6回 関係代名詞 第7回 ノルマンディーの地理 第8回 ノルマンディーの食と観光 第9回 受動態 第10回 フランス北部の地理 第11回 フランス北部の食と観光 第12回 国名、冠詞、前置詞 第13回 フランス東部の食と観光 第14回 フランス東部の食と観光 第15回 到達度認証試験、解説				
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class				
事前学習として、既習事項のおさらいを毎回2時間くらいは行ってください。また、第2回以降は前回の学習内容をよく消化できるよう復習に努めてください。				
キーワード / Keywords	フランス語中級文法、フランス語読解、フランスの地理 フランスの文化			
履修上の注意 / Notices	これまでに学んだ初級文法を復習しておきましょう。 宿題はそれほど出さないつもりですが、授業中はしっかりノートを取って、復習に力を入れるようにしましょう。			
教科書・参考書等 / Textbooks	Fabienne Guillemin 『フランス、地方を巡る旅』、駿河台出版社、ISBN978-4-411-01352-1 C1085 辞書(紙のものでも電子辞書でも可)			
成績評価の方法 / Evaluation	出席および平常点50%、到達度認証試験50%			
関連科目 / Related course				
リンク先URL / URL of syllabus or other information				
備考 / Notes				

授業科目名(英文名) / Course title	美術 / Fine Art				
担当教員(所属) / Instructor	鼓 みどり(人間発達科学部)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 教養科目				
COC + 科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2017年度 / Academic Year 前期 火/Tue 2	対象所属 / Eligible Faculty	2年(理,工), 2年(発達), 2年(経済), 3年, 4年(人・経・理・工), 3年, 4年(教育・発達)		
時間割コード / Registration Code	103218	対象学年 / Eligible grade	2年, 3年, 4年	単位数 / Credits	2単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
世界遺産となっているヨーロッパ中世美術の史跡を紹介し、ヨーロッパ文化の基層を理解する。					
達成目標 / Course Goals					
ヨーロッパ中世美術に触れ、各地の風土やキリスト教図像、歴史的背景などを理解する。世界遺産伸す方を知り、文化遺産を守り伝える意識を持つ。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
ヨーロッパ中世美術に触れ、各地の風土やキリスト教図像、歴史的背景などを理解する。世界遺産伸す方を知り、文化遺産を守り伝える意識を持つ。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等)					
それぞれの地域や時代背景についての講義と様々な美術技法についての説明。画像とビデオを使って、より臨場感のある紹介を行う。今回紹介する場所はすべて探訪しているので、観光的な情報も合わせて紹介する。					
1 4月11日 はじめに ヨーロッパ文明とは					
2 4月18日 ポンペイ					
3 4月25日 ピアッツァ・アルメリーナ					
4 5月9日 チュニジアとトルコ					
5 5月16日 古代末期から初期キリスト教時代のローマ					
6 5月23日 ラヴェンナ					
7 5月30日 イスタンブール					
8 6月6日 カップアドキア					
9 6月13日 ミュスタイアと初期中世の壁画					
10 6月20日 フランス ブルゴーニュ地方のロマネスク美術					
11 6月27日 フランス巡礼路 コンク、ル・ピュイ					
12 7月4日 スペインのロマネスク 巡礼路とカタルーニャ					
13 7月11日 バレレルモ					
14 7月18日 シャルトルとブルジュユのステンドグラス					
15 7月25日 ヴェネツィア					
16 8月1日 試験					
授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class					
テレビや雑誌で紹介される文化遺産に関心を持つ。実際に訪れてみたい史跡について、情報を集める。					
キーワード / Keywords	ヨーロッパ中世、キリスト教、モザイク、壁画、彫刻、ステンドグラス				
履修上の注意 / Notices	美術を学ぶ上で、作品を丹念に見ることが非常に重要です。講義中投影する画像や映像を、きちんと見て視覚的に記憶して下さい。				
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は使用しない。				
成績評価の方法 / Evaluation	各時間に課題を行い、その結果を集計し評価する。最終試験(選択)。課題(90%)試験(10%) 得点が90%以上を秀、80~89%を優、70~79%を良、60~69%を可、59%以下を不可とする。				
関連科目 / Related course					
リンク先URL / URL of syllabus or other information					
備考 / Notes					